第58回　全道造形教育研究大会　いしかり 北広島大会

豊かな心と確かな力を育む造形教育を！

2008.7.28-29

28日　北広島市立大曲東小学校　大地太陽幼稚園
29日　北広島「夢プラザ」

http://iart.main.jp/

北海道造形教育連盟　　石狩造形教育連盟

「豊かな心と確かな力を育む造形教育を！」

第58回全道造形教育研究大会
いしかり北広島大会

★大会主題（北海道造形教育連盟）

「出会いと対話から自己創造感が生まれる造形教育」

★いしかり北広島大会研究主題

「豊かな心と確かな力を育む造形教育を！」

期日　平成２０（２００８）年７月２８日（月）～２９日（火）

会場　全体会場・小中授業・分科会会場：北広島市立大曲東小学校
幼稚園授業会場　　　　　　：大地太陽幼稚園
ワークショップ・講演会場　：北広島市ふれあい学習センター（夢プラザ）

主催　北海道造形教育連盟　　石狩造形教育連盟
共催　北広島市教育委員会　　石狩管内教育研究会図工美術部会
主管　第５８回全道造形教育研究大会いしかり北広島大会実行委員会
後援　北海道教育委員会　　石狩管内教育研究会
石狩管内小中学校長会　　北広島市幼稚園協会

目　　次

挨　　拶

○大会長（北海道造形教育連盟委員長）　菅　原　清　貴　4

○実行委員長（いしかり北広島大会委員長）　墓　田　充　泰　6

祝　　辞

○北海道教育庁石狩教育局長　宮　内　敏　文　様　7

○北広島市教育委員会教育長　白　崎　三千年　様　8

全道造形教育研究大会いしかり北広島大会

○開会式・閉会式　9

○講演・大会日程・授業者・提言者・助言者・ワークショップ一覧　１０

○会場案内図　１６

○研究概要　北海道造形教育連盟研究部長　湯浅大吾　１９

石狩造形教育研究部長　山崎正明　２４

○授業案集

＜幼稚園・特別支援学級＞

大地太陽幼稚園・大曲東小学校特別支援学級　授業　1

＜小学校・中学校＞

松本圭正・鈴木礼二・佐伯晶宣・中村杏奈・熊谷宏子・西村司・野口裕司・山内菜穂子　授業１７

○提言集

＜幼稚園・特別支援学級＞

三浦真奈美・阿部陽子　提言　1

＜小学校＞

平山一弥・山口浩・宮田珠世・岩崎愛彦・湯浅大吾・土橋直美　提言１７

＜中学校＞

川名義美・大高雅子・佐藤博行・井上哲義・中島圭介・工藤由香　提言６７

＜高等学校＞

松井茂樹　提言127

○資料

・平成２０年度　北海道造形教育連盟名簿　資料　1

・北海道地区サークル名簿　資料　4

・北海道造形教育連盟規約　資料　7

・全道造形教育研究大会開催地及び研究主題一覧　資料　8

・いしかり北広島大会実行委員会名簿　資料１０

「内」を変え「外」に発信する

子どもの数だけ「答え」がある教科は造形教育だけ！～

北海道造形教育連盟
委員長　菅原　清貴
（札幌市立幌西小学校長）

■ 50年100年の「人づくり」の体系を支える造形教育

私達は、子ども一人ひとりが自らの表現に自信をもち、安心して活動を楽しむ造形教育を求めて研究を積み上げてきました。今年度で58年の歴史を刻む当連盟は、子ども達と共に歩んだ創造の道でもあります。

現在造形教育は、残念ながら教育全体に占める比重が低下傾向にあります。その原因は本教育の価値が下がったのではなく、いくつかの「内」と「外」からの解決しなければならない要因によるものです。

内なる要因⇒そこから求められるもの

・今回改訂になった新学習指導要領の「図画工作科における改訂のポイント」(文部科学時報2008.5 奥村高明教科調査官)では、「明確」という言葉が幾度も使われています。一部これまでの造形教育では、「育つ力」を「明確」に仕切れていなかったとの評価からと思われます。「目標に対して、指導する内容を育成すべき資質や能力ごとに整理し…」子ども達が造形教育を通し、豊かな情操を養えたと確信できる「明確」な授業改善が急務です。

外なる要因⇒そこから求められるもの

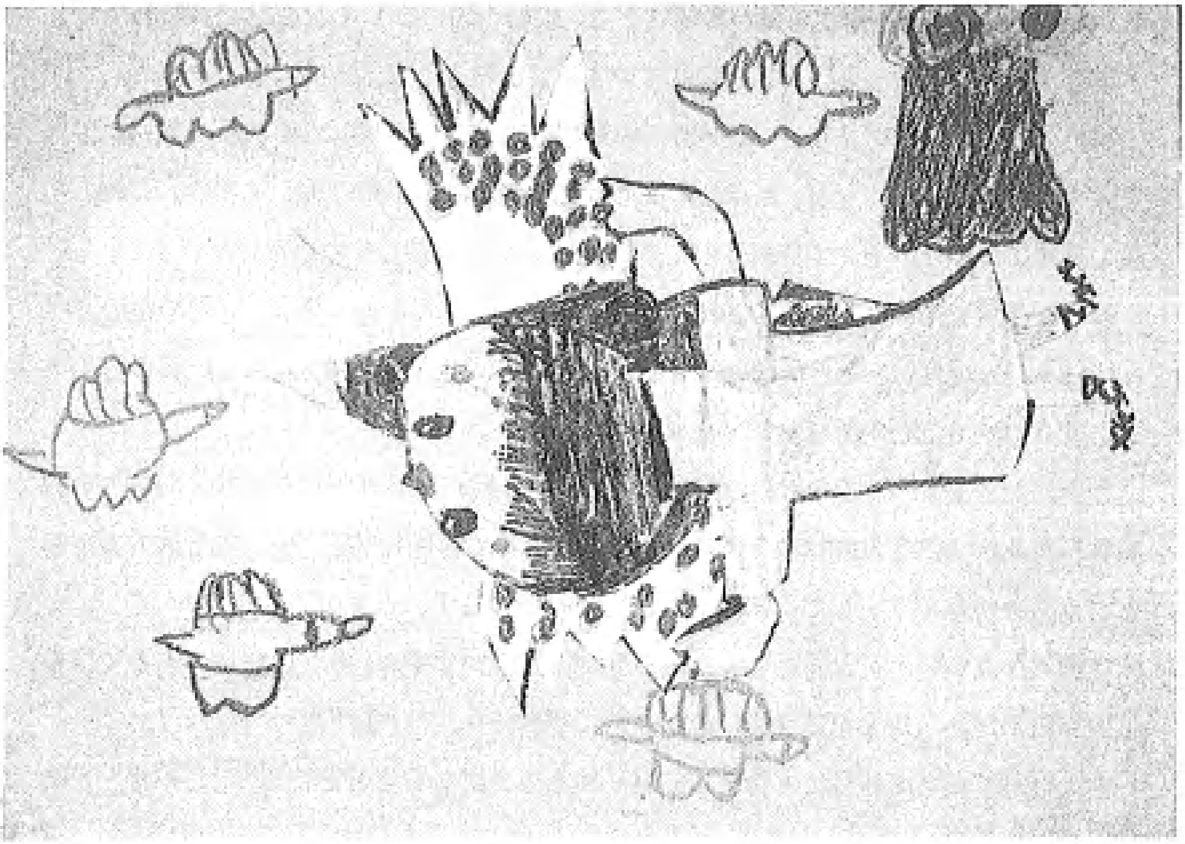
・ＯＥＣＤでは世界の15歳児童を対象に学力（学習到達度）に関して実際にテストを行う調査を３年ごとに行っています。その結果が近年思わしくなく「学力」とくに理数科のリテラシーや読解力向上へ教育界の関心がシフトしています。勢い造形教育は、片隅に追いやられている感があります。わたしは、本当にそれでよいのかと強く疑問に思います。ノーベル経済学賞を受賞したポール・サミュエルソン(マサチューセッツ工科大学名誉教授)は、「戦後、奇跡的な急成長を遂げた日本の原動力は、明治維新以来一貫して注入してきた西洋の模倣です。…これと同じ事を今、中国やインドが日本に仕掛けてきているのです。…新興国の台頭によって模倣者であり続けることはもはやできない。では、どうすべきなのでしょうか。研究開発に注入し独創的な製品やサービスを生み出すことです。」と説いています。

資源の無い我が国が、世界の中で今後いき続けるためには、創造性に富み独創的な製品を生み出すベースが必要です。優れた製品をより魅力的に魅せる「色や形」「自由な発想」「技能」を支える深い美的感覚や創造的な技能が必要になります。目先の「学力」向上も大切です。しかし、50年100年先を見通した「人づくり」の体系がもっと必要なのではないでしょうか。

幼稚園の表現領域・図画工作科・美術は、教科として子ども達の成長に無くてはならぬものであることを外にむかってさらに積極的に発信し、多くの人から共感をいただく必要があります。
そのために、「子どもの数だけこたえのある唯一の教科」として、わたしたちが積み上げてきた実践の価値を十分に理解していただくことです。東芝の西田厚聰社長は、「持続的な成長は不断のイノベーションで」と題した著書の中で「応変力」という言葉を使っています。これは、「変化の意味を理解し、素早く状況の変化に対応し、自分達が変わっていく。応変力なくしてイノベーションはない」と説いています。子ども達が「つくりだす喜びを実感できる授業の改善」を積極的に提案しましょう。社会の変化に対応する、造形教育の「応変力」を私達は今求められています。

■いしかり・北広島大会の役割り

第58回造形教育全道大会は、石狩造形教育連盟が中心となり、準備を進めていただきました。
大会の主役を子どもに置いての取組として、公開授業に参加した子ども達に「メッセージカード」を参観者がその場で書きプレゼントする斬新なアイデアとして実施されます。
子ども達に真心込めてその頑張りを称えるカードは「子どもに寄り添う教科」として素敵な取組です。
また、「造形教育の指導がよくわからない」「造形教育の基礎を学びたい」という切実な要求に、「美術教育支援」という側面ももたせた大会にもなります。
造形教育が現在求められている課題に、正面から取組み回答を導き出す「いしかり大会」は、本連盟の「応変力」の試金石でもあります。ご尽力いただいた関係各位に心より感謝申し上げます。



子どもの喜びにであうために

北広島大会実行委員長
墓田　充泰

全道各地から造形教育に情熱を傾けておられる多くの皆様をお迎えし、第５８回全道造形教育研究大会「いしかり北広島大会」を開催できますことを感謝し、心から歓迎申し上げます。

本大会の研究主題『豊かな心と確かな力を育む造形教育を！』は、我々造形教育に携わる者の想いが込められています。昨今の美術教育を取り巻く環境は、少子化、授業時数の減少、教員を取り巻く状況等々大変厳しいものがあります。とりわけ憂慮するのが、免外で図工・美術を指導する例が多いことで、このことに少しでも役立てることができる大会にしたいと言う願いが込められています。このような基本的な視点のもとに、図工美術の基礎・基本を見直し、新学習指導要領の主旨等も考慮しながら、「教材」の考え方や授業の組み立てなど、原点に返って討議・実践研究を積み重ねて参りました。学校の実態に即して、あえて専門外の先生にも授業や提言をしていただいています。

授業や提言を基に、多くの皆さんの感想や意見・アイディアの交流、日常の指導で困っていることの交流、さらにはワークショップや講演が我々の糧となり、明日からの授業に役立たせることができることを期待しています。

最後になりますが、この大会の開催にあたり、北海道教育庁石狩教育局、北広島市教育委員会及び管内各市町村教育委員会、会場校はじめ関係各機関、多くの皆様のご理解とご協力をいただきましたことに厚くお礼申し上げます。

不慣れな点から不行き届きも多々あろうかとは思いますが、厳しい状況のもとで準備に取り組んできたことをご理解いただき、ご容赦いただければ幸いです。

本大会がご参会の皆様にとりまして実りある大会になることを祈念し、ご挨拶とさせていただきます。

第５８回全道造形教育研究大会いしかり北広島大会の開催を祝して

北海道教育庁石狩教育局長

宮　内　敏　文

第５８回全道造形教育研究大会いしかり北広島大会が、全道各地から多数の先生方の参加を得て、緑が輝き大志が育つ街、北広島市で開催されますことに、心からお祝いを申し上げます。

北海道造形教育連盟におかれましては、長年にわたり、全道各地において研究大会を開催し、授業公開や研究協議をとおして実践の交流を図るとともに、図画工作科・美術科にかかわる諸課題の解決に向けて、組織的・計画的に実践研究を積み重ねるなど、本道における図画工作科・美術科教育の充実・発展に多大な貢献をされており、関係各位の熱意と努力に深く敬意を表する次第であります。

さて、本年３月、学習指導要領の改正が行われ、学校教育においては、「知識基盤社会」において重要となる、「生きる力」を育成するための具体的な手立てを講じることが、一層求められております。

とりわけ、図画工作科・美術科においては、 生活の中の造形や美術の働き、美術文化に関心をもって、生涯にわたり主体的にかかわっていく態度をはぐくむことが課題となっております。

このため、各学校においては、創造性をはぐくむ造形体験の充実を図りながら、形や色などによるコミュニケーションを通して、生活を美しく豊かにする造形や美術の働きを実感させる指導の工夫を図ることが大切であります。

このような折、本研究大会が「豊かな心と確かな力を育む造形教育を！」を研究主題に、幼稚園における幼児が色や形の変化を楽しみながら自分の思いを表したり伝えたりする環境構成の工夫や小・中学校における児童生徒の意欲を引き出し、心を育てる題材の工夫など、図画工作科・美術科の今日的な課題について研究を深められますことは誠に意義深く心強い限りであります。

御参会の皆様には、本大会で示された先導的な取組を全道の各学校における日常実践に積極的に活用されますよう御期待申し上げます。

結びに、貴教育連盟のますますの発展と御参会の皆様方の御健勝、御活躍を祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

第５８回全道造形教育研究大会いしかり北広島大会の成功を願って

北広島市教育委員会　教育長

白　崎　三千年

第５８回全道造形教育研究大会が、全道各地から図画工作・美術教育に携わっておられる多くの先生方をお迎えし、輝く緑、大志が育つ北広島市の地で開催されますことに心からお祝いとご歓迎を申し上げます。

北海道造形教育連盟におかれましては、昭和２５年の発足以来、造形表現に親しみ、豊かな心情をもつ幼児児童生徒の育成を願って研究大会や美術展を開催するなど、実践的な研究に取り組まれ、本道の造形教育の充実・発展に重要な役割を担ってこられましたことに深く敬意を表します。

さて、今日、学校教育においては、改正された教育基本法や学校教育法などを踏まえ、「確かな学力、豊かな心、健やかな体」を柱とした「生きる力」の育成を基本理念として継続し、その実現を図るために、より具体的な方策を明確にした学習指導要領に改訂されました。その具体的な方策として、「習得、活用、探求」のバランスのとれた学習活動による確かな学力の育成や各教科等の目標を踏まえつつ全教育活動を通して、豊かな心を育む指導の充実が求められています。

こうした中で、図画工作科・美術科では、表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、感性や想像を働かせながら、よさや美しさを感じ取り、思考・判断し表現するなどの資質や能力を育て、豊かな情操を養うことが一層重要となってきております。

とりわけ、造形活動を通じて、よさや美しさを豊かに感じ取り、さらに感じ取ったことを自分の思いや考えをもって創造的に表現し、つくりだす喜びを実感的に味わうことは、子ども一人ひとりの豊かな情操の成長にとってきわめて大切なものであります。

本研究大会が「豊かな心と確かな力を育む造形教育」を研究主題に掲げ、豊かな感性・情操などの涵養や確かな表現・創造能力、鑑賞力を身に付けさせるために、子ども自らが何を学び、どのような能力を身に付けていくのかを理解し、主体的に意思を働かせながら創造的な学びを目指す取り組みは、まさしく時宜を得た研究であると考えます。

特に、子どもが「色と形と材料」に関わりながら育てたい力を「育みたい力」として明らかにするとともに、題材の見方や設定の仕方を見直し、「心を育てる題材」と位置づけて授業を構築し、評価を通して、子どもの学びや育ちを検証する確かな授業実践を進めてきており、その成果に大きな期待を寄せているところであります。

終わりに、本研究大会が、参加された先生方の熱意で実りの多いものとなり、本道の造形教育の充実・発展に寄与するものとなることをご期待申し上げますとともに、貴連盟の一層の発展をご祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

＜開　会　式＞　進行　実行委員会副委員長　　　釜　田　恵　児

開式のことば	実行委員会副委員長	住　友　俊　郎
挨　　　拶	北海道造形教育連盟委員長	菅　原　清　貴
	いしかり北広島大会実行委員長	墓　田　充　泰
祝　　　辞	北海道教育庁石狩教育局長	宮　内　敏　文
	北広島市教育委員会教育長	白　崎　三千年
閉式のことば	実行委員会副委員長	安　藤　信　行
研究概要説明	北海道造形教育連盟研究部長	湯　浅　大　吾
	いしかり北広島大会研究部長	山　崎　正　明

＜閉　会　式＞

挨　　　拶	いしかり北広島大会実行委員長	墓　田　充　泰

＜茶　話　会＞

研究部あいさつ
親睦・交流

＜レセプション＞

挨　　拶　北海道造形教育連盟委員長
　　　　　いしかり北広島大会実行委員長
来賓紹介
来賓スピーチ
授業者・提言者スピーチ
各地区紹介　道南・道東・道北・札幌・石狩
連盟旗交換　道央（石狩）→　道北

＜いしかり北広島大会シンボルマーク＞

デザイン　恵庭市立恵み野中学校教諭
野　口　裕　司

今回の大会に関わって、「美術を通しての教育」の話を進める度に感じていた事は、研究を進めるうちに、先生達の目線が、子どもたちの表情や行動など、美術を通じて子どもの頭の中で何が起こっているか、ということを笑顔で語っているという事でした。そんな姿に、いつもウキウキさせて頂きました。このマークは、そうしたことからヒントを得てデザインしました。

子どもたちがいろいろな自由な色を見つけてつくった作品を通じて、自分を『見て！見て！』という姿のなかに、今大会の「５８」回というロゴと、北からの発信、北広島からの発信という意味を込めての「北」を入れてみました。今大会の「おもい」を「かたち」にできたらと考えてデザインしてみました。

講演 7月29日（火）　午前11時00分より　　会場　夢プラザにて

「授業づくりで大切なこと」

美術教育の本質を語っていただきます！

幼児から大人まで

講師　東京未来大学　**大橋 功**

全道造形教育研究大会に大橋功功さんにお越しいただき、ご講演いただくことの意味は大きいです。

大橋さんは2003年に大規模な「鑑賞に関する実態調査」（日本美術教育学会）の結果を公開し、その中から鑑賞教育の不十分さや免許外による指導の困難性などの問題を指摘したり、2005年には日本美術教育学会の事務局長として学会の意見を集約し、「組織として」中央教育審議会教育課程部会に意見を出したりという大事な仕事をされてきました。

また千里敬愛幼稚園（大阪）をはじめ各幼稚園で行っている造形教育活動。幼児の絵について保護者の前で解説をしていく「描画ツアー」、質の高いWEBサイト「KIDS ART LABO」、あるいは指導が困難な時の中学校での美術教育の実践、大学での教育、Insea関連など…

その大橋さんに、図工・美術教育の基本的、本質的な内容で語っていただくことになりました！

大橋功さんが開設しているHP「KIDS ART LABO」
幼児教育から美術教育が見えてきます。

略歴

1981年　京都教育大学を卒業、
同年大阪市立中学校美術科教諭
1994年　佛教大学教育学部 講師 97年同助教授
2003年　NPO法人学習開発研究所を西之園晴夫らと設立　2007年　東京未来大学「芸術と人間、幼児造形、造形表現法」を担当

所属・活動

東東京未来大学　こども心理学部　こども心理学科
学習開発研究所　副代表
日本美術教育学会　事務局長
幼稚園の教育を支援（造形活動について）

大橋 功さんから事前にメッセージをいただいています

「絵を描くのが苦手」と言う子がいます。「ものをつくるのがめんどうくさい」なんて言う子もいます。幼い頃、あんなに夢中になってパスを握りしめ、描いながらも懸命にハサミ使っていた子はどこへ行ったのでしょう？誰だって大好きだったはずなのに…　「うちの子は絵が下手だから…」と言うお母さんがいます。「ぞうさんはもっと大きかったでしょ？」と大きく描くことを促す先生がいます。「自由に伸び伸びと育って欲しい」などと言いながら、大人が

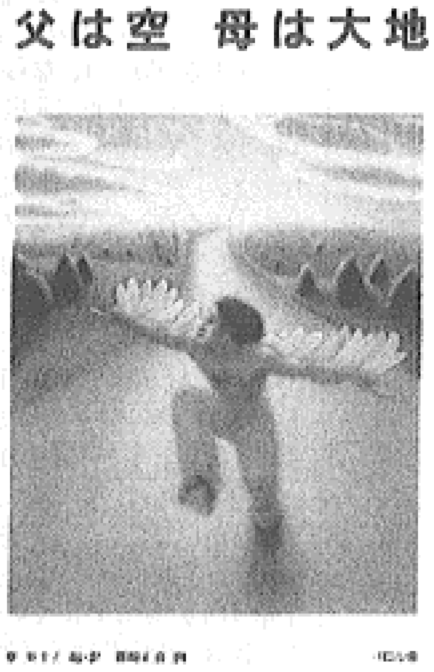
子どもを使って、自分のイメージを表現させようとしています。作品からは先生のイメージや描いて欲しかった絵というものが伝わってきます。でも、子どもの想いや願いはどこへ行ったのでしょう？ 絵を通して子どもの話に真剣に耳を傾けるお母さんがいます。描きたい、造りたい、伝えたい、そんな子どもたちの「〇〇たい！」を引き出す工夫がされた楽しい授業をする先生がいます。身近な自然や人や物事から、驚きや感動を受け止めながら、毎日わくわくしながら育つ子どもが待ってきました。

ある中学校で先生が「人はどうして絵を描いたりものをつくったりするのだろう？」と生徒に問いました。すると、ある生徒が応えました。「自由になるためさ！」こんなところに私たちの師匠がいました。

そう、教師という仕事をする私たちにとっての最大の師匠は、目の前の子どもたちなのですね。 北海道、石狩のみなさんと出会える日が今からとても楽しみです。

『父は空　母は大地』

（パロル舎 1995）寮美千子／編・訳、篠崎正喜／画



それと、今、1997年、平成9年の日本美術教育学会誌「美術教育」第275号の巻頭言に自分が書いたものをみつけて読み返しました。前回の学習指導要領改訂時に書いたものです。ベースは、ネイティブアメリカンのスカミシュ族シアトル酋長が合衆国政府から自分たちの土地を奪われ、居留地に移るように言われたときに書いた手紙に感化されて書いたものです。 よけいな話ですが、私は、佛教大学時代にこの手紙で美術の授業をしました。この手紙を読んで見えてきたもの、感じたこと、そして伝えたいことをどんな方法でもいいから、目に見えるものにしてみよう。と…

美しいアメリカの大地に共生する生き物たちの楽園を描いた学生、恐ろしさを強調するような色彩で白人たちが、列車から笑いながらバッファローや、野生の馬、そしてネイティブアメリカンを撃ち殺している絵を描いた学生、マンハッタンの写真を画面に貼り、その下に押しつぶされそうなネイティブアメリカンの羽根飾りを描いた学生など様々でした。 よけいついでに長くなりますが その原典は以下です。

はるかな空は　涙をぬぐい きょうは　美しく晴れた。あしたは　雲が空をおおうだろう。けれど　わたしの言葉は　星のように変わらない。ワシントンの大首長が　土地を買いたいといってきた。 どうしたら　空が買えるというのだろう？ そして　大地を。わたしには　わからない。風の匂いや　水のきらめきを あなたはいったい　どうやって買おうというのだろう？　すべて　この地上にあるものは わたしたちにとって　神聖なもの。松の葉の　いっぽん　いっぽん 岸辺の砂の　ひとつぶ　ひとつぶ 深い森を満たす霧や　草原になびく草の葉 葉かげで羽音をたてる虫の一匹一匹にいたるまで すべては　わたしたちの遠い記憶のなかで神聖に輝くもの。わたしの体に　血がめぐるように 木々のなかを　樹液が流れている。わたしは　この大地の一部で 大地は　わたし自身なのだ。

香りたつ花は　わたしたちの姉妹。熊や　鹿や　大鷲は　わたしたちの兄弟。岩山のけわしさも　草原のみずみずしさも 小馬の体のぬくもりも すべて　おなじひとつの家族のもの。 川を流れるまぶしい水は　ただの水ではない。それは　祖父の　そのまた祖父たちの血。小川のせせらぎは　祖母の　そのまた祖母たちの声。湖の水面にゆれる　ほのかな影は わたしたちの　遠い思い出を語る。川は　わたしたちの兄弟。渇きをいやし カヌーを運び 子どもたちに　惜しげもなく食べ物をあたえる。

（著作権の関係で一部のみ）

大会日程

＜1日目午前＞　会場：大曲東小学校：大地太陽幼稚園

9:00　10:00　10：10　10：55（中11：00）　11：10　12：10　13：10

開会式・全体会	移動	公開授業	研究協議	昼食
		特別支援学級（大曲東小学校） 全児童「あつめよう、ならべよう　何に見えるかな？」		
		小学校１　松本圭正（北広島市立大曲小学校） ３年「粘土でお話、へんないきもの（つくりたいもの）」		
		小学校２　鈴木礼二（北広島市立東部小学校） ４年「ぼくら　ちいさなアーティスト（デッサン・絵）」		
		小学校３　佐伯晶宣（江別市立江別第三小学校） ４年「あすかの森はワンダーランド（共同制作・絵）」		
		小学校４　中村安奈（北広島市立北の台小学校） ５年「思い、ふくらむ場面（銀河鉄道の夜の世界・絵）」		
		小学校５　熊谷宏子（千歳市立高台小学校） ６年「伝えよう！仲間との思いで（絵手紙による表現）」		
		中学校１　西村　司（北広島市立緑陽中学校） １年「思いのこもった手をつくろう（塑像）」		
		中学校２　野口裕司（恵庭市立恵み野中学校） １年「Ｍｙ　Ｍａｒｋ（マークデザイン）」		
		中学校３　山内菜穂子（北広島市立東部中学校） ２年「マイ　ハート（スクラッチ技法による心象風景）」		
	園に移動	幼稚園　　（大地太陽幼稚園） 全児童「つながる自然～ようこそ！大地太陽のひろばへ～」		移動後昼食

＜1日目午後＞　会場：大曲東小学校

13:10　14:30　14：45　16：05　16：15　17:10　19：30　21：00

提言分科会（前半）	提言分科会（後半）	茶話会	移動	レセプション
平山一弥（千歳市立北栄小学校） 「こんなことから始めてみませんか」	岩崎愛彦（千歳市立千歳小学校） 「題材、素材、人との出会いを」			
山口　浩（千歳市立末広小学校） 「６年生　身近なものを見つめて」	湯浅大吾（札幌市立伏見小学校） 「語（かたりを促し、造形を」			
宮田珠世（札幌私立円山小学校） 「もっとこうしたい！」	土橋直美（更別町立上更別小学校） 「子どもが表現にこだわる時」			
川名義美（当別町立当別中学校） 「よさを感じあい、追求する喜びを」	井上哲義（江別市立第二中学校） 自己実現に向けた表現活動」			
大高雅子（札幌市立柏中学校） 「小さな変化でいつもの題材を」	中島圭介（旭川市立東光中学校） 「教科書題材での鑑賞授業の実践」			
佐藤博行（江別市立江陽中学校） 「自己表現の模索を通して」	工藤由香（恵庭市立柏陽中学校） 「自己理解・他者理解を深める」			
高校 松井茂樹（北海道立北広島高校） 「手で考える」	**特別支援学級** 阿部陽子（千歳市立北栄小学校） 「大きな絵を描いて絆を深めよう」			
幼稚園 三浦真奈美（札幌いなづみ幼稚園） 「なになに、わくわくの遊びを通して」				

＜２日目＞準備開始７：００　会場：夢プラザ

9:00　9：20　10：50	11：00　12：30	12：45
ワークショップ ネットワーク会議（9：20〜10：50）	講演会	閉会式

番号	講座名	会場	講師	運営委員
1	水彩入門	陶芸室	竹津　昇 千歳東千歳中学校	松原和恵（石狩南線小） 小野寺理恵（石狩八幡小）
2	版画入門	多目的作業室	濱野三喜男 千歳北陽小学校	吉田　博（江別豊幌小） 鈴木礼二（北広島東部小）
3	簡単アニメ制作	サークル活動室	野口　裕司 恵庭恵み野中学校	山田宏則（千歳富丘中） 西村　司（北広島緑陽小）
4	ハンドパペット	集会室	伊藤　善彬 道造連顧問	樋尾美和（北広島西の里小） 佐伯晶宣（江別第三小）
5	子どもの絵のギャラリートーク	多目的ホール３	山崎　正明 千歳北斗中学校	村中幸治（石狩聚富中） 工藤由香（恵庭柏陽中）
6	授業実践資料―提言で使用のビデオ	学習研修室		村田勝巳（石狩緑苑台小） 松本圭正（北広島大曲小）
7	ＤＶＤ―石造連制作実技指導	多目的ホール１		岩田ひとみ（江別第三中） 蓑島裕二（北広島西部小）
8	教材・教科書業者コーナー	交流広場		高橋康宏（江別第一中）
9	ネットワーク会議	調理室（本部）		岩崎愛彦（千歳千歳小）

講演会

講師　　大　橋　功　氏（東京未来大学）

演題　「　授業づくりで大切なこと　」

◎　授　業（幼：幼稚園、特：特別支援学級、小：小学校、中：中学校、高：高等学校）

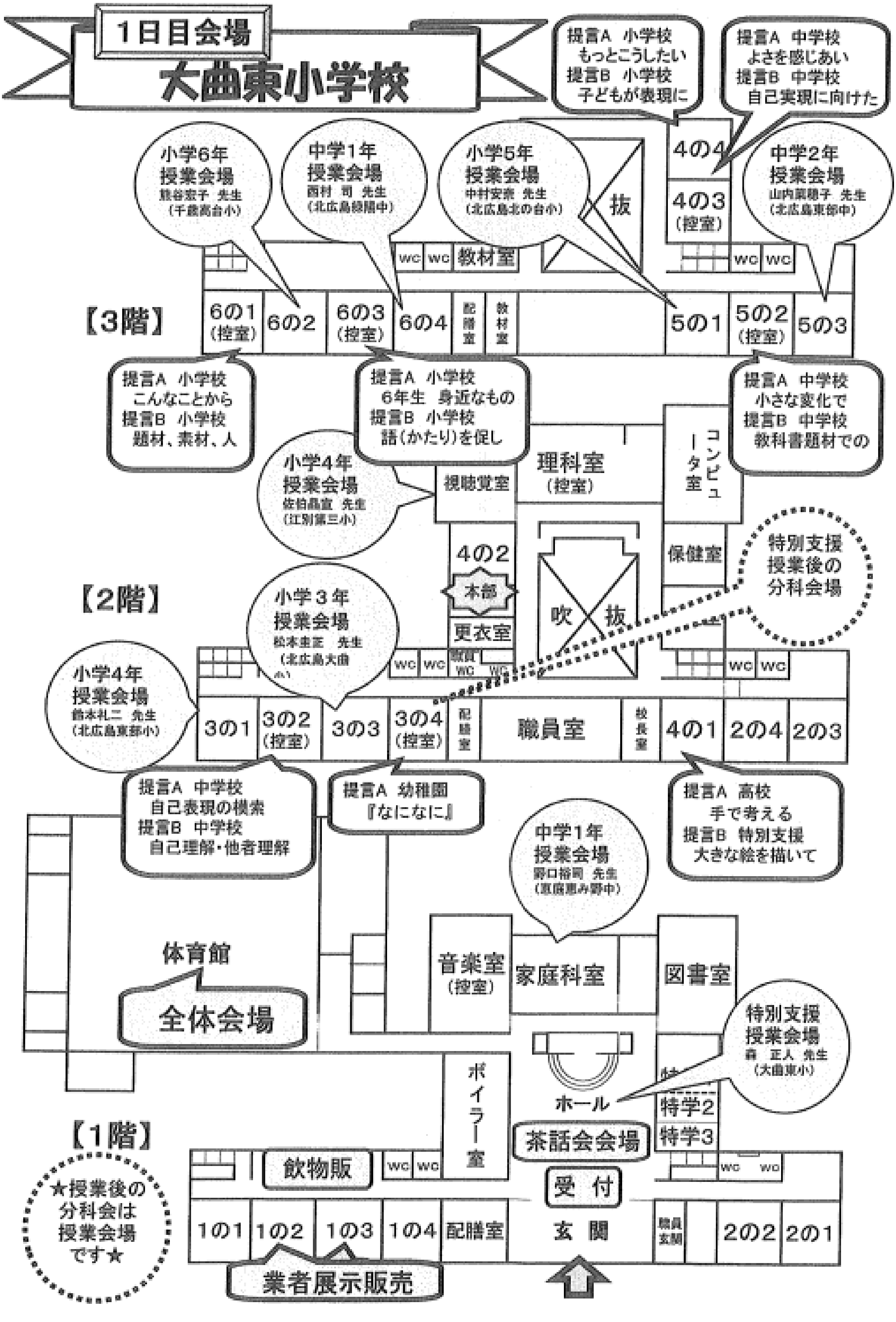
番号	授　業　者	学年	会場	司　会　者	記録者（運営委）	助言者
幼1	全職員 大地太陽幼稚園	全児	大地太陽 幼稚園	高松　摩衣 札幌平和幼	鈴木　秀幸 江別対雁小	伊藤　善彬 道造連顧問
特1	森正　人　村上咲枝 佐藤芳幸　中田浩子 山本賢祐　矢代ゆかり 細貝敏江 北広島大曲東小学校	特支	1階 ホール	小森　政英 北広島広葉小	石川　祥大 千歳北栄小	植木　則子 札幌常磐小長
小1	松本圭正 北広島大曲小学校	3年	2階 3年3組	田中　美穂 千歳緑小	白沢美知子 江別いずみ野小	住友　俊郎 江別小長
小2	鈴木礼二 北広島東部小学校	4年	2階 3年1組	源馬いく恵 江別上江別小	塚原智穂子 江別いずみ野小	土井　善範 札幌鴻城小長
小3	佐伯晶宣 江別第三小学校	4年	2階 視聴覚室	駒場　雅子 当別西当別小	松原　和恵 石狩南線小	櫻田　　豊 札幌星置東小長
小4	中村安奈 北広島北の台小学校	5年	3階 5年1組	前田　尚子 石狩八幡小	和田　陽一 千歳桜木小	今　　裕子 札幌福住小長
小5	熊谷宏子 千歳高台小学校	6年	3階 6年廊下	豊田　治子 江別豊幌小	渋谷　広美 千歳桜木小	安藤　信行 江別第三小長
中1	西村　司 北広島緑陽中学校	1年	3階 6年4組	平井　宜子 江別中央中	江田　充子 江別大麻中	加藤　　隆 旭川台場小長
中2	野口裕司 恵庭恵み野中学校	1年	1階 家庭科室	檜森ふさ美 北広島広葉中	田邊　律子 恵庭恵庭中	村瀬　千樫 教育大教授
中3	山内菜穂子 北広島東部中学校	2年	3階 5年3組	樋渡　真紀 石狩樽川中	宮内　絹代 千歳青葉中	奥田泰朗 釧路共栄小頭

◎　ワークショップ

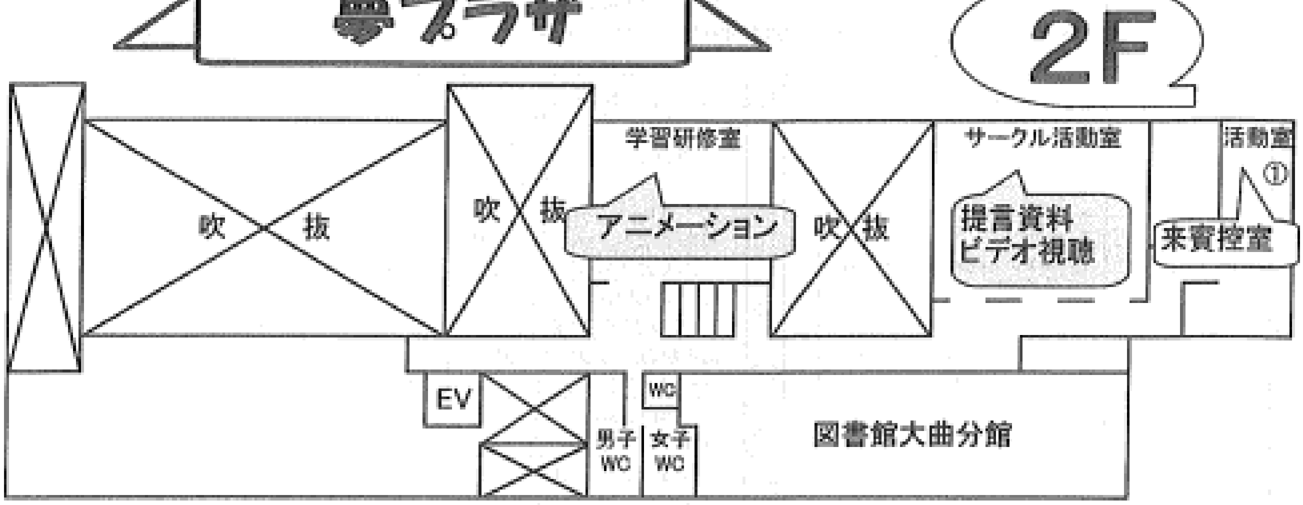
番号	講　座　名	会　場	講　　師	運営委員	
1	水彩入門	陶芸室	竹津　　昇 千歳東千歳中学校	松原　和恵 石狩南線小	小野寺理恵 石狩八幡小
2	版画入門	多目的作業室	濱野三喜男 千歳北陽小学校	吉田　　博 江別豊幌小	鈴木　礼二 北広島東部小
3	簡単アニメ制作	サークル活動室	野口　裕司 恵庭恵み野中学校	山田　宏則 千歳富丘中	西村　　司 北広島緑陽中
4	ハンドパペット	集会室	伊藤　善彬 道造連顧問	梶尾　美和 北広島西の里小	佐伯　晶宣 江別第三小
5	子どもの絵のギャラリートーク	多目的ホール３	山崎　正明 千歳北斗中学校	村中　幸治 石狩聚富中	工藤　由香 恵庭柏陽中
6	授業実践資料一提言で使用のビデオ	学習研修室		村田　勝巳 石狩緑苑台小	松本　圭正 北広島大曲小
7	ＤＶＤ一石造連制作実技指導	多目的ホール１		岩田ひとみ 江別第三中	蓑島　裕二 北広島西部小
8	教材・教科書業者コーナー	交流広場		高橋　康宏 江別第一中	
	ネットワーク会議	調理室 （本部）		岩崎　愛彦 千歳千歳小	

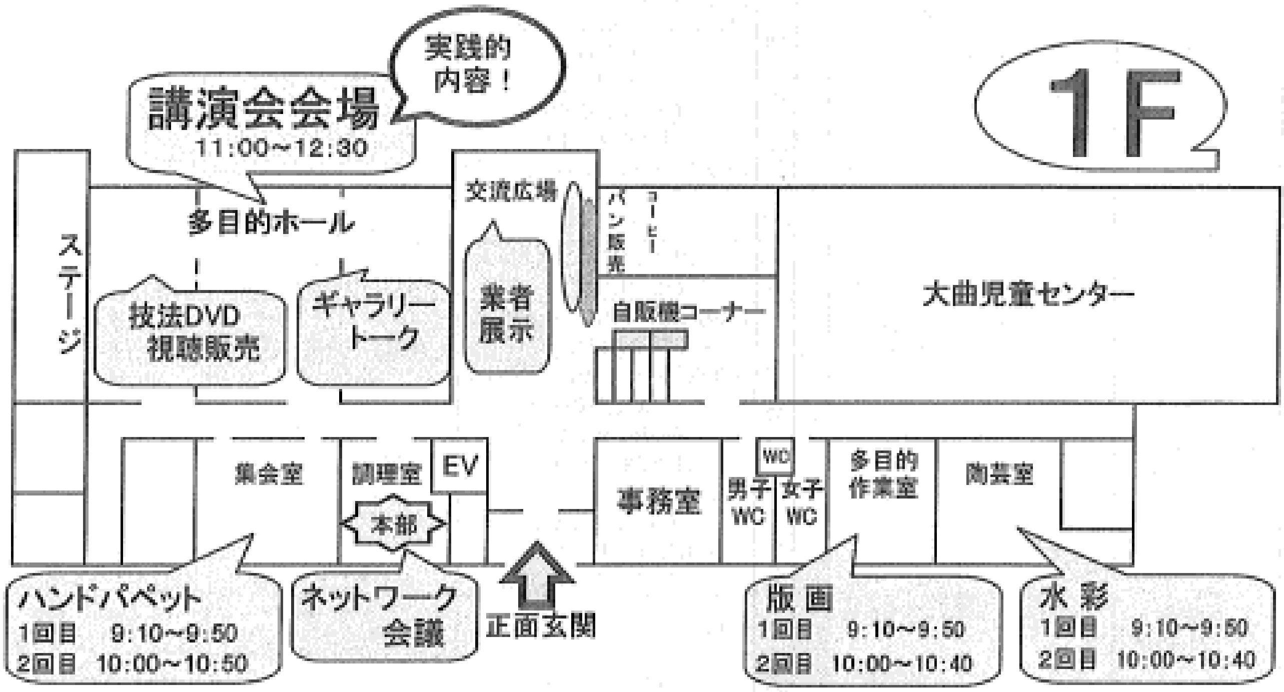
◎ 提　言（幼：幼稚園、特：特別支援学級、小：小学校、中：中学校、高：高等学校）

番号	提　言　者	会　場	司　会　者	記録者（運営委）	助言者
幼１ 前半	三浦真奈美 札幌いなづみ幼稚園	２階 ４年１組	髙松　摩衣 札幌平和幼	板木　静子 江別中央小	伊藤　善彬 道造連顧問
特１ 後半	阿部　陽子 千歳北栄小学校	２階 ４年１組	石川　祥大 千歳北栄小	小森　政英 北広島広葉小	植木　則子 札幌常盤小長
小 前半	平山　一弥 千歳北栄小学校	３階 ６年１組	田中　美穂 千歳緑小	村田　勝己 石狩緑苑台小	釜田　恵児 江別大麻小長
	山口　　浩 千歳末広小学校	３階 ６年３組	源馬いく恵 江別上江別小	山田　順子 江別第三小	住友　俊郎 江別小長
	宮田　珠世 札幌円山小	３階 ４年４組	駒場　雅子 当別西当別小	曽禰　俊夫 北広島大曲小	土井　善範 札幌鴻城小長
小 後半	岩崎　愛彦 千歳小学校	３階 ６年１組	前田　尚子 石狩八幡小	佐伯　晶宣 江別第三小	安藤　信行 江別第三小長
	湯浅　大吾 札幌伏見小学校	３階 ６年３組	中澤　孝仁 岩見沢第二小	中村　安奈 北広島北の台小	櫻田　　豊 札幌星置東小長
	土橋　直美 更別上更別小学校	３階 ４年４組	豊田　治子 江別豊幌小	熊谷　宏子 千歳高台小	今　　裕子 札幌福住小長
中 前半	川名　義美 当別中学校	３階 ４年３組	平井　宣子 江別中央中	陰山　千文 千歳真町中	塚野　昭臣 札幌稲穂中長
	大高　雅子 札幌柏中学校	３階 ５年２組	檜森ふさ美 北広島広葉中	村中　幸治 石狩聚富中	奥田　泰朗 釧路共栄小頭
	佐藤　博行 江別江陽中学校	２階 ３年２組	樋渡　真紀 石狩樽川中	山田　宏則 千歳富丘中	塩田　充泰 千歳富丘中長
中 後半	井上　哲義 江別第二中学校	３階 ４年３組	浅田　　聡 江別野幌中	西村　司 北広島緑陽中	加藤　　隆 旭川台場小長
	中島　圭介 旭川東光中学校	３階 ５年２組	水野　一英 札幌宮の森中	天谷　道子 恵庭恵明中	佐藤　　祈 三笠新幌内小頭
	工藤　由香 恵庭柏陽中学校	２階 ３年２組	野口　裕司 恵庭恵み野中	松尾もと子 恵庭恵北中	村瀬　千樫 教育大教授
高１ 前半	松井　茂樹 北海道立北広島高校	２階 ３年４組	中野　　悟 石狩望来小頭	池田　元治 千歳桜木小頭	伊藤　光悦 北翔大講師


1日目会場
大曲東小学校
提言A 小学校 もっとこうしたい
提言B 小学校 子どもが表現に
提言A 中学校 よさを感じあい
提言B 中学校 自己実現に向けた
小学6年 授業会場 (千歳高台小)
中学1年 授業会場 西村 司 先生 (北広島緑陽中)
小学5年 授業会場 (北広島北の台小)
中学2年 授業会場 (北広島東部中)
4の4
4の3 (控室)
抜
wc wc 教材室
wc wc
【3階】
6の1 (控室)
6の2
6の3 (控室)
6の4
配膳室
教材室
5の1
5の2 (控室)
5の3
提言A 小学校 こんなことから
提言B 小学校 題材、素材、人
提言A 小学校 6年生 身近なもの
提言B 小学校 語(かたり)を促し
提言A 中学校 小さな変化で
提言B 中学校 教科書題材での
小学4年 授業会場 (江別第三小)
視聴覚室
理科室 (控室)
コンピューター室
保健室
特別支援 授業後の 分科会場
4の2
本部
更衣室
吹 抜
【2階】
小学3年 授業会場
小学4年 授業会場 (北広島東部小)
wc wc
職員wc wc
wc wc
3の1
3の2 (控室)
3の3
3の4 (控室)
配膳室
職員室
校長室
4の1
2の4
2の3
提言A 中学校 自己表現の模索
提言B 中学校 自己理解・他者理解
提言A 幼稚園 『なになに』
提言A 高校 手で考える
提言B 特別支援 大きな絵を描いて
中学1年 授業会場 (恵庭恵み野中)
体育館
全体会場
音楽室 (控室)
家庭科室
図書室
特別支援 授業会場 森 正人 先生 (大曲東小)
ボイラー室
ホール
特学2
特学3
茶話会会場
【1階】
飲物販
wc wc
wc wc
受付
1の1
1の2
1の3
1の4
配膳室
玄関
職員玄関
2の2
2の1
★授業後の 分科会は 授業会場 です★
業者展示販売

2日目会場 夢プラザ





楽しさいっぱい！ 夢いっぱい！ 今すぐ役立つ！

ワークショップ案内

9：00~10：50

どんな種類？		どんな内容？	講師は？
子どもの絵ギャラリートーク		子どもの絵をどうとらえたら良いのでしょう。子どもの絵を見ながら子どもの学びについて考え、トークしあいましょう。	山崎 正明 先生（千歳北斗中）
提言資料ビデオ視聴		幼稚園1本、小学校3本、中学校2本、高校1本の提言で使用した資料やDVDを視聴できます。	（各提言者制作）
実技体験コーナー	水 彩	用具の使い方（水入れ、パレット、筆、筆拭き、絵の具の溶かし方・混ぜ方など）、にじみ・ぼかしや、タンポ・歯ブラシの技法など。	竹津 昇 先生（東千歳中）
実技体験コーナー	版 画	題材の参考になるように、参考作品を掲示。彫り方、刷り方を中心に実技体験します。	滴野三喜男 先生（千歳北陽小）
実技体験コーナー	アニメーション	簡単なアニメを実際に制作。生徒の制作したアニメも実写。できればデジカメをお持ちください。	野口 裕司 先生（恵庭恵み野中）
実技体験コーナー	ハンドパペット	身近な材料を使った人形を紹介します。腹話術も。色画用紙でパクパク人形を実際に作ります。	伊藤 善彬 先生（道造連顧問）
技法DVD視聴・販売		パレットや水入れの使い方から彫刻刀の使い方や研ぎ方、版画技法など、現場ですぐに役立つ指導技法のDVD。1枚1000円で販売	蓑島 裕二 先生（北広島西部小）
業者展示		教科書会社が教科書や技法書などを、また、教材会社が材料や教材を展示します。	

豊かな心と確かな力を育む造形教育を！

第58回全道造形教育研究大会「いしかり北広島大会」

■ 会　期　2008年7月28日（月）-29日（火）　詳しくは http://iart.main.jp/
■ 会　場　28日～北広島市立大曲東小学校（北広島市大曲光2丁目3番地　電話 011-377-3000）
大地太陽幼稚園（北広島市大曲794-106　電話 011-377-1133）
29日～北広島市ふれあい学習センター「夢プラザ」（北広島市大曲370番地2）電話 011-370-7373
■参加費　4000円　　■レセプション　会費5000円　28日19:30からJRタワーホテル日航札幌35階で

28日（月）

時刻	日程
9:00	全体会
	研究説明
10:00	公開授業
11:00–12:00	授業についての 研究協議
13:00	昼食
14:00	提言A 協議
15:00–16:00	提言B 協議
	茶話会

28日の会場は大曲東小学校です。大会受付は大曲東小学校でお願いします。幼稚園の授業公開とその話し合いについては大地太陽幼稚園でおこないます。

研究のプレゼンテーション。30分で本格的に。研究の主旨をご理解いただいてから、研究会に参加していただくことで、授業や提言がよりわかりやすくなるようにします。

★ 子どもの頭や心の中で何が起こっているのか。

★ 育みたい力や心をどう育てようとしているのか。

お好きな提言お選びください。「提言はもう一つの公開授業。」という考え方で、分科会での提言は一つにしぼりました。
　なお提言は映像などを使用し、子どもの姿や授業の流れが見えるように工夫します。
　手応えある、おもしろい分科会をめざします。

　一日目の日程終了後、気軽な感じで参加できる交流会を用意しました。お茶でも飲みながら、人の出会いやつながりを大切にしたい。

29日（火）

時刻	日程
9:00–10:00	研修会 ワークショップ
11:00–12:00	講演会
	閉会式

現場のニーズに応えるべく、実技研修の場をつくりました。また石狩で制作した技法のDVDを販売します。なお、参加者のみなさんは手ぶらでお越しいただいて結構です。内容によっては人数を限定させていただきます。

大橋さんから…「絵を描くのが苦手」と言う子がいます。「ものをつくるのがめんどうくさい」なんて言う子もいます。幼い頃、あんなに夢中になってパスを握りしめ、泪いながらも懸命にハサミ使っていた子はどこへ行ったのでしょう？誰だって大好きだったはずなのに…」

公開授業

学年	題材名	授業者	助言者
全 幼児	つながる人と自然 ～ようこそ！大地太陽ひろばへ～	全職員 大地太陽幼稚園	伊藤　哲彬 北海道造形連盟顧問
特別支援	あつめよう、ならべよう 何に見えるかな？	森　正人 北広島市立大曲東小学校	植木　則子 札幌市立常盤小学校長
3年	粘土でお話、へんないきもの （つくりたいものをつくる）	松本　圭正 北広島市立大曲小学校	住友　俊郎 江別市立江別小学校長
4年	ぼくら　ちいさなアーティスト ～デッサン（絵に表す）～	鈴木　礼二 北広島市立東部小学校	土井　善範 札幌市立瑞穂小学校長
4年	あすかの森はワンダーランド ～共同制作（絵に表す）～	佐伯　昌宣 江別市立江別第三小学校	田口　和男 札幌市立厚別西小学校長
5年	思い、ふくらむ場面 ～「銀河鉄道の夜」の世界（絵に表す）～	中村　安奈 北広島北の台小学校	今　裕子 札幌市立福住小学校長
6年	伝えよう！仲間との思い出 ～絵手紙による表現（絵に表す）～	熊谷　宏子 千歳市立高台小学校	安藤　信行 江別市立江別第三小学校長
1年	「思いのこもった手をつくろう」 （塑造）	西村　司 北広島市立緑陽中学校	加藤　隆 旭川市立台場小学校長
1年	「My Mark」 （マークデザイン）	野口　裕司 恵庭市立恵み野中学校	村瀬　千樫 北海道教育大学教授
2年	「マイ　ハート」 （スクラッチ技法による心象風景）	山内菜穂子 北広島市立東部中学校	奥田　泰朗 釧路市立共栄小学校教頭

提言A

校種	提言名	提言者	助言者
幼稚園	『なになに』『わくわく』の 遊びを通して育てたいこと	三浦真奈美 札幌いなづみ幼稚園	伊藤　哲彬 北海道造形教育連盟顧問
小学校	こんなことから始めてみませんか ～小学校の授業づくり～	平山　一弥 千歳市立北栄小学校	善田　康晃 江別市立大麻小学校校長
小学校	6年生「身近なものを見つめて」 ～思いを込めて～	山口　浩 千歳末広小学校	住友　俊郎 江別市立江別小学校長
小学校	『もっとこうしたい！』 ～子どもの追求が生まれる授業～	宮田　珠世 札幌市立円山小学校	土井　善範 札幌市立瑞穂小学校長
中学校	よさを感じあい、追求する喜びを 実感できる授業づくり	川名　雅美 当別町立当別中学校	塚野　昭臣 札幌市立稲穂中校学校校長
中学校	「小さな変化で いつもの題材を もっと確かなものに」	大高　雅子 札幌市立柏中学校	奥田　泰朗 釧路市立共栄小学校教頭
中学校	「自己表現の模索を通して」	佐藤　博行 江別市立江陽中学校	菅田　克幸 千歳市立富丘中学校校長
高校	「手で考える」	松井　茂樹 北海道立北広島校高等学校	伊藤光悦 北翔大学講師

提言B

校種	提言名	提言者	助言者
特別支援	大きな絵を描いて絆を深めよう ～この出会いを大切に～	阿部　陽子 千歳市立北栄小学校	植木　則子 札幌市立常盤小学校長
小学校	題材、素材、人との 出会いを大切にした授業づくり	岩崎　愛彦 千歳市立千歳小学校	安藤　信行 江別市立江別第三小学校校長
小学校	「語（かたり）」を促し、 造形を膨らませる	湯浅　大吾 札幌市立伏見小学校	田口　和男 札幌市立厚別西小学校長
小学校	子どもが表現にこだわる時 ～「題材との出会い」の工夫～	土橋　直美 更別村立上更別小学校	今　裕子 札幌市立福住小学校長
中学校	自己実現に向けた 表現活動における指導の工夫	井上　哲義 江別市立江別第二中学校	加藤　隆 旭川市立台場小学校校長
中学校	教科書題材での 鑑賞授業の実践	中島　圭介 旭川市立東光中学校	佐藤　哲 三笠市立新幌内小学校教頭
中学校	自己理解・他者理解を 深める授業づくり	工藤　由香 恵庭市立柏陽中学校	村瀬　千樫 北海道教育大学教授

研修会・ワークショップ

講座	内容
水彩入門	水彩画家でもある竹浪晃先生による。質問もどうぞ。
版画入門	版画の刷りと刷り、用具の使い方。講師は塩野三喜男先生。
簡単アニメ制作	アニメづくりの実践を積み重ねてきた野口裕司先生が講師。
ハンドパペット	楽しい、人形づくり。人形で遊ぶ。講師は伊藤哲彬先生
各種資料展示	技法DVD、提言用ビデオの前販など。なんでも閲覧自由です。
子どもの絵の ギャラリートーク	子どもの絵を見ながら子どもの思いや学びについて考えます。
書籍・教材展示販売	教科書会社さん、教材メーカーさんによる展示や販売コーナー

講演会

大橋功氏（東京未来大学）

講師の大橋功さんは、今年8月に大阪で開催されるINSEA国際美術教育学会あるいは日本美術教育学会でコーディネータや基調提案などでご活躍されます。

大会事務局
北広島市立若葉小学校
若葉町3丁目12番地
011-373-5665
伝住（でんずみ）修一

http://iart.main.jp/

研究会に参加された方々が今後もつながりながら
互いに学びあう関係でありたいです

今回の研究の成果や課題もこの web サイトで公開していきます

北海道造形教育連盟研究主題

『出会いと対話から自己創造感が生まれる造形教育』

北海道造形教育連盟研究部長
湯浅　大吾

１．新指導要領にみる造形教育連盟の役割

昨年度末、幼稚園・小学校・中学校の新しい学習指導要領が告示されました。幼稚園学習指導要領では、幼小の円滑な接続を図るため、幼小の連携の推進が重点の一つとしてあげられています。また、今回の改訂では６つの改善の観点の一つである「豊かな人間性と感性の育成」のもと、図画工作及び美術の改善の内容と方向性が示されました。小学校と中学校においても、従来よりもより一層それぞれの発達段階に合わせながら、学習指導観の連続性が図られたような印象をもちました。さらに７月、新学習指導要領の「解説」が公開されました。美術教育の目標が非常にわかりやすく書かれています。

私たち北海道造形教育連盟は、幼稚園から高等学校、特別な支援を要する子どもたちに対する造形教育のより良い在り方を探究する研究団体です。幼稚園教諭から大学教授と様々な校種のメンバーで構成されているのも特徴の一つです。

私たちが、目の前の子どもの姿を通した情報の交換を活発にし議論を重ね、発達特性や現状に寄り添った造形教育を押し進めていくことが、子どもたちの健やかな成長にもつながり、造形教育の有用性が社会に見直されていくことにもつながっていくと考えます。

２．生きる力と自己創造感

> 子どもは誰でも好奇心をもっています。好奇心は、大人になって一人で生きていくためのスキル（専門的な技術）や、そのための訓練をする上で、非常に重要になってきます。大人は子どもの好奇心を摘まないようにして、様々なものを選択肢として子どもに示すだけでいいと思います。
>
> 村上　龍「１３歳のハローワーク」より

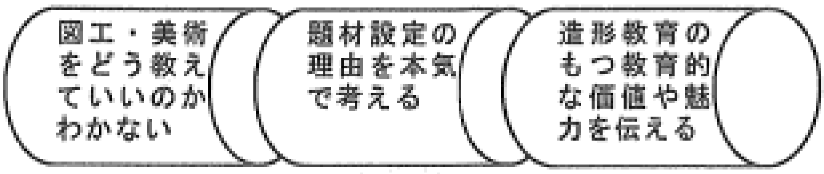
北海道造形教育連盟の研究主題は、「出会いと対話から自己創造感が生まれる造形教育』です。
私たちの研究を「習得」「活用」「探究」を視点として見つめてみると、「習得＝つける力」「探究＝引き出す力」「活用＝育む力」と位置付けることができると考えます。村上氏の言葉を借りるまでもなく、好奇心は学習意欲のベースとなります。そこから考えると、この３つの力は並列ではありません。教材化や学習構成を図るとき「おもしろそうだ」「やってみたい」という子どもの好奇心を掘り起こすことが、よい授業を実践していくときの大前提となっていきます。つまり、

〔探究的な導入から始まる〕
⇨〔これまで習得してきた力を活用する〕
⇨〔新たな技能の習得〕
⇨〔さらに探究が始まる〕
⇨〔学びの学習や生活への活用〕

このような学習サイクルが具現化されていったとき、「出会い」により引き出された好奇心が、「対話」により探究として深まり、その結晶として「自己創造感」が生まれ、習得した力を活用する力、すなわち子どもの生きる力を育む造形教育が実践されていくと考えます。

３．いしかり北広島大会に期待する３つのこと

-研究大会の目的から-



いしかり北広島大会の「研究大会の目的」は、それぞれの立場で共感する教師は多いでしょう。
それは、広大な大地北海道で造形教育に携わる多地域・他校種の方のニーズを網羅しているからです。しかし、私には石狩北広島大会の研究大会の目的が、一本の金太郎飴の様に見えて、上の図に表してみました。それぞれの立場の教師にとってそれぞれ抱える課題が、実は１本の飴つまり同じことなのだと感じたからです。その理由を体験を交えて説明させてください。

新米教師時代の私が経験したこと。廊下掲示板に貼られた版画の作品を見た先輩教師が、「このクラスが一番レベルが低いな。図工担当だったよな。」そのときの私は、「悔しい。いったいどう指導したらいいのだろう。」と暗闇の中にいました。若い教師や専門外の教師は子どもを育てることはできないのでしょうか。表現での技術指導の知識や鑑賞での作品に対する知識をもっていないと子どもを育てることをできないのでしょうか。教師として知識をもっていることにこしたことはありません。最低限の知識は必要でしょう。でも、そんな知識も与え方を間違えるとむしろ子どもの成長を阻害してしまいかねません。私に足りなかったのは、子どもの本気を引き出せなかったことです。与えようとするあまり、「やってみたい」「おもしろそう」という子どもの好奇心が置き去りになっていたのです。子どもの本気を引き出す教材化や学習構成、教師のかかわり方の具体については、大会の授業での「先生と子どもの本気のぶつかり合う姿」を通して感じ取ってください。そして、この大会を通してそれぞれの思いを持つ方々に、造形教育のもつ教育的な価値や魅力が伝わることを期待しています。

――北海道のつながりの中での石狩北広島大会から――

私には、授業を見る他に全道大会に参加する楽しみがもう一つあります。それは、全道の仲間に会えることです。２００１年の北海道での全国大会以降の７年間で、私には日々北海道の各地で造形教育に熱く向き合い研鑽を重ね、お互いを刺激し合える尊敬すべき仲間がたくさんできました。それは、造形教育ネットワークの再起動がきっかけでした。当初のネットワーク会議は、従来通り全道大会の昼食時にお弁当を食べながらの集まりでした。そんな中でも、「つながりたい」という想いをもつ仲間は集まりました。「北海道の造形教育をどぎゃんかせんといかん」という熱い想いは、夏の全道大会での集まりから春の地区委員総会でも集まり、冬の教育美術展での集まりへ広がっていきました。

２００６年の札幌大会では、ネットワーク会議に全造連の会長や文部科学省の調査官が参加してくださるなど、北海道の造形教育の現状を中央の方にも知ってもらう機会にも恵まれました。石狩北広島大会の「美術教育支援」の大会にしたいというコンセプトも、ネットワーク会議から生まれた成果だと考えます。札幌市造形教育連盟の研修会として行われた、日本おける対話する美術鑑賞のパイオニア上野行一先生の講演会に、石狩や上川の先生が多数参加されたことも画期的でした。

機は熟しました。このつながりを生かして石狩北広島大会の成果と課題を全道で検証していきたいと思います。それをもとに、２０１１年に北海道で行われる全国大会をも視野に入れた、北海道の造形教育を牽引していく北海道造形教育連盟の新研究主題を、全道の皆さんの想いを結集して創り上げていきたいと思います。

ネットワーク部会の活動

北海道造形教育連盟ネットワーク部長
小林　知広
（札幌市立前田北小学校）

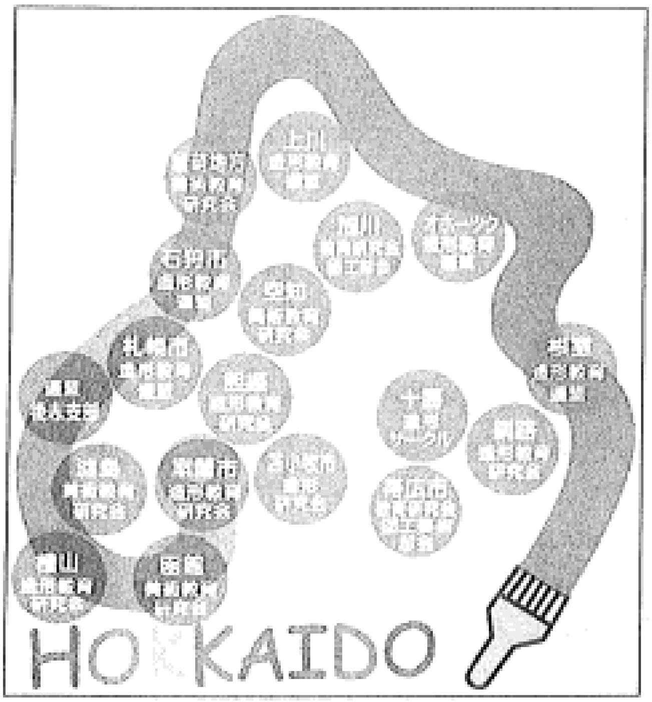
１．趣旨

北海道の造形教育に携わる人や各地区の連携を深め強化していくために

①各地区が日常的に連絡や交流できるための名簿を年度毎に作成する。
②各地区の研究や実践を交流する。
③北海道共通実践題材の開発を行う。
④北海道造形教育連盟ホームページの内容を充実させる。
⑤５年に１度見直される北海道造形教育連盟の研究主題について、各地区の意見を交流する。

以上の内容を推進するために年３回のネットワーク会議を開催する。

・春のネットワーク会議　春の地区委員総会前に
・夏のネットワーク会議　　夏の全道大会
・冬のネットワーク会議
　　北海道教育美術展審査会の中で



２．組織

全道造形教育ネットワークは、全道１８サークルのネットワーク担当者と本部ネットワーク担当者で組織される。

３．ホームページ・メーリングリスト

北海道造形教育連盟としての情報発信としてホームページを運営する。また、北海道造形教育連盟の会員同士の情報交換の場としてメーリングリストによる発信も行っている。

URL　　　　　http://hokuzou.kir.jp
e-mail　　　　hokuzou.post@kagoya.net
Mailing List
http://groups.yahoo.co.jp/group/hokuzou-mail

４．今年度の重点（活動経過）

「平成５年　旭川大会」により、全道造形教育ネットワークの設立が承認される。毎年、数回のネットワーク会議・ホームページの運営を行い現在に至る。

＜今年度の重点＞
○ネットワーク会議の充実
○HP、メーリングリストを活用した情報発信・交流
○道内の美術館との連携事業・教育普及事業への参画

①　ネットワーク会議を通して

年３回行われているネットワーク会議では各サークルの実践を交流したり、実施してきた作品

展・研修会などといった事業の交流を行ってきた。そこで、昨年度大きな話題になったこととして、各サークルの研究主題と北海道造形教育連盟の主題との関連である。交流の中では「子ども達の声が聞こえてきそうな作品」を生み出すための授業というキーワードが話された。今年度は、各サークルの研究主題に関する情報を収集しまとめることで、全道の連携を強くしていきたい。

② HP、リーリングリストによる情報交流

全道各地で行っている研修会や公開授業の情報がより交流されるように推進していきたい。

各サークルの会員は誰でも登録することができますので、希望の方はご連絡下さい。

連絡先は　hokuzou.post@kagoya.net　です

③ 美術館との連携事業

昨年度、北海道立近代美術館で行われた「Born in Hokkaido」に北海道造形教育連盟として共同企画を行ってきた。子ども達作品を美術館に展示していただいたり、学芸員さんを学校に招待したりと互いに共同で行うことによる教育効果を実感することができた。そこで、今年度から、道内にある美術館と連携し教育普及事業に関する業務を新設し、学校教育との連携を模索していくこととなった。

5．2008「いしかり・北広島大会」の役割

夏のネットワーク会議について

①自己紹介

②各サークルの意見交流

・日常の実践交流・課題交流

③各サークルで行った公開授業・事業の交流

・写真や映像を持ち寄ることによる交流

④各サークルの研究主題の交流

⑤メーリングリストの活用に関して

⑥各サークルとのつながりを深めるために

～「ひと」と「ひと」とのつながりを～

6．Home Page コンテンツ

造形教育に関する情報を誰もが取り出し、ひとりでも多くの子ども達が、造形活動のよさを感じていけるような環境づくりを目指し、ホームページを運営しています。インターネットでアクセスすると、欲しい情報が蓄積されているようなホームページを最終目標に、今後コンテンツ時の充実を図ってきたいと考えている。

＜コンテンツ＞

○１８支部紹介

○北海道教育美術展

○広報

○リンク

○研究大会

○授業に使える情報 BOX

7．各サークルネットワーク部名簿

北海道造形教育連盟ネットワーク部長

小林　知広

（札幌市立前田北小学校）

支部サークル名	担当者	学　校　名
札幌市造形教育連盟	山　眞	札幌市立上野幌東小学校
石狩造形教育連盟	岩崎　優彦	千歳市立千歳小学校
空知美術教育研究会	佐藤　哲	三笠市立新幌内小学校
後志教育研究会図工美術部会	竹生　元	余市町立大川小学校
上川造形教育連盟	中島　余介	旭川市立東光中学校
旭川教育研究会図工部会	中村　晴	旭川市立六合中学校
留萌地方美術教育研究会	松岡　宏強	羽幌町立羽幌小学校
渡島美術教育研究会	後藤　征秀	北斗市立上磯中学校
函館市美術教育研究会	柿崎　鉄二	函館市立昭和小学校
檜山造形教育研究会	谷口　光伸	江差町立南が丘小学校
胆振造形教育研究会	玉田　博	むかわ町立鵡川中央小学校
室蘭市造形教育研究会	大野　道也	室蘭市立水元小学校
苫小牧市造形研究会	宮下　智彰	苫小牧市立糸井小学校
帯広市教育研究会図工美術部会	澤田　佳子	帯広市立第四中学校
十勝造形サークル	小泉　佳一	幕別町立札内中学校
釧路造形教育研究会	中嶋　健明	釧路市立鳥取小学校
オホーツク造形教育連盟	塩浦　亜紀	網走市立潮見小学校
根室造形教育連盟	小野寺宏二	羅臼町立羅臼小学校

第５８回全道造形教育研究大会いしかり北広島大会

「豊かな心と確かな力を育む造形教育を！」

石狩造形連教育盟研究部

1、研究大会の目的

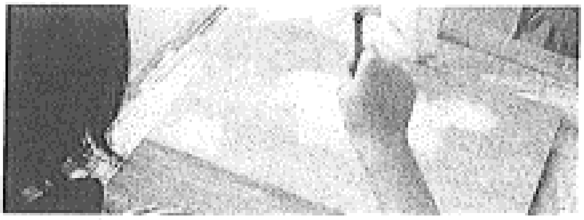
学習指導要領改訂前、残念ながら「図工美術教育」の価値は低学力論のかげで、ほとんど注目されない状況にありました。美術教育界においては、すぐれた実践や研究が多数なされながら…。学校現場においても似たような状況にあります。「図工の指導はよくわからない」「どう教えるの？」という先生が意外と多かったり、中学校（特に北海道においては）では免許外による指導も多いという実態もあります。

さて、このような状況ですから、美術教育の研究団体として、教室で課題を抱えている先生方のために何かしなければならないと考えました。と同時に造形教育の持つ教育的な価値や魅力も伝えたいと考えました。

「授業何やる？」「どうやるべきなの？」素朴な問いに答える大会にしたい。

「美術教育支援」それがこの研究会を開催する大きな目的のひとつです。

先生方がこの研究会に触れることによって、子ども達が、より充実した図工・美術教育を受けることを願っています。 また参加された図工・美術教育の専門の先生方と各地域で**美術教育を活性化させていくための手だてを共に考えていきたいと思っています。**



2、美術教育界での位置と研究主題

この研究を進めるにあたり、石狩として確認したことがあります。論議を進めていくなかで、私たちが迷ったら、 Education For Art なのかEducation Through Art なのか,どの位置に立っているのかを考えようという確認をしました。

私たちは後者の Through を大事に考えています。

さらに造形教育に関する Learning（「育みたい力」で示した言葉もそうです。）についても考えていきたいとも思います。

3、図工･美術教育の目標

「作品主義」という言葉があります。教師の仕事は「よい作品」をつくらせてこそ、という考え方です。 図画工作・美術教育のその一つの成果として具体的な参考となる子どもの作品があります。 例えば教科書の図版や展覧会の作品展の作品であったり、あるいはとなりの学級の作品であったりします。これまでの図工・美術教育は「どのようにしてよい作品をつくらせるか?」というところに目がいきがちでした。そうなると大人の目から見た「よい絵」「子どもらしい絵」を描かせる手段が必

要になります。

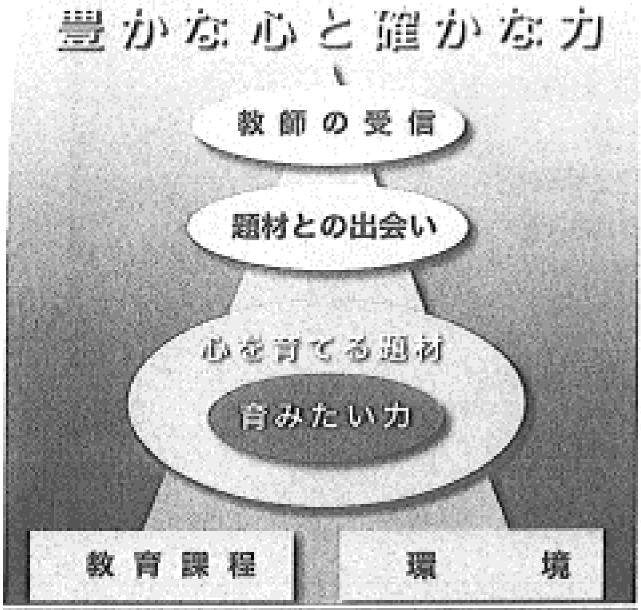
大事なことは優れた作品をつくらせることではなく、子どもが活動を通して学び、育つことにあります。

「何をつくらせるか、何を描かせるか」ではなく「色と形と材」に関わりながら、「何を育てるか」ということが造形教育本来の目標です。

新指導要領で「共通事項」を設定したのは、このことをより明確にするという意図もあるのでしょう。
ですから、ただ何もせず、放任しておくこととも違います。

本研究では「豊かな心と確かな力を育む」ことを目標としました。 ただし、ここでいう「確かな力」とは、立派な作品をつくるためという意味での「確かな力」では、ありません。「学習を通して身につけていくべき力」です。これを石狩では「育みたい力」として具体的に示しました。

4、石狩の研究



「育みたい力」を明確にし、「心を育てる題材」を用意する。子どもと題材との出会いで意欲を引き出す。子どもの思いや学びをしっかり受信していく。これらを繰り返していくことで 子どもの中に「豊かな心と確かな力」が育まれていく。子どものために充実した環境や教育課程を準備することがその基礎となる。

「心を育てる題材」

「豊かな心を育てる」ために、もっとも大切なことが、どのような題材を設定するかということです。石狩造形教育連盟では、その望ましい題材として「心を育てる題材」を提案しています。

「心を育てる題材」は新たな題材開発するということではなく、既存の題材でも「心を育てる」題材とすることができます。例えば自画像ひとつとりあげてもその設定理由により、授業の内容が大きく違ってきます。
よくある題材でも設定の仕方によって子どもの意欲も学ぶ内容もまるで違ったものになります。 題材設定の理由を本気で考えたいものです。そしてこの心を育てる題材の中で「育みたい力」が育つようにします。

また望ましい題材のあり方については北海道造形教育連盟の提案している「ひと」「こと」「もの」との「出会い」を大事にするという視点が、大事なポイントになるはずです。つまり「ひと」「こと」「もの」を切り口に「心を育てる」題材を考えると非常にわかりやすくなると思います。 そして、その題材は目の前の子どもがいて成り立つものであるということが大前提です。

「描かされる絵」と「描く絵」は違います。

「育みたい力」

学習指導要領での教科の目標は４観点で示されています石狩ではこの４観点で示されている力を高めるための「核となる具体的な力」を「育みたい力」としました。

美術教育の目標に照らした場合、ここにあげた力が全てではありませんが、特に大事な考え方を厳選しました。
なお、どの学年でもどの題材でもこれらの力を全て網羅するということではありません。 また、育みたい力は、４つに大別していますが、あくまでも目安です。これらの「育みたい力」は切り離された概念ではなく密接に関連しあっているからです。

育みたい力が核となり、関連しあいながら資質や能力を高め、豊かな心と確かな力を育んでいくことにつながっていきます。

なお、この育みたい力は教えるということもありますが、体験を通し、くりかえしていく中で育まれていきます。

さて本研究では、「育みたい力」を、より具体化して考えるために「子どもの言葉」を例として示しています。（後述）

これらの言葉は子どもの主体的な意思が働いているときに出てくる言葉です。これは育みたい力が具体的に育っている様子を示しています。 この研究は「育みたい力」がどう育っているのか、子どもの姿から（子どもの頭や心の中で何がおこっているのか）評価してみようとする提案でもあります。 （なお、子どもは教師の想定した目標を超えて、さらに素晴らしいものを生み出すことが多々あります。） 最近の授業研究では、子どもの活動の様子をビデオや写真、行動観察記録をもとに検証することも行われるようになってきました。

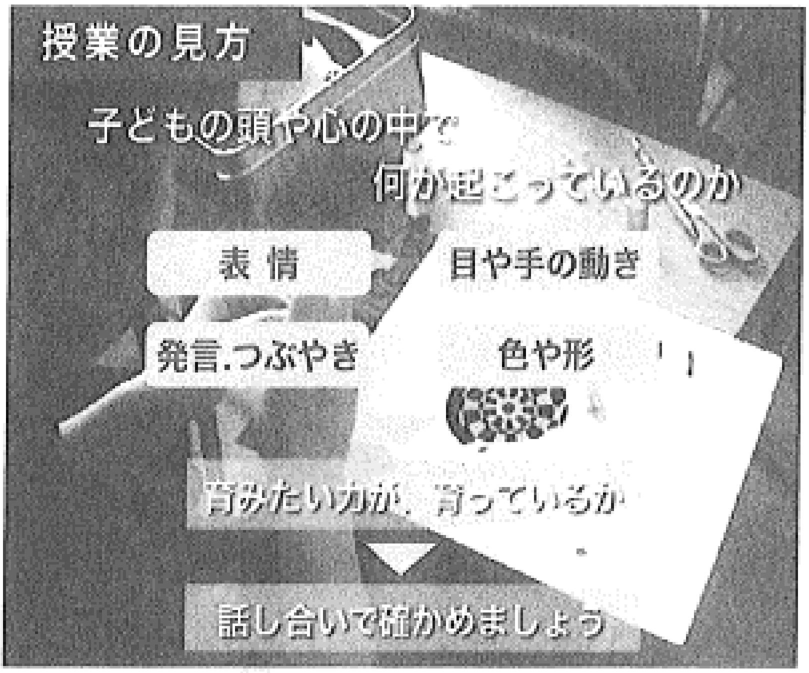
「どのような作品か、ではなく、何が育っているのか」ということが大事だからです。

この「育みたい力」は「生き生きしていた。熱心にやっていた。」という見方を具体的にしたものでもあります。

つまり、「子どもの心や頭の中で何が起こっているのか」を想定しています。

また子どもの絵をもとにしたギャラリートークなどは、絵を通して子どもの姿、学びを知る、考える場でもあります。

関心・意欲・態度	楽しむ
	追求する
	つなげる
発想・構想の力	広げる
	深める
	見通す
つくりあげる力	比べる
	選び、決める
	バランスをとる
	使う
鑑賞の力	感じとる
	自己理解
	他者理解



「育みたい力」は、子どもの中に何を育もうとするのか、それを子どもの側に立って考えてみようとする提案でもあります。

研究で示した「育みたい力」は、**子どもの主体的な意思が働いてこそ成り立つ**言葉となっています。ごく普通の授業もこれを参考にしながら、いくつかを取り入れていくと、子どもの姿が変わってくるでしょう。 この育みたい力は具体的に授業の中で子どもの姿に出てきますから、そこに着目していれば、授業改善の方向が見えてきます。

「題材との出会い」

子ども達に題材をどう提示するか、これはとても大事なことです。

どんなに栄養豊富な料理であっても食べてもらえないことには…

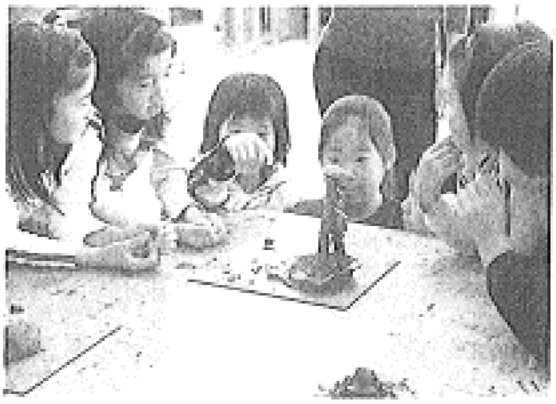
子どもが題材と出会った場面で、「やってみたい！」「こうしてみたい！」「やる価値がありそうだ」というように強い意思を引きだせたら その授業は半分は成功したようなもの。子どもは意欲的に活動していくのは私たちがよく経験するところです。子どもと題材との「出会い」をどう工夫するか。 授業づくりの醍醐味でもあります。

「教師の受信」

小さな子どもの絵は「心の窓」「子どものお話」「あのね…」などとも言われています。しかし、基本的には学年が進んでも同じです。子どもの発信を受けとめる教師の感性も高めたいものです。教師のこの感性をみがけば、授業はよりおもしろくなります。子どもに絵を描かせていて、教師は内職？とんでもない！目の前で子どもは素晴らしいことを思い、考えている、その子らしさが見えてくるでしょう。

子どもを理解するためにも図工美術の時間は教師にとっても貴重な時間です。子どもの作品は生きている証ともいえるのですから。

そしてもっと大事なことは、子どもの制作過程の中でたくさん見えてきます。子どもの目の動きやしぐさ、つぶやき、などから子どもの学びを見ていると教師にすべきことが見えてきます。



図工の時間が学級経営につながるとよく言われますが、これは図工・美術の授業の中で「共感する、受容する」ということもその一つの要因でしょう。そして何よりひとり一人出す答えが違うということがあります。

このようなことが、美術教育は人間形成に大きく貢献すると言われるゆえんでしょう。

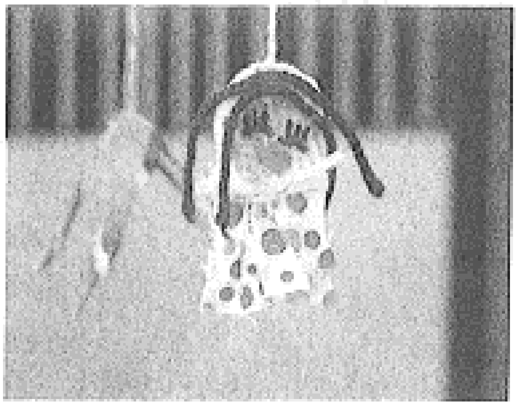
「教育課程」

指導計画づくりでは、子どもの発達特性を踏まえておくことが必要です。 ただし、発達特性にしばられすぎることは新たな弊害を生みます。目の前の子どもを「発達特性」というフィルターを通して見てしまうからです。

「発達段階」とも言われますが、これまでの理論では「発達段階」の最終段階が写実的な表現をモノサシにしているという限界があるということも押さえておきたいことです。 教育課程を編成するということは「題材」を設定していくということでもあります。それぞれ題材は切り離して考えるのではなく、題材どうしが密接につながるように組んでいくことで、教育効果はより高まります。 つまり題材と題材をどうつなげていくかということです。

「環境」

「環境が人間をつくる」という言葉があります。 しかし意外と語られていないのがこの「環境」です。 環境がこどもを育てるということは、幼稚園で使われる「環境の構成」という考え方から学びたいことです。 環境には人とモノがあります。



「育みたい力」

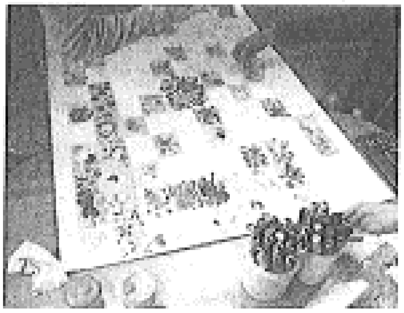
石狩造形教育連盟研究部 2008 年 7 月 10 日版

★印がついているのは、１０歳以降（一般的な傾向）が中心となるでしょう。しかし、その芽は幼児期から。

関心・意欲・態度

楽しむ

・わくわくしてくる
・もっとやりたい！
・え？もうおしまい？
・はまった！



　小さな子は描くことそのものを楽しむ。**学年に応じた楽しさの質**を考えたい。楽しさをうみだすために題材設定、題材との出会いの場面はとても大切。もちろん素材そのものが持つ魅力も大きい。

　描いた絵について**共感される実感**は（自己肯定感を育む）楽しさ（喜び）を生み出す。特に幼児期や小学校低学年くらいまでは子どもの絵は子どもの言葉でもあり「あのね、」を受けとめる大人（教師や保護者）の受信はとても重要。学年が進むにつれて直接的な「あのね、」は出てこなくなるが、それは年齢が進もうとも基本的には同じで、今度は級友が「あのね」を理解しあうことが大事になってくる。「子どもは芸術家である。」というとらえ方もあるが、「絵はお話、絵は心の窓」ということを忘れてはならない。中学校以降では真剣に取り組んで得られる「楽しさ・おもしろさ」が大切になってくる。

▼（共感される実感が生まれない例）

「先生！できました！」

→「じゃ、そこに置いといて」→「では、ここは、こうしなさい」

追求する

・こうしたい！
・苦労したけどやったなあ！
・もっといいものにしたい。★

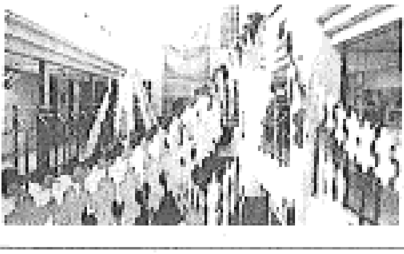
子どもが課題意識を持って、どうしても実現させたいと思ったとき、子どもの中に**「こうしたい！」**が生まれる。大人の目には、それが「こだわり」と見えたりする。これは、よりよいものを目指す意識のあらわれ。

特に中学生・高校生ではこの「追求」を大事にしたい。何より、彼らにとって題材に取り組むことに**「価値を感じる」**ようにしたい。

追究の結果、その手応えは大きなものとなる。追究があってこそ達成感が生まれる。

つなげる

・あ、あの方法が使えそう
・なるほど、そうだったのか。



　学んだことを他に生かしていく力。生きてはたらく力。

「つなげる」力は実は教師にこそ求められる力。

各題材で育んだ心や力を他題材（さらに他教科、他領域、）や他教科、日常生活ともつなげるように工夫したい。

つなげる力を生み出すためにも教育課程の編成は重要である。

　授業のあとの**「ふりかえり」**は子ども自らが、自分の学びについて再度考えることでもある。この積み重ねは、子どもが学びをつなげる力を育てていく。

発想・構想の力

広げる

・この形、〇〇みたい！

・あ、いいこと考えた

・もっと違うこと考えてみよう

発想する力とは、自分の**感じ方や考えを広げていく**力でもある。これは幼児期の「**見立て**」などはからはじまる。

教師の投げかけや、環境、あるいは鑑賞などによっても（逆に狭めることもある）発想が広がっていく。発想をより豊かに広げるためにも、題材との出会いの場面も工夫したい。

小学校高学年以降の想像の絵やデザインを考えるような授業では、アイディアスケッチを何枚も描いたり、交流したりすることで（子どもの数だけ答えがあるのでおもしろい）子どものもったイメージをさらに広げていきたい。

また、造形遊びのような活動は色や形や材質に対しての感じ方や考え方を広げていく。このような体験の積み重ねは中学校で開花する。

深める

・あ、そうだ、こうしてみよう

・もっとかっこよくしたい。

・ここを、こうしてみたらどうだろう

・構図をもっと工夫してみよう。★

思いついたアイディアをもとに、「これを、もっとよくするには、どうしたらいいだろう？」と、考えを深めていく。

「ひらめき」や「思いつき」を、深めて**よりよいものにしよう**とする。考えを組見立てることで、よりよいものが生まれる。

小学校高学年以降では、子どもがぱっと思いついたことを、すぐに、そのまま作品化するのではなく、もっとよい方法はないか、もっとよくならないだろうか、など考えを深めていくような場が重要になってくる。

見通す

・こういう順序で進めていけばいいんだな

・やった！設計図完成！

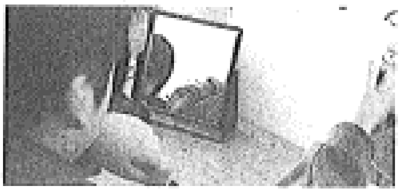
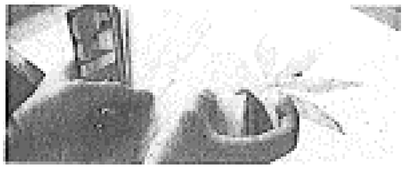
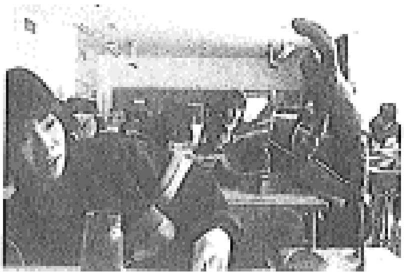
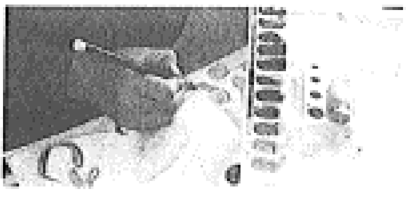
完成をイメージしながら、それにそって見通しを持って表現に取り組む。

仕事の「**段取り**」や「**手順を**」考えることも見通しを持つことである。

ただし、全ての表現活動が見通しを持ってなされているわけではない。むしろ見通しがない中での表現の活動のおもしろさもある。描きながらどんどん変わっていく「つくり、つくりかえる」おもしろさもある。

ここに示した「育みたい力」は、**子どもの主体的な意思が働いてこそ成り立つ**言葉となっています。ごく普通の授業もこれを参考にしながら、いくつかを取り入れていくと、子どもの姿が変わってくるでしょう。この育みたい力は具体的に授業の中で子どもの姿に出てきますから、そこに着目していれば、授業改善の方向が見えてきます。ただし、この「育みたい力」は図工美術教育のすべてを網羅しているわけではありませんが、大事なことは言っています。

つくりあげる力

比べる ・あれ？目が大きすぎたみたい。 ・ここはどうしたらもっとそっくりになるのかなあ。★ 	日本では一般的には10歳前後から生まれてくる**「ホンモノみたいに描いてみたい」**という欲求（個人差が、大きい）が生まれてくる。 これに対し、教師として、どう支援していくか、シンプルかつ効果的なのは、「比べる力」を育てることである。 色や形を客観的にとらえるときに頭の中では、形の位置や大きさ、あるいは色や明暗の違いなど様々な比較がなされている。 （長さ、量、明暗などを）「比べる」ことの繰り返しによって、客観的な表現が出来るようになっていく。
選び、決める ・どの色にしたらいいかな ・完成にしようか、どうしよう？ 	授業の中で**「選択意思決定場面」**を豊富に用意したい。 それは学びを主体的にし、その子らしさ（その子自身）をつくりだしていくことにつながる。 表現は様々な**「価値葛藤」**をしていく中で、選び、決める連続によって成り立っているともいえる。 これは、よりよく生きていこうとすることにつながる。
バランスをとる ・ここの色が強すぎるみたいだ ・どうもこの部分が物足りないなあ 	かいた形、構図、色彩のなどの調和を生み出すためにバランスが大切である。美を追求するとき**「統一と変化」**や**「全体と部分の関係」**などが重要であると言われている。これは、言いかえると全体のバランス、調和の問題である。この力は制作途中の作品を**「はなれて見る」**ことによって引き出しやすい。 （教師）「ちょっと、手をおいて、作品から離れて見てください。」 （子ども）「（離れてみて）あれ、何だか、ここが、大きすぎるみたいだ」「ここを直そう」。教師から指摘されて形を直すのと子ども自らが気付き、自分で直すのとでは、学びの質は大きく違ってくる。「はなれて見る」ただ、それだけのことなのだが、非常に効果的である。 絵を作品として意識しだす中学年以降に有効である。
使う ・わっー、きれない色ができた！ ・こうすれば怪我をしないのか。 ・そんな方法があるんだ！ 	様々な表現技法や色・形・材に関する基礎知識（体験）を自分の表現意図にあわせて使う力。 技法は子どもの中に必要感、必然性があってこそ、生きてはたらく力となる。 表現技法は教えるのか、育てるのか、慎重に考えていく必要がある。本当に必要であれば子どもは「技」を生み出す、「工夫」をする。なお、教師が押さえておきたい表現技法については、石狩でＤＶＤをつくりましたので、ぜひご覧ください。

鑑賞の力

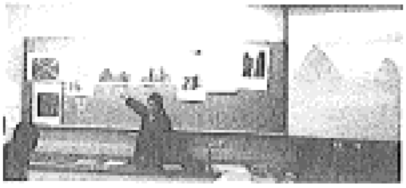
感じとる

・すごくきれい！

・なんか、わくわくしてくる色です。

・これをつくった人の気持ちや考えを想像したら、それがいかにすごいことであるかがわかりました。

・こんなところで美しさを発見！



私たちの生活はさまざまなモノがあふれている。ややもすると消費社会の中に埋没し、流行に流されることもある。価値規準を自分の外におきすぎる面もある。

鑑賞や造形活動の豊かな体験の積み重ねが子どもの中の「感じとる」感性を鋭敏にしていく。

また長い年月をかけて受け継がれて来ている価値あるものもある。子どもにそのような価値あるものと出会わせる。そこに鑑賞の役割がある。

このような活動を通して**価値観・美意識を更新**していく。

名画や級友の作品だけが鑑賞の対象ではない。

道ばたに咲いている花からも美を感じとる感性も大事にし、育てていきたい。

自己理解

・私は、この絵が好きだなあ、というのは…

・僕の絵はそんなよさがあったのか！

鑑賞の中で作品に対する自分の思いを語ることは、結局、自分自身を語っているともいえる。鑑賞を通した「自分なりの見方」も大切にしたい。

対話による鑑賞の授業などでは他者の感想を聞きながら自分の見方、感じ方が深まったり、高まったりしていく。

相互鑑賞の場面での級友の感想を通して新たに**自分の価値を気づく**ことも多い。こうしたことは自己肯定感を育むことにつながっていく。教師の評価や言葉かけも大切である。

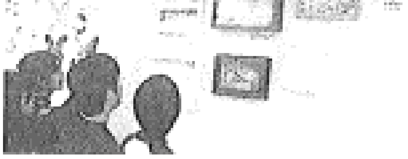
図工美術では出す答えは、子どもの数だけある。その実感が自己理解をうながす。

他者理解

・作者の戦争への怒りを感じました。

・このデザインは使う人への優しさがあると気づきました。

・みんな違っておもしろい！いろいろな考えがあるんだ。



美術作品は**コミュニケーションのための優れたツール**である。それは他者（作家や級友あるいは地域や文化など）を理解することでもある。

他者を理解する体験の積み重ねは美術のおもしろさを味わうとともに、表現への意欲を生み出す。

鑑賞の副産物として言語能力も高まるということがある。（「対話による鑑賞」などでは、自分が感じたこと、発見したことをどうしても級友に伝えたくてしかたがなくなる。だから伝えるためにことばを考えるようになる。）

大地太陽幼稚園

2008年7月28日

全道造形教育研究大会いしかり北広島大会

公開授業　❶ 題材名 “つながる人と自然”

ようこそ大地太陽ひろばへ！

児童　年長5歳児・年中4歳児・年少3歳児
指導　大地太陽幼稚園教諭

大地太陽幼稚園
北広島市大曲 784-106
TEL 011-377-1133 FAX 377-2233
http://www.daichitaiyou.ed.jp

大地太陽幼稚園の保育方針 ② 題材の目標

保育のテーマは、「夢みる力。」「ねっこの力。」

●意欲と自主性、思いやり

●ともだちとあそぶ・いろいろな人とふれあう

友達と遊ぶ楽しさから、人の気持ちがわかるようになる。やさしさ、思いやりの心を育てる。

●自然とあそぶ

木と土と光と水と‥存分に関わり感じる心を大切に。

●存分にイメージをわかせ、創り出すことを楽しむ。

知性と感性のねっこを育てる。自分で考え、行動する。工夫して創り出す喜びを味わう。

2008年　コンセプト

『つながり』をみつけるプロジェクト

探究の視点は、古今東西、万象の不思議に、視野を世界に広げる。

『つながり』

大地太陽の教育のしかた
教育のねらいで大事にしていることは
つながりです。

人と自然のつながり。
人と人のつながり。

時のつながり、人のつながり、食のつながり、
物のつながり、言葉のつながり、文化のつながり。

つながりでできている自然。
つながりでできている人のくらし。
つながりでできている文化。
つながりでできている地球環境。

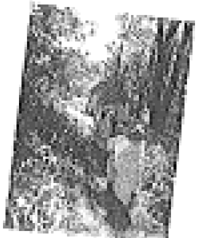
みんな、つながりあっていることを知る。
このことが一番大事な勉強。気づきです。

つながりをみつける。
つながりに気づく。
つながりをたどり、ふかめ、ときあかす。

"つながり"を今年の教育のテーマ
にして、たのしみ心わかせます。

毎日の生活、くらしの中に
気づいたこと、興味を持ったことから、
つながりを調べることのおもしろさと
ふしぎのたのしさにふれさせたいです。

2008.4.5
園長 坂本行正



③ 題材について

大地太陽幼稚園の慣れ親しんだ自然の中で本気で遊ぶ。安心し、気持ちを開放的に存分に楽しむ。素材にとことん触れられる環境と、3・4・5歳児が一緒に混ざり合って遊ぶ環境。

異年齢が一緒に活動することで、いろいろな関わり生まれます。遊ぶ中で、人とのかかわり方は、考えること・気付きから相手を思いやる気持ちへと自発的に芽生えていきます。学年・クラスを問わずたくさんの友達と一緒に、互いに伸び伸びと力を出し合い、時にぶつかり合いながらも自分達で問題解決しようと、充実感を満たし過ごすことができます。

また、「自主選択活動」は、自分で活動を選択し取り組むので、目的意識や興味関心を持って遊びにとことん取り組む姿が見られます。好奇心を活かせて取り組むことで、遊びも無限に発展し続け、「おもしろい・楽しい」がずっと続きます。

今回の題材は環境を考える上で、まず自然そのものが持つ特質や素材の本質に触れることから楽しさ、大切さを体験する、自然を知る意味をもちます。自然の感覚をつかみ、イメージの世界へと自由に発展する「土プロジェクト・夢プロジェクト・色プロジェクト」それぞれのゾーン(村)で遊びが膨らみ、それらが、いのちを育む『水』を中心に「土・森・はらっぱ」と自然を通してつながります。人と自然が集い、人と人、自然と人、みんながつながることが無限に広がる「夢みる力・むすびの力」の源です。

④ 園児観／指導観

大地太陽ひろば(園庭)には、豊かな自然がたくさんあり春・夏・秋・冬の一年中自然とともに生活しています。日々四季の変化を体で感じており、子ども達の生活と自然は切り離すことの出来ないものです。特に、春から夏にかけては、素手・素足になって、土・草・森…たくさんの自然を実際に肌で触り、五感の全てで自然を感じています。

また人との関わりは、日々の活動から学年・クラスの枠をこえて大きな子も小さな子も混ざり合い、大人も担任のほかに活動ごとに関わる保育者やチームティーチングと言ったカリキュラムなど日常的に園の全ての人と関わるオープン保育でつながりを持っています。

一年を通して保育形態を同じ歳の少人数クラスから、異年齢の混ざる縦組へ段階編成やその中に自主選択活動が入るなどのバリエーションを実施しています。子ども達一人ひとりの底力「個の力」と園全体が一体となる盛り上がり「集団の力」を大地太陽ならではのオリジナルの保育の研究で、年齢にこだわらずいろいろな友達、人と関わることで、個性の違いを認め合ったり、新しい自分に気付いたり、可能性がどんどん広がっていきます。

⑤ 題材の中で育みたい力

関心・意欲・態度	楽しむ	身体全体を使って、とことん楽しむ。
	追求する	見つけたこと、感じたこと、発見したことに興味を持って、調べてみる。
	つなげる	活動を通して、自然や友達とのつながりを持ち心を通わせ合う。絆・むすびつきを深める。
発想・構想の能力	広げる	活動の中で、新しい遊びを広げる。 友達との関わりを広げる。
	深める	"やりたい"の思いから、とことんこだわり追求し作り込む。(年長5歳児くらいから)
	見通す	関わりから相手の気持ちを知る。 ものの成り行きや過程を予測する。
つくりあげる力	選び、決める	自ら、"やりたい" "やってみたい" の気持ちを湧かせ活動を自分で決める。
	バランスをとる	えのぐの濃さや、重ねたい色などを考えて自分で調整する。(年長5歳児くらいから)
	使う	木・葉・土・粘土など自然のものを工夫して使い、遊びを広げる。
鑑賞の力	感じとる	自然の不思議・生きる力・小さな命など、発見する楽しさを味わい感じとる。
	自己理解	友達との関わりと通して、自分と相手の違いに気付き、認め合う。
	他者理解	自分の思いを素直に表現する中で、みんなが違うことに気付き、みんながちがうことのおもしろさを感じる。

⑥ 題材の指導計画

過程	内容
題材との出会い	日々の生活の中で、自然と触れ合い、異年齢の友達と関わり 自主選択活動を行う中で、自分の好きな遊びを見つける。 兄弟ペアクラスで、「土・森・はらっぱ」等の自然の中で遊ぶ。 ↓ 自主選択活動へ 自分で決める。自分で見つける。
発想	好きな遊びにとことん取り組み、一人ひとりが自由な発想で遊びを発展させ、みんなで楽しむ。 毎日の積み重ねが、つながって日々遊びが変化していく。
構想	各ゾーンで工夫して、それぞれの魅力を深める。 子どもの成長とともに、遊びも変化していく。 遊びとともに子どもも成長していく。
表現	「土・森・はらっぱ」の各ゾーンが自然を通してつながり それぞれの自由な表現に触れることで、遊びが広がる。 自分の遊びの表現にとり入れる。

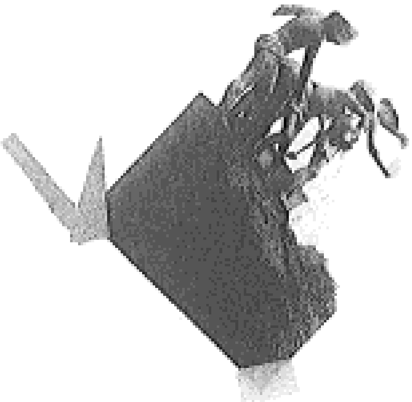
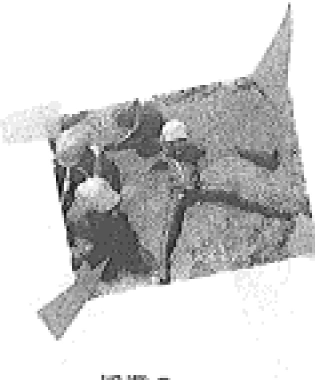
⑦ 教育課程・学習指導（ねらい・受信の観点・展開）

◎ 土プロジェクト指導計画
「自然素材の研究」
水と土ゾーン　　　　　　　　　　～土の村～

《保育のねらい》

大地に広がる"土"大地を潤す"水"、自然素材の特質を身体全体で感じ感覚を養う。
全身で遊ぶ開放感を満喫することで感受性を高める。大地と水をとことん知る『土の村』

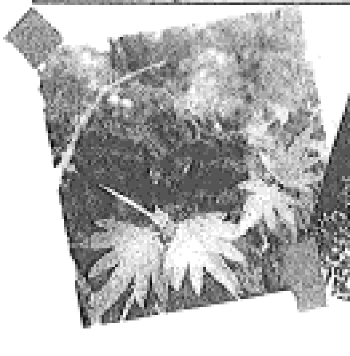
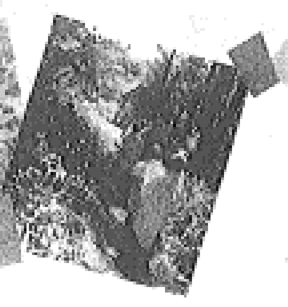
育みたい力	活動内容	予想される子どもの姿	教師の動きと配慮事項
存分に 感じる 楽しむ	☆土の感触 ・素足・素手でフワフワの土の感触を感じる。 土山で道作り。穴掘り。	・勢いよく土山に駆け上り素足で感触を楽しむ。 ・ゆっくりと土の表面に触れ、感触を確かめる。 ・自然に遊びが始まり道をつなげ合ったり遊びが盛り上がる。	・存分に土の感触を楽しめるように子ども達の豊かな発想を大切に活動を展開していく。 ・サラサラの土が子ども達の目や口に入らないよう周りを見て遊ぶこと、人に土をかけない等のルールの確認
深める 広げる	☆土と水の感触 ・素足・素手で土の変化と感触を感じる。 ・浸透していく水。土の変化を知る できた道に水を流し川やダム作り。 《発展》 ピカピカ泥ダンゴ作り	・水が加わることで土の変化を楽しむ。 ・一人の遊びが発展し、複数の遊びへとつながる。協力しあう。 ・ひとつの遊びに夢中になり追求する。 ・全身でおもいっきり土、泥を感じる。	・自由に水を使うのではなく、時間を見ながら土→水→泥それぞれの感覚を楽しめるよう様子を見ながら水をだしていく。 ・子ども達と一緒に遊びながら、変化を伝える。 ・自分から泥を触れない子への配慮。遊びにつなげる。 少しずつ触れるよう促す。 （体験してわかることを教える）
追求する 広げる	☆どろんこあそび ・ダイナミックに全身で泥の感触を楽しむ。 ・どろんこプール 《発展》 泥のウォータースライダー	・水の流れを利用し出来た土の滑り台で滑り始める。 ・泥を全身に塗る。塗りあう。	・変化の楽しみを一緒に感じる。みんなに伝える。 ・遊びの提案。きっかけ作り。 ・はだかになって遊ぶので子ども達の次の行動を予測し、けがや危険に気をつける。
使う	☆水 ・池で水遊び ・五右衛門風呂で体を洗う。	・水の冷たさ、お湯の温かさを感じる。 ・体をきれいに洗い合う。	・自分で着替える。片付ける。下洗い。身支度の自立のきっかけ、習慣づけ。 ・順番を守って友達と一緒にお風呂に入る。 ・体を、しっかり乾かす。

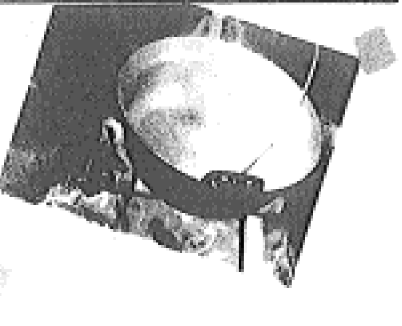



◎ 夢プロジェクト指導計画
「イマジネーションファンタジーの研究」
水と森ゾーン　　　　　～森の村～

《保育のねらい》
楽しさ明るさを、いっぱいうみだす「夢みる力」イメージすることが豊かな心　夢　育む。
遊びから賢い頭と強い心。そして、衣・食・住を考えていく。水とくらしの環境について学ぶ『森の村』。

育みたい力	活動内容	予想される子どもの姿	教師の動きと配慮事項
イメージを湧かせる	☆イメージを湧かせる ※きっかけづくり ・森の村オリジナル楽器演奏。(木の枝のバチ等) ・森の村の劇、パフォーマンス。	・音にあわせて体を動かし始める。 ・リズムにのってはずむ。 ・気持ちもほぐれる。	・みんなで共有する雰囲気作り、場を盛り上げて気持ちをときほぐす。
深める	☆なりきる(衣) ・事前に作った冠や布の衣装を身にまとい森の民族になりきって遊ぶ。	・衣装を身にまとうことで、気持ちが高まる。 ・その場にある枝や木の葉を使い衣装に更に飾りを付ける。	・全員分の衣装があるように事前にある程度の数を用意する。 ・その場でも、簡単な(冠程度)衣装が作れるように素材を用意しておく。
安心感 つなげる 広げる	☆基地(住) ・住居づくり(住) ・森のテント ・ツリーハウス ・森の基地 拠点にしてあそぶ。 ☆自然の恵み(食) ・ミントや木の実など、実際に食べられる食材を、森の中で味わう。 ・事前に作った土器や、木の葉などを器に、みたてて ごっこ遊びをする。	・自ら、イスやテーブル、寝床などを配置して住みやすい部屋を作る。 ・友達同士、協力しあい進めていく。 ・相談しながら決定していく。 ・土、草、木の実などを使ってごちそうを作って遊ぶ。 ・作ったごちそうを分けあい、友達との関わりが広がる。	・特にツリーハウスに関しては、危険の無いように注意して見る。 ・イスやテーブルなど、家具として使えそうな素材を用意する。 ・一つひとつに愛着が持てるように、日々子どもと作っていく。 ・実際に口にするものに関しては、十分に注意する。 ・土粘土の器がその場でも作れるように、粘土も用意する。
楽しむ	☆ダンス・歌(楽) ・みんなで考えた、森の村の踊りや歌で楽しむ。 ・森の村の祭り。	・それぞれで遊んでいる所でも、口ずさんだり踊りに参加したり森の村で一体感を感じて、遊ぶ。	・事前に、子どもたちと歌や踊りを考えて、誰でも親しみやすい環境を作る。 ・一体感を持つように、中心になって盛り上げる。 ・歌・踊りの意味をしっかり持てるようにする。

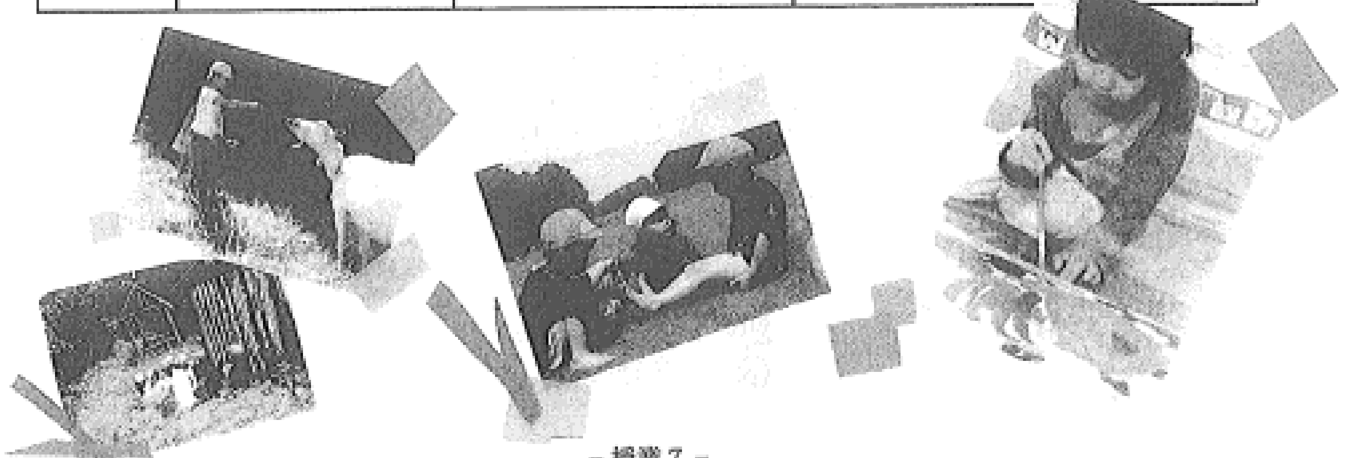





◎ 色プロジェクト指導計画
「制作表現の研究」
水とはらっぱゾーン　　　　　　　　　～はらっぱの村～

《保育のねらい》
自然がうみだす　色　を　水　によって引き出し不思議を探求する『はらっぱの村』。
色の発見、実験から発展し、制作・表現活動へと創り出す喜びを味わう。

育みたい力	活動内容	予想される子どもの姿	教師の動きと配慮事項
不思議に出合う 選ぶ 決める	☆実験遊び ・透明の水に太陽の光を集めたり色水を混ぜて色の変化を楽しむ。	・おもしろい、不思議だなぁと好奇心を膨らます。 ・色水を自由に混ぜあわせることで、変化する色を予想したり、また出来た色を見て色の混ざりあいの不思議に気づく。	・自然の不思議に出合う喜び、楽しさを伝えもっともっと探求を膨らませる。 ・すべての色を一度に混ぜないように一つひとつ考えながら取り組むように声をかける。 ・色が変わる瞬間を見逃さないように注意する。
比べる	☆草木染め ・自然素材を使って布を染める。 ・染めた布を使って、衣装や小物など身近なものを作って楽しむ。 ・草をすりつぶして、色を作る。	・素材によって違う色になる事に気付き自分の好きな色を見つける。	・染めに使う素材の本来の姿をしっかり子どもに伝える。
広げる	☆やなぎ遊び ・やなぎの皮や幹で、飾りや冠など身に付けるものをつくって見せ合う。 《発展》 やなぎの衣装 ダンスパーティー	・自分の気に入ったものを作るのに集中して取り組む。 ・友達同士作ったものを見せ合い、お互いに良い影響を受けて、作品を作りあげる。 ・やなぎの木の感触を楽しむ。	・素材を使いやすいように配置し、制作に集中できる環境を作る。 ・たくさんの試作を作り、教師もアイディアを広げていく。 ・子どもの中から出てきたアイディアを拾い、その発表の機会を作る。
使う 追求する	☆アート ・心に感じたこと、絵として残したいことをその場ですぐに描く。	・絵が好きな子どもが集中して描く。 ・各ゾーンを離れて絵を描きにくる。 ・外で描くことで、開放感を感じながら気持ちが前面に出た絵になる。	・絵が描きたくても、何を描くか迷っている子どもに対しては、簡単なテーマをあたえる。 この時、一人ひとりに合った適切な言葉をかける。言いすぎに注意。 ・描きたいと思った瞬間の気持ちを大事にするために、いつでも描ける環境設定をする。

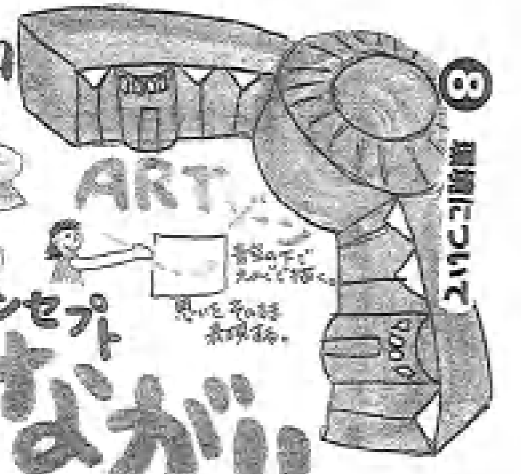


⑧ 環境について

3・4・5歳児 異年齢活動

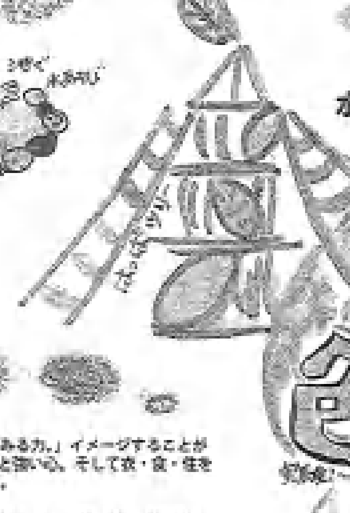
つながる人と自然

ようこそ！大地太陽ひろばへ



2008.コンセプト つながり

水をテーマに
『土プロジェクト』
『夢プロジェクト』
『色プロジェクト』 3つのプロジェクトチームから研究していきます。



水と土ゾーン "自然素材の研究"

土プロジェクト

保育のねらい

大地に広がる"土"大地を潤す"水"、自然素材の特質を身体全体で感じ感覚を養う。全身で感触遊びを満喫することで感受性を高める。大地と水をとことん知る『土の村』。

活動内容

①土の感触を素手で素足で感じる‥‥土に水を加えていくとどうなるのか？乾燥したさらさら土から丸まりやすい土になり、形が作れないどろどろ土へ姿を変えていく。

②どろんこあそび‥‥パンツ一枚になって土山から水を流しダムを作ったり、どろんこすべり、どろんこプールと全身で土と水の混ざり合った"どろんこ"にとことんかかわりダイナミックに遊ぶ。

③くらしの水を知る‥‥体をきれいにしてくれる水。大地に水が浸透していく。活動の最後は池や五右衛門風呂で土を流し、くらしを支える水を知る。

保育の留意点

・存分に土の感触を楽しめるように子ども達の豊かな発想を大切に活動を展開していく。

・はだかになってダイナミックに遊ぶので子ども達の次の行動を予測し、けがや危険に気をつける。

水と森ゾーン "イマジネーション ファンタジーの研究"

夢プロジェクト

保育のねらい

新しさ、明るさをいっぱいうみだす「夢みる力」イメージすることが豊かな心"夢"育む。あそびから優しい心と強い心。そして衣・食・住を考えていく。水とくらしの循環について。

活動内容

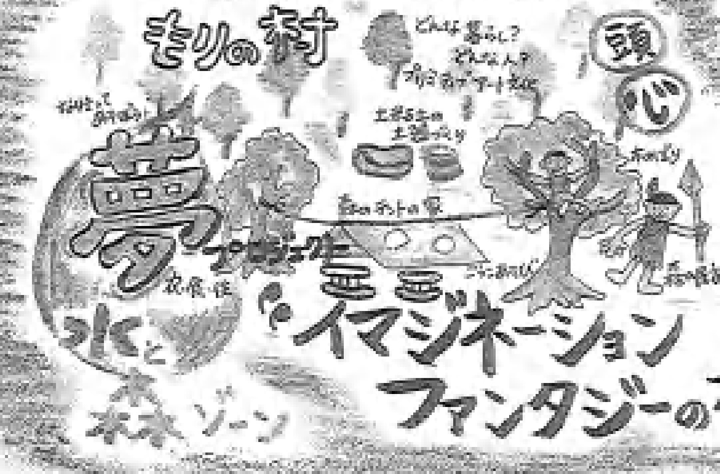
①なりきりごっこあそび‥‥人が生きていくこと、衣・食・住を知り、空想の民族になりきって自分たちの生活を考える。森の中にテントを張ったり、畑で野菜を栽培したり‥。一致団結する民族ダンスにパフォーマンス。知恵を出したり協力したり、人との関わり生活力を身につける。

②いのちを育む"水"‥‥生活を考えることから、全てを巡る水を発見する。作物、大地、空から、人の体の中、川、海‥。地球の大切な資源『水』とくらしのつながりを体験する。

保育の留意点

・ごっこ遊びの盛り上がりから夢を広げていくように子どものつぶやきをヒントに。

・水を大切に暮らし、資源を節約する心を伝える。



水とはらっぱゾーン "制作表現の研究"

色プロジェクト

保育のねらい

自然がうみだす"色"を"水"によって引き出し不思議を探究する『はらっぱ村』。色の発見、実験から発展し、制作・表現活動へと創り出す喜びを味わう。

活動内容

①光と水の色実験‥‥水は無色透明だけれど太陽に光を通すと自然の光を映しだし色をもつ。虹のスペクトル、色水づくり。

②草木染め‥‥自然の色探し。植物のもつ色を染料にして染めもの制作。

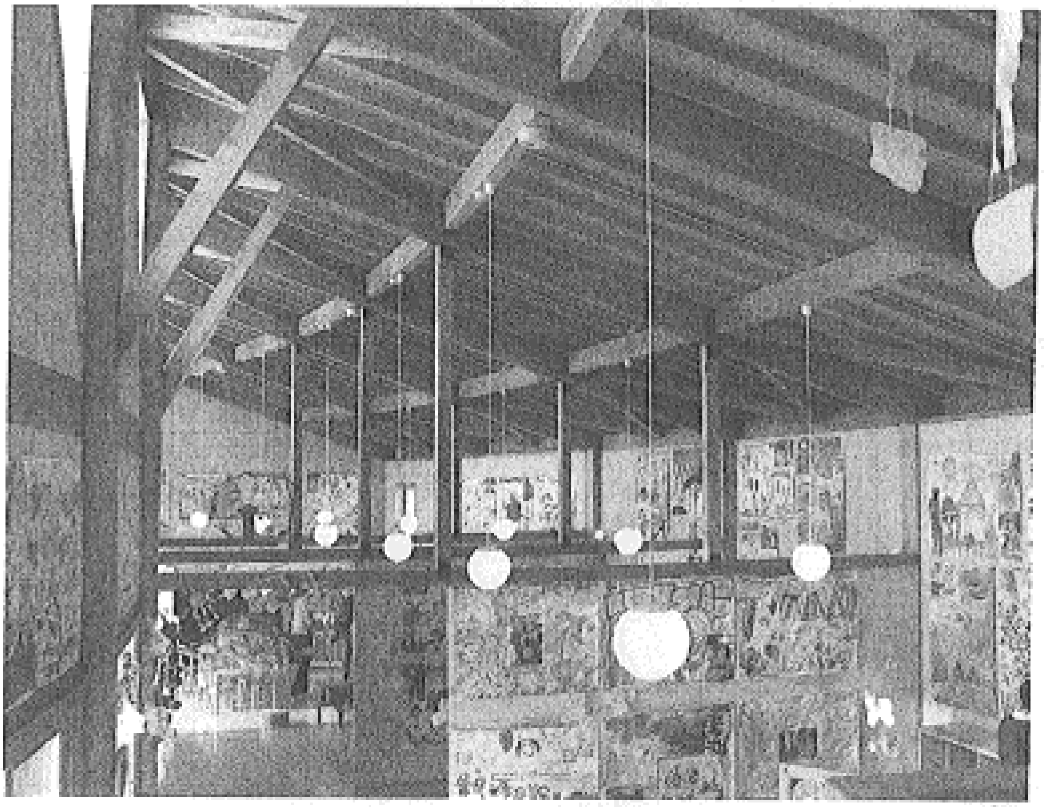
③やなぎの木の皮で装身‥‥水分を多く含むやなぎの木の皮をむいて、木肌の色に匂いを感じる。皮は編んで冠やブレスレット作りなど集中して指先を使いじっくり取り組む。そして身につけ見せあっこ。

保育の留意点

・実験で得た経験を皆に知らせ、感想や発見実験を行ない関心を深める。

・じっくり取り組む制作と作ったものを表現として発表する工夫を。

授　業	幼 稚 園・特別支援



障がいを抱える児童にとっても、
幼児にとっても
「環境」は非常に重要です。
どのような環境を構成するか
そこに教育観が出ます

参観は…

特別支援は大曲東小学校で
幼稚園は大地太陽幼稚園で

全道造形教育研究大会　自立活動学習指導案

北広島市立大曲東小学校　特別支援学級(男子６名　女子６名　計１２名)
２００８年７月２８日（月）　授業者（ＭＴ）　教諭　森　　正人
支援者（ＡＴ）　教諭　佐藤　芳幸・村上　咲枝
中田　浩子・山本　賢祐
介助員　矢代ゆかり・細貝　敏江

１　題材名　「あつめよう、ならべよう　何に見えるかな？」
（様々な素材による造形遊び活動・３時間）

２　題材について（心育てる題材）

本題材では、児童にとって身近な様々な素材の遊具を利用して、自由に造形遊びを展開する。これまで児童たちは、週に９０分程度の造形活動『てしごと』の学習に取り組んできているが、特別支援教育には自立活動という指導領域があり、『てしごと』はその中に位置する学習活動として計画している。

障がいを抱える児童にとって、環境は活動条件として大きなポイントとなる。「活動したくなる」欲求は、時に聴覚刺激で生じ、時に視覚刺激で生じ、時に頭に浮かんでくる記憶に触発されて生まれてくる。特別支援教育の対象となる児童には、外的環境に応答することが困難か、その意識が弱い場合が少なくない。物や人と遊ぶことがなかなか難しい児童が、意欲的に、主体的に外的環境とかかわることを目指すことは、簡単そうで難しい。訓練的な活動では、なお一層「楽しむ心」を育てることが難しい。

この題材では、目の前にある様々な素材を見て、触れて、動かしていくうちに、素材とかかわる面白さを感じ、素材の集合体として見えてくる目の前の情景に個々の記憶を重ねながら、知識や記憶を再構成（造形的に表現）していく活動を楽しもうという試みである。

３　児童観／指導観

本校の特別支援学級には、肢体不自由学級、情緒障がい学級、知的障がい学級の３学級があり、各教室に障がい区分ごとの異学年学級集団が編制されている。また、基礎学力を育てる学習場面では、学級集団とは別に『個別の教育支援計画』に基づく学習集団も構成して、より効果的に障がい特性に対応した学習効果を期待して指導している。

『てしごと』では、各児童の発達段階の違い、定着している技能の違い（障がい状況の違い）があることを前提とした集団として、学習活動を計画している。児童間に可能な限りコミュニケーションの機会を設け、互いの理解や協力、場合によっては反目や衝突などを体験させることで、一緒に活動することの楽しさと難しさを実体験することが目的となる。

また自分の価値判断の中で「いいなあ」と思うことにより、「まねしてみよう」という気持ちや、「自分はこうしてみよう」という気持ちが生まれることも多く、自然発生的に主体

性や意欲が導き出される集団学習のよさを生かすものである。

あわせて、私の自立活動の指導の基底には、「ムーブメント教育・療法」の考え方を取り入れている。これは『人間尊重の教育』で知られるアメリカのM.Frostig博士（1906－1985）が、長年にわたり実践された教育のとらえ方であり、※1「子どもたちの活動は、彼ら自身の衝動によって生まれるのではなく、むしろ彼らの思想や深い感情からそうなるように、教師は援助すべきである。また、そうした活動の結果も教師は子どもに見せ、思いやりと知性をもって問題を解決させるよう援助すべきである。」という考え方である。※2認知的な教育は、むしろ人間関係での経験、感情の感受性によって特色づけられた方法の教育で統合されるべきなのであると、私自身が共感するものである。

（※1　※2　日本文化科学社　フロスティッグのムーブメント教育・療法　より引用）

4　題材の目標

本題材に限らず、『てしごと』の指導目標は年間を通じて、「社会生活に必要な技能やコミュニケーション能力を育てるために、意欲的な造形活動を通して、題材を楽しむ心と表現する力を養う。」である。

自立活動としての『てしごと』を進めるに当たっては、以下の学習指導要領の内容を基本として個々の障がい状況に応じた題材目標を想定している。

●自立活動の目標；個々の児童又は生徒が自立を目指し、障がいに基づく種々の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達の基盤を培う。

●自立活動の内容：

1　健康の保持
（1）　生活のリズムや生活習慣の形成に関すること。
（2）　病気の状態の理解と生活管理に関すること。
（3）　損傷の状態の理解と養護に関すること。
（4）　健康状態の維持・改善に関すること。

2　心理的な安定
（1）　情緒の安定に関すること。
（2）　対人関係の形成の基礎に関すること。
（3）　状況の変化への適切な対応に関すること。
（4）　障がいに基づく種々の困難を改善・克服する意欲の向上に関すること。

3　環境の把握
（1）　保有する感覚の活用に関すること。
（2）　感覚の補助及び代行手段の活用に関すること。
（3）　感覚を総合的に活用した周囲の状況の把握に関すること。
（4）　認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること。

4　身体の動き
（1）　姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること。
（2）　姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関すること。
（3）　日常生活に必要な基本動作に関すること。
（4）　身体の移動能力に関すること。
（5）　作業の円滑な遂行に関すること。

5　コミュニケーション
（1）　コミュニケーションの基礎的能力に関すること。
（2）　言語の受容と表出に関すること。
（3）　言語の形成と活用に関すること。
（4）　コミュニケーション手段の選択と活用に関すること。
（5）　状況に応じたコミュニケーションに関すること。

5　題材の中で育みたい力

		育みたい力	具体的な内容
関心・意欲・態度	1	楽しむ	・遊具を通して素材の面白さを楽しむ。
	2	追求する	・もっと違う面白さがないか追及する。
	3	つなげる	・素材を変えたらどうなるか記憶をつなげる。
発想・構想の能力	4	広げる	・先生や他の子どもの活動を見てイメージを広げる。
	5	深める	・先生や他の子どもの活動を見て、自分なりの方法を発見し、考えを深める。
	6	見通す	・自分のイメージ通りに表現するために、どの素材をどう使うのが適当か見通す。
つくりあげる力	7	比べる	・素材の特徴を比べながら活動する。
	8	選び・決める	・色、形、場所など認識して活動する。
	9	バランスをとる	・自分のイメージを表現するために、素材の配置を工夫する。
	１０	使う	・持つ、運ぶ、置く、並べる、立てる、包むなどの基本的動作を、素材に応じて正確に行う。
鑑賞の力	１１	感じとる	・自分がイメージした内容を言語化、あるいは視覚化して、明確に意識する。
	１２	自己理解	・うまくいったこと、楽しかったことを、先生や友だちに伝える。
	１３	他者理解	・自分の好きな友だちの活動の良いところを感じて、先生や友だちに伝える。

6　題材の指導計画（３時間）

	学　習　内　容	時間		
題材との出会い	○いろいろな遊具を使って遊び、楽しむ。			
発想	○いろいろな遊具を使って遊び、素材の特性を知る。			
構想	○色や形などの違いに着目して、知識・記憶と重ねる。	1	1	1
表現	○集めたり、並べたりしながら、自分のイメージを視覚化する。			
鑑賞 ふりかえり	○うまくいったこと、楽しかったことを発表する。 ○好きな作品を選んで記念写真をとる。			

7　教育課程（他の題材とのつながり）

『てしごと』単元一覧

月（時数）	単元名	学習のねらい
４月（６）	○折り紙しよう ○塗り絵しよう ○切り紙しよう	・説明を聞いたり、見本を見たりして、課題を理解する。 ・自分がつくりたい作品を選択する。 ・正確に作業する。 ・時間いっぱい取り組む。 ・感じたことを発表する。
５月（８）	○結んでつくろう（ひも） ○カードをつくろう（モール）	・ひもの特徴を知る。 ・玉結びと輪結びを覚える。 ・繰り返し結び目をつくることで、１本のひもからいろいろな形ができあがることを知る。 ・偶然できあがる形の面白さを味わう。 ・モールの特徴を知る。 ・いろいろな曲げ方を覚える。 ・平面構成を工夫する。 ・浮き上がる線や形を楽しむ。 ・感じたことを発表する。
６月（８）	○思い出して描こう（巻き段ボール紙）	・運動会でがんばったことを思い出す。 ・動いている様子を表現する。 ・感じたことを発表する。
７月（４）	○そっくりにつくろう（ねんど）	・身近なものをよく観察する。 ・特徴をとらえて形をつくり出す。 ・丸める、伸ばす、成形するなどの基本操作を覚える。 ・並べる、積む、つなげるなどの基本操作を覚える。 ・形や大きさを意識して、実物そっくりな作品に仕上げる。 ・感じたことを発表する。
７月（３）	○あつめよう、ならべよう	・イメージした物を様々な素材で表現する。 ・集める、並べる、立てる、重ねるなどの基本動作を行う。 ・色、形、大きさなどをとらえて、構成を工夫する。 ・感じたことを発表する。
８月（４）	○絵本をつくろう	・言葉をシンボル的イラストで表現する。 ・さまざまな画材で彩色を楽しむ。 ・見通しを持って作業を進める。 ・協力して絵本を仕上げる。 ・感じたことを発表する。
９月（６）	○カレンダーをつくろう（製版）	・楽しかった思い出を紙版画にすることができる。 ・いろいろな素材を選んで工夫することができる。
１０月（８）	○カレンダーをつくろう（印刷）	・印刷方法を覚える。 ・協力して印刷作業に取り組む。 ・感じたことを発表する。
１１月（６）	○小物をつくろう（布、毛糸など）	・糸の特徴を知る。 ・基本的な縫い方を覚える。 ・基本的な編み方を覚える。 ・基本的な織り方を覚える。 ・感じたことを発表する。
１２月（４）	○飾りをつくろう（自然素材）	・いろいろな素材の特徴を知る。 ・ぶら下げる飾りの基本的なつくり方を覚える。 ・季節が感じられるデザインを工夫する。 ・感じたことを発表する。
１月（４）	○焼き物をつくろう（窯業）	・生活を振り返って陶器がどのように利用されているか思い出す。 ・粘土の特徴を知る。 ・陶芸の手順を覚える。 ・道具を正しく使い、手順を守って作業に取り組む。 ・感じたことを発表する。
２月（６）	○動くおもちゃをつくろう（リサイクル素材）	・リサイクル素材で工作を楽しむ。 ・動くための仕組みを考える。 ・材料を選んで計画通りに組み立てる。 ・作ったおもちゃを動かす。 ・感じたことを発表する。
３月（６）	○ダンボール・マリオネットをつくろう。	・体の構造を詳しく観察して描く。 ・どのような部品を作ればよいか考える。 ・部品のつなぎ方を工夫する。 ・操り方を工夫する。 ・動きを発表する。

8　環境の構成（活動を支える環境のあり方）

- 児童により「動き方」に違いがあるので、ひとり一人が自分の動き方で取り組めるように、ひとり分の活動空間を十分に確保する。
- 児童により「扱い方」に違いがあるので、ひとり一人が自分の扱い方で取り組めるように、扱いやすい用具、道具、材料を十分に確保する。
- 児童により「気づき方」に違いがあるので、言葉をかけるだけでなく、必要な場合には個別に提示したり、目の前に置いて選ばせたりする。
- 児童により「覚え方」に違いがあるので、学級で鑑賞するだけでなく全校児童職員に触れるように展示し、コミュニケーションの材料にすることで、活動の振り返りを図る。
- 児童により「感じ方」に違いがあるので、できあがった作品は画像として記録し、絵ハガキなどに仕立ててフリーマーケット(学級行事)の商品にしたり、家族へのプレゼントにしたりすることで、作品について他者との共感を図る。

9　本時の学習指導（３／３）

（１）本時の目標

○全体目標；様々な素材を利用して、自分のイメージを表現することを楽しむ。

○個別目標；

児童	重点目標
(肢)１学年女児Ｔ	遊具の種類、配置場所を意思表示して、先生の手を借りて作品を構成する。
(肢)４学年女児Ｏ	自分のイメージに適した遊具や構成方法を工夫して、表現活動を楽しむ。
(情)３学年男児Ａ	自分のイメージに適した遊具や構成方法を工夫して、表現活動を楽しむ
(情)３学年男児Ｏ	色や形、遊具の名称を聞きとって集めたり、先生を模倣したりして作品を構成する。
(情)３学年男児Ｋ	先生とのコミュニケーションを交わしながら、イメージを具体的に表現する。
(情)４学年男児Ｋ	他の友達の活動を参考にして、見通しを持って遊具を集めたり、構成したりする。
(情)５学年女児Ｔ	自分のイメージに適した遊具や構成方法を工夫して、表現活動を楽しむ。
(情)５学年男児Ｍ	他の友達の活動を参考にして、見通しを持って遊具を集めたり、構成したりする。
(情)６学年女児Ｉ	自分のイメージに適した遊具や構成方法を工夫して、表現活動を楽しむ。
(知)４学年女児Ｔ	他の友達の活動を参考にして、見通しを持って遊具を集めたり、構成したりする。
(知)５学年男児Ｋ	自分のイメージに適した遊具や構成方法を工夫して、表現活動を楽しむ
(知)６学年女児Ｎ	他の友達の活動を参考にして、見通しを持って遊具を集めたり、構成したりする。

（２）本時の評価（受信…児童の心や頭の中で何が起きているのか）

	育みたい力		評価規準		Bを実現できない児童への手立て
			B育みたい具体的な力	A十分満足できる状況	
関心・意欲・態度	1	楽しむ	○遊具を通して素材の面白さを楽しむ。	○夢中になって取り組んでいる。	○イメージつくりのきっかけに、日常の関心事を話題にする。
	2	追求する	○もっと違う面白さがないか追及する。	○他の子どもの活動を見たり、質問したりしている。	○他の子どもの活動に視線が向くように働きかける。
	3	つなげる	○素材を変えたらどうなるか記憶をつなげる。	○素材の選定や使い方を試行錯誤している。	○実際に素材を操作して見せるなど、見本を示す。
発想・構想の能力	4	広げる	○先生や他の子どもの活動を見てイメージを広げる。	○どんどん活動を展開し続ける。	○参考になる他の子どもの作品を紹介する。
	5	深める	○先生や他の子どもの活動を見て、自分なりの方法を発見し、考えを深める。	○周りの様子を注視したり、ひとりごとを言ったりする。	○考えていること、感じていることについて質問する。
	6	見通す	○自分のイメージ通りに表現するために、どの素材をどう使うのが適当か見通す。	○目的をもって遊具を集める。	○どんなアイデアなのか質問する。
つくりあげる力	7	比べる	○素材の特徴を比べながら活動する。	○実際に試行錯誤を繰り返し、変化を比較する。	○サンプルを与え、変化を確かめさせる。
	8	選び・決める	○色、形、場所など認識して活動する。	○目的をもって遊具を集める。	○どんなアイデアなのか質問する。
	9	バランスをとる	○自分のイメージを表現するために、素材の配置を工夫する。	○目的をもって遊具を配置する。	○どのように見えるか感想を伝える。
	10	使う	○持つ、運ぶ、置く、並べる、立てる、包むなどの基本的動作を、素材に応じて正確に行う。	○一つの素材をいくつもの用途で利用する。	○違った扱い方を、演示してみせる。
鑑賞の力	11	感じとる	○自分がイメージした内容を言語化、あるいは視覚化して、明確に意識する。	○気持ちを表す発言が自然に飛び出す。	○どんな気持ちか質問する。
	12	自己理解	○うまくいったこと、楽しかったことを、先生や友だちに伝える。	○具体的に感じた作品の部分を説明できる。	○気持ちを表す言葉のサンプルを提示して、選択させる。
	13	他者理解	○自分の好きな友だちの活動の良いところを感じて、先生や友だちに伝える。	○具体的に感じた作品の部分を説明できる。	○気持ちを表す言葉のサンプルを提示して、選択させる。

※上記の内容について補足

本来「なかよし学級（特別支援学級）」では児童一人ひとりについて個別指導計画を作成し、指導を進めています。学習指導計画案を作成する場合も、ひとり一人の障がい状況に応じて目標などを設定するのが通常の様式です。この指導案では紙面の関係で「育みたい具体的な力」などをなるべく全員に共通な内容で記載してあります。

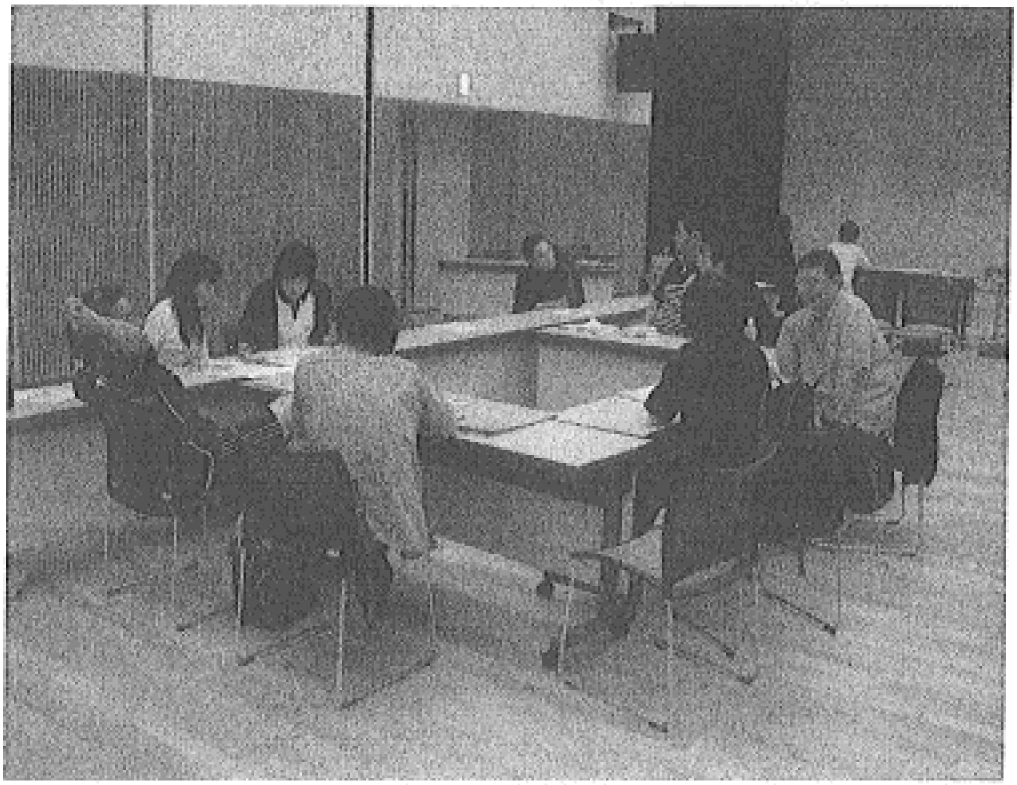
（３）本時の展開　　　　　　　　　　　　　　　　　　　※ＭＴはメイン、ＡＴはアシスタント

過程	育みたい力	児童の活動	教師の関わり	備考
課題の把握 (10分)	楽しむ つなげる	〇ホールに出て、ムーブメント遊具遊びを楽しむ。 〈利用するムーブメント遊具〉 ・各種パラシュート ・各種ボール ・各種パイプ ・各種ビーンズバッグ ・各種カラーリング ・ハットフリスビー ・カラーポット ・フェルト ・ロープ　　　　など 〇集合してあいさつする。 〇本時の活動内容を知る	ＭＴ；心と体をリラックスさせ、楽しくウォーミングアップできるように進行する。 ＡＴ；反応の弱い児童、言葉のない児童、行動が困難な児童について、個別に支援する。 （吹き出し）用意した遊具を使って自分の好きな物を作ろう。この前は、こんな物をつくったよね。さあ今日は何ができるかな。 ＭＴ；	
課題解決 (25分)	見通す 追求する 深める 選び、決める バランスをとる 使う	〇散らばった遊具を見て、これからの活動をイメージする。 〇自分の作業場所を決め、活動に取りかかる。 〇必要な遊具を集めてきて、イメージに合わせて床に構成する。	ＭＴ；原則的な約束事を確認する。活動場所の範囲、活動時間の制限、支援者の役割など。 ＡＴ；個別に約束事の理解を確認したり、モチベーションを確認したりする。 ＭＴ；個別の活動を全体に紹介したり、利用されない遊具の活用方法などをアナウンスしたりする。	視覚タイマーの利用 活動サンプルの提示
定着 (10分)	感じとる 自己理解 他者理解	〇自分の作品について説明する。 〇好きな作品を選んで、その場所で記念撮影する。	ＭＴ；個々の達成感の違いを確認して、達成感が少ない児童から発表させる。個別の目標を意識した振り返りを促すことで、自分のよさを感じさせる。 ＡＴ；個々を支援する。	

※通常は各児童、各指導者を個別に表記しますが、紙面の関係で大筋の内容を記載してあります。

１０　資料（１/３時間目の活動の様子）

授業	小学校



小学校では

美術が専門の方も、そうでない方も

いっしょになって

研究を進めてきました。

だからこそ学べたこともあります。

全道造形教育石狩大会いしかり北広島大会　図画工作科学習指導案

北広島市立大曲小学校　３年３組
（男子１８女子１３計３１名）
２００８年７月２８日（月）
授業者　教諭　松本　圭正

１　題材名「へんないきもの！？」（６時間）

２　題材について（心育てる題材）

発想したことを手を使い素材感を感じながら作品を作っていく粘土を使った活動は、子ども達にとって大変に取り組みやすく楽しいものである。また、粘土は、制作しながら様々な発想を作品の中に生かしていけるという点でも大変に優れている素材でもある。

今回の授業では、「へんないきもの」（早川いくを著　バジリコ株式会社出版）を参考資料とし、「こんな生き物がいるのか」「この生物にはこんな力があるのか」という感動を自分の作品に生かしたり、自分の知らない世界にこんな生き物が生存しているのかという命の神秘に触れさせたい。子ども達は、自分の身近な昆虫や動物などをもとに、形に注目したり、その形を生かした特性などを考え、楽しみながら自分の世界に浸っていくことができる。また、作品を作っていく過程で、どんどんと発想がひろがり、自分の考えたいきものの姿に、より近づけようと意欲的に活動をしていくであろう。

制作の途中で、２回の交流を持ちたいと考えている。１回目は、構想の際に周囲の３～４名程度のグループで、構想カードをもとに交流し合うというものである。この目的は、なかなか構想できない児童が、他の児童の発表を参考にしながら、自分の作品を考える資料にしたり、よりよい作品を作る際の参考にさせるというものである。２回目の交流は、住んでいる場所ごとのグループに分け、自分の作った作品と他の児童の作った作品との交流をし、そのいきもの同士の関係などを考えさせ、作品を置いたり、補助的なものを粘土で作ったりさせたいと思っている。

３年生になり、取り組んだ「くっつけ　くっつけ」で学んだ技法やどべを使った技法なども積極的に取り入れていきたい。

３　児童観・指導観

３年生になり新たに学級編成替えを行った。４月当初は、３年生の子ども達の一般的なイメージとは違い、おとなしく、周囲を見ながら自分の行動を起こす児童が多かった。最近になり、少しずつ自分の色を出そうとしているものも増えてきたが、まだ、全体の場やあらたまった場などになると萎縮してしまう。ただ、気持ちの優しい子が多く、人の手伝いを進んで行ったり、困っている友達に対して優しい気持ちで接することができる。

図画工作科では、作品制作の途中で、教師の指示をあおぐ場面が数多く見受けられ、自分の思いを自信を持って表現できるように支援しているところである。

4　題材の目標

・ 生き物についての想像をふくらませ、粘土の特性を生かし、楽しみながら作品を作ることができる。
・ 粘土の可塑性を知り、つくり方を工夫することができる。
・ 友だちの作品を見ながら、自分の作品に生かしていくことができる

5　題材の中で育みたい力

		育みたい力	具体的な内容
関心・意欲・態度	1	**楽しむ**	**みんなが驚くような面白い生き物を考える。粘土を楽しみながら自分の作品をつくる。**
	2	追求する	自分の考えた生き物をいかに粘土で表現していくかを試行錯誤する。
	3	つなげる	「くっつけ、くっつけ」で学んだ、粘土をつけ足していく方法を作品作りの中に生かす。
発想・構想の力	4	広げる	他の作品を見て自分の作品に生かすことができる。
	5	**深める**	**自分の構想シートから、考えた生き物がどのような形をしているのかを考える。**
	6	見通す	構想シートから制作の手順を見通す。
つくりあげる力	7	比べる	
	8	選び、決める	今まで学習した技法の中で、どの技法が適しているのかを考え、作品をつくることができる。
	9	**バランスをとる**	**形の面白さや生き物としての形を考えバランスをとる。**
	10	使う	へらを使って模様を描いたり、針金を用いて粘土を切断している。
鑑賞の力	11	**感じとる**	**同じ場所に住む違う生き物同士の関係を考える。**
	12	自己理解	構想シートを参考にし自分の発想したことがどれくらい作品に反映させることができたかを考える。
	13	**他者理解**	**作品制作途中や発表会などを通し、他の作品のよさを理解する。**

6　題材の指導計画

	学習内容	時
題材との出会い	イラストを数枚拡大コピーをして提示する	1
発想	好きな生き物や身近な生き物を参考にして、生き物を発想する	
構想	構想シートを使いながら、自分で生き物を想像する（１回目交流） 土粘土の特性・粘土の技法の確認	1
表現 本時（１／２）	シートをもとに作品をつくる（２回目交流）	2
鑑賞	作品とシートを使いながら発表会を行う	1
ふりかえり	自分の好きな角度から写真を撮影し、「へんないきもの図鑑」をつくる	1

7　教育課程（他の題材とのつながり）

【粘土を使った題材】

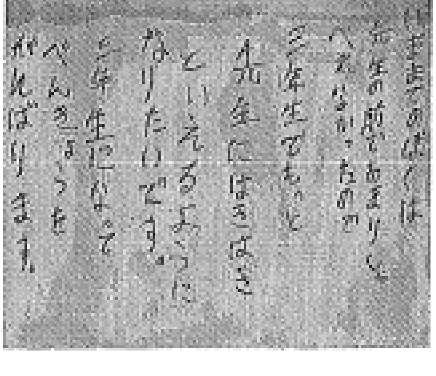
１年生）『ねんどで　たしざん』　『たのしいな　すごいな』
２年生）『かたおし　かたぬき』　『おしゃれな　どうぶつ』
３年生）『くっつけ　くっつけ』

8　環境の構成

校内作品展に合わせて、図工の時間に取り組んだ作品や書写の職員室前の廊下に掲示をしたり、教室前にも全員の作品を掲示している。また、作品票には、自分の思いを書く欄を設け、作品と作品票で自分の表現したいことを完結させるようにしている。

職員室前廊下①

教室前廊下①



9　本時の学習指導

（1）本時の目標

○ 生き物についての想像をふくらませ、粘土の特性を生かし、楽しみながら作品を作ることができる。

○ 自分の作品ばかりではなく、他の作品にも目を向けることができる。

（2）本時の評価（受信・・・児童の心や頭の中で何が起きているのか）

	育みたい力		評価規準		Bを実現できない児童への手だて
			B育みたい具体的な力	A十分満足できる状況	
関心意欲態度	1	楽しむ	粘土を楽しみながら自分の作品をつくる	粘土の手触りを実感し作品を作っている	単純な形をいろいろと作らせてみる
発想・構想の力	5	深める	自分の構想シートから、考えた生き物がどのような形をしているのかを考える	構想シートを見ながら自分の作品を作っている	構想シートを見ながら同じ場所に住む実際の生き物がどんな形をしているのか想起させる
つくりあげる力	8	選び、決める	今まで学習した技法の中でどの技法が適しているのかを考え作品をつくることができる。	どの技法がいいのか、いろいろ試している。	板書などからそれぞれの特性を想起させる。
	9	バランスをとる	形の面白さや生き物としての形を考え、バランスをとる。	途中で見る方向を変えながら作品を作っている	OHC を使い、見る方向を変えた作品を提示する
	10	使う	へらを使って模様を描いたり、針金を用いて粘土を切断している	道具を使い作品を作ろうとしている。	机間支援しながら、実演していみる。
鑑賞の力	11	かんじとる	同じ場所に住む、違う生き物同士の関係を考える	同じ場所に住む物のグループで、どこに自分の作品を配置するのかなどを考えている	住んでいる場所のグループ内で交流させる

（３） 本時の展開

過程（時間）	育みたい力	児童の活動	教師の働きかけ	備考
課題把握 （5分）	見通す	へんな生き物をつくろう	・自分の構想カードを見ながら作品を作る様に指示する	粘土の技法の確認 ○ひねりだし ○つまみだし ○付け足し ※どべの使い方
課題解決 （15分）	楽しむ 選び・決める バランスをとる 使う	粘土を楽しみながら自分の作品をつくる 実際に作りながらどの技法がいいのかを決める。 上から見たり、横から見たり、斜めからみたりしている。 へらを使って模様を描いたり、針金を用いて粘土を切断する	面白い形状のものや丁寧に作っているものなどを全体に知らせる	粘土を配布 ＯＨＣを使い全体に知らせる。（拡大したり視点を変えたりする）
（20分）	追求する かんじとる	ホールに移動 住んでいるグループごとに制作 友達の作品のよさを自分の作品に生かす 同じ場所に住む、違う生き物同士の関係を考える	作業の状況を見ながら、住んでいる場所ごとのグループになるように指示する。 必要により、新たに粘土を配布する	ホールで住んでいる場所ごとのグループ（森・川・海・土の中など）
定着 （5分）			次時は、生物達のまわりの様子や食べ物などを作ることを予告	

へんないきもの！？

組　　番　名前

どこにすんでるか？	
おおきさは？	
どんなものを 食べてる？	
びっくりポイント	

全道造形教育研究大会いしかり北広島大会　図画工作科学習指導案

北広島市立東部小学校　４年１組
（男子１７女子１５計３２名）
２００８年７月２８日（月）
授業者　教諭　鈴木　礼二

１　題材名「ぼくら　ちいさな　アーティスト」（鉛筆によるデッサン・７時間＋総合２時間）

星野　富弘氏の作品鑑賞を通して

２　題材について（心育てる題材）

この学習では鉛筆によるデッサンに取り組ませる。４年生という児童の発達段階の特徴として、写実的に描こうとする意欲が高まる時期であることが題材設定の第一にあげられる。また、鉛筆という毎日のように使っている用具で描くということが絵画を描くという困難性をあまり感じさせずに済むと考えたこともあげられる。子どもたちにとって自信を持って自分の絵を描くことができるということは、自分の感情を素直に率直に表現するということに直結することからも、学級経営上非常に大切な要素であると考える。また他の教科と違い描いた絵には正解や不正解が無い。３２人いれば３２通りの表現が許される教科であるこの図工美術の特性を生かし、学級の支持的風土づくりの意図も心の奥に置きながら、この授業を組み立てていきたい。

そのための題材は理科の「春や夏を探そう」の単元と総合の「環境教育」にリンクさせ、「身近なものを描いてみよう」と題して自然の中を散策しながら、一人一人自分が描きたいものを選択させた。時数に関してもこの総合的な学習の時間とのリンクを２時間含んでいる。

さて、授業の中で題材を観る眼について考えるための「鑑賞」として取り上げる画家「星野　富弘」氏は、1946年4月24日生まれ。群馬大学教育学部卒業後、高崎市立倉賀野中学校赴任したが、その初めの２ヶ月足らずで、クラブ活動指導中、頸髄損傷を負い、首から下の運動機能を失うが、口に筆を加えて詩を書き、絵を描くに至った努力の画家である。詩画集「風の旅」、「あなたの手のひら」ほか著書多数。1981年春結婚。1991年ふるさとの群馬県勢多郡東草木ダムのほとりに村立・富弘美術館が建設され、作品が常設されている。

また、画家星野富弘氏の作品には、花や草などを題材にした作品が多い。これは、星野氏が入院中に打ちひしがれているときに目にした病室の窓を飾ってあった花の存在がある。さらに、星野氏が選ぶ題材の植物は、雑草なども大変多い。名前も分からないような雑草に目を配り、美しい作品にして仕上げることは、作者の対象に対する思いが如実に表れているように感ずる。つまり、作者ははかないものにもある『命』に目を向けて作品を描いていると思われる。小さな草や花の中にある命、その命を自分に投影し、その命を大切に描いているのではないだろうか。絵とともに書かれている詩もまたそれと同様ではないだろうか。

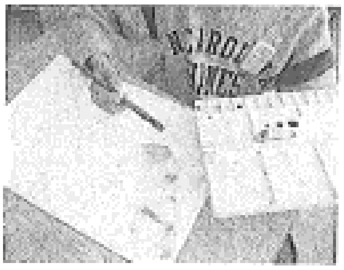
子どもたちには星野氏の作品を鑑賞するときに『命』まで目を向けてほしいと願い、授業を行なう。しかし、お仕着せにならずに、あくまで子どもなりの感性に任せた『鑑賞』を行ないたいと考えている。ただ、作者の境遇に同情してしまっただけの感想にならないよう配慮していかなければならないと考えているのだが、そのバランスは非常に難しいとも感じている。

3　児童観・指導観

男子の人数が１７人、女子の人数が１５人の３２名の４年１組。男女の仲も良く、全体的に明るく元気である。何事にも積極的なタイプの子と、落ち着いて考えてから行動するタイプの二通りの子どもたちがいる。また、全体としては素直で人に優しい学級である。

図画工作科に関しての実態は、図工の時間が好きな子が多いのだが、数名だが苦手としている子もいる。そのため３年生受け持ち当時から時間をかけ、子どもたちの作品に対して肯定的な評価を行ってきた。肯定的な評価は図工に限らずどの教科でも行っている学級経営上の手だてである。徐々に苦手意識も薄らいできていると感ずるがまだ課題は残る。

特に絵に関しては丁寧に描こう、とする子が多い。しかし、絵の具で色を塗ることにまだ抵抗感を持っている子が多くいる。４年生になって描いた絵は「デッサン　自分の手」「絵の具遊び」「お話の絵」の３点しかなく、彩色の指導時間の不足を感じている。もっと絵を描く機会を設定したいのだが時数的には難しいものがあるのが現状である。工作や粘土などに関しては、絵よりも苦手意識は少ない。絵よりも自由に作れるような感覚があるからかもしれない。



4　題材の目標

・身近な自然の中から題材を選ぶことができる。

・画家　星野富弘さんのことを知り、作者の作品に対する想いを想像し、自分なりの感想を持つことができる。

・自分なりの感じ方、想いを持ってデッサンをしたり、言葉で表現したりすることができる。

5　題材の中で育みたい力

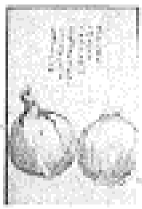
		育みたい力	具体的な内容
関心・意欲・態度	1	楽しむ	自分の選んだ題材を絵に表現する喜びを味わう。
	2	追求する	選んだ題材を丁寧に作品に仕上げる。
	3	つなげる	これまで学んできたことを表現に生かす。
発想・構想の力	4	広げる	画家星野富弘さんの作品の鑑賞を通して題材を見る視点を広げる。
	5	深める	題材から感じた想いを絵や言葉にして表現する。
	6	見通す	絵を描くことは自分の想いを表現する道のりなのだと気づく。
つくりあげる力	7	比べる	題材の持つ長さや重さ、形などを見比べてデッサンする。
	8	選び、決める	題材を自分で選択し、自分らしさの表れた絵を描く。
	9	バランスをとる	作品を離れて見ることを通して全体のバランスを考える。

	10	使う	鉛筆によって表現できる線や点などのタッチを生かし，明暗の変化などを考えた技法を使う。
鑑賞の力	11	感じとる	題材に対して自分の心の中にはいろいろな想いがあることを感じ取る。
	12	自己理解	自分の作品の良さを感じ取る。
	13	他者理解	他の人の作品の良さを感じ取り、交流する。

6　題材の指導計画

指導過程	学　習　内　容	時
題材との出会い	身近な自然の中から、いろいろなものを手にしながら、描いてみたい題材を探す。	2 総合
発想 発想から構想へ 構想	題材の持つ特徴を鉛筆で描くことを理解し、何枚かのラフスケッチをする。 何枚か描いたラフスケッチをもとに、題材と題材の構図を決める。	1 1
表現	題材をよく見てデッサンを描く。	2
鑑賞（本時） ふりかえり	星野さんの鑑賞を通して、自分の作品をもう一度振り返り、題材から感じることを言葉にしたり、さらに仕上げをしてみたりする。	1
	みんなの作品を掲示し、小さな美術展を開催し、相互評価をする。	2

7　教育課程（他の題材とのつながり）



ラフなデッサン
デッサンをいくつか描いてみる

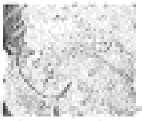
星野さんの表現方法
何を表現したいのか感じる

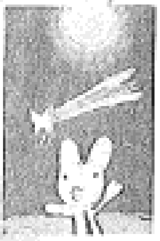
題材設定
日常にある小さな自然を探し、描いてみたいと感ずる題材と出会う

意見交流
子どもらしい感性

図工美術の作品づくりと鑑賞という関わりを通して、学級の中に支持的風土を創りあげていきたい。
図工美術にはその広がりがある　深まりがある
Education Through Art

2回目の出会い
題材に対する自分の新たな感じ方





表現
自分の感じ方をもとに表現する　言葉　デッサン
人それぞれ違う感じ方

様々な感じ方
様々な表現
自分の感じ方への自信

友達の作品との交流
鑑賞を通して相互理解をさせたい
「人との関わり」我クラスの合い言葉

8　環境の構成

環境作りの面では、誰の作品でも大切に掲示するよう心がけてきた。完成した作品は教室や廊下の掲示板を使い「MY ART」という名の氏名票を添付し掲示し、学校の中の「小さな美術館」という想いを持たせながら展示してきた。

また、直接環境に関わるものではないが、担任の小さな日記という意味合いで毎日の出来事を短冊にし、教室の壁面に掲示している。小さなカードだが、言葉だけでなく彩をつけて掲示することによって、教室を毎日の想いでいっぱいに飾ることを目標に掲示をし続けている。他愛ないことだが短冊を見ながら子どもたちは過去の出来事を振り返ったり、思いを表現することの楽しさを感じてくれている。

9　本時の学習指導

（１）本時の目標

○星野富弘さんの絵画を鑑賞し、自分の描いたデッサンの題材から何かを感じ取り、言葉にしたり、デッサンの仕上げをすることができる。

（２）本時の評価（受信…児童の心や頭の中で何が起きているのか）

	育みたい力		評価規準		B を実現できない児童への手だて
			B 育みたい具体的な力	A 十分満足できる状況	
関心・意欲・態度	2	追求する	自分の作品を丁寧に仕上げることができる。	自分の感じた想いを言葉でも表現し、仕上げをすることができる。	ゆっくり見つめ直すことを指示。
発想・構想の力	4	広げる	作品には作者の想いがあることを知る。	作品には作者の心が表現されていることを知る。	友達の発言をよく聞くように指導する。
	5	深める	作品の持つ想いというものを感ずることができる。	作品の持つ多様な想いを発表することができる。	友達の発表をよく聞くように指導する。
つくりあげる力	7	比べる	画家星野富弘さんの絵や友達の意見を聞いて自分の作品を更に工夫することができる。	自分なりの工夫をデッサンにも言葉にも表現することができる。	画家星野富弘さんの絵と友達の発言を掲示、板書して参考にさせる。
鑑賞の力	11	感じとる	自分の心に題材に対する想いを感ずることができる。	自分の心に題材に対する多様な想いを持つことができる。	想いを言葉にできなくても、感ずることができれば良いことを伝える。

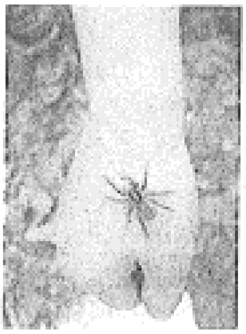
（３）本時の展開

過程（時間）	育みたい力	児童の活動	教師の働きかけ	備考
（４分）		自分のデッサンを用意する。 自分の描いたデッサンをじっくりと見る。 描いてみての感想を発表する。	自分の作品の感想を発表させる。	板書１
課題把握 （１分）	見通す	**ある画家の絵から何かを感じ取り、自分のデッサンにいかしてみよう。**		
課題解決 （20分）	感じ取る 感じとる 深める	星野さんの作品を見る。 星野さんについての説明を聞く。 星野さんの作品に対する想いを話し合う。	星野さんの作品を提示する。 星野さんについての説明。 星野さんの気持ちを話し合いを通して理解させる。	プロジェクター使用 プレゼンテーション 板書２（想いが押し付けにならないよう留意）
定着 （15分）	比べる 深める 追求する	自分の作品の想いを考え、発表する。 作品への想いを言葉にしたり、デッサンの仕上げをする。	自分の選んだ題材を描いた作品の想いを考えさせ、発表させる。 想いを踏まえさせて、言葉にしたりデッサンの仕上げをさせる。	板書３ 丁寧に仕上げさせるように言葉がけをする
定着 （２分）		本時の学びをふりかえり、次の時間の内容を知る。	本時の学びを振り返り、最終的に４－１美術館への展示を行うことを知らせる。	４－１美術館の予告

１０　資料

下の資料は４年生で指導した資料

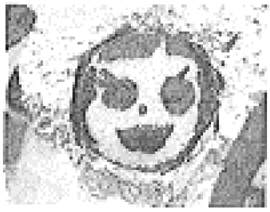
雲を描く私



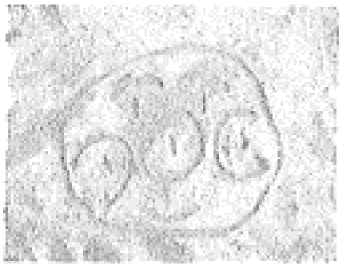
春ってたくさんあるね

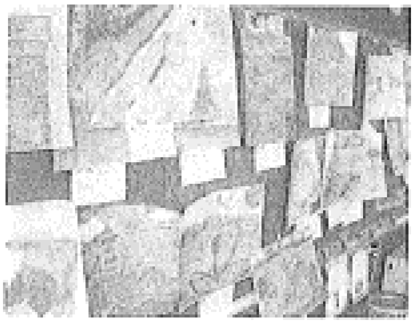
グランドに足で描く絵もアートだ

教室を彩る短冊たち

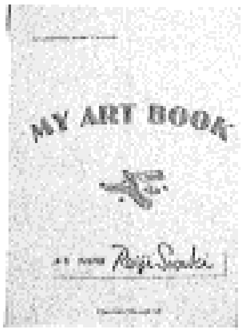


おにぎりもアートだ



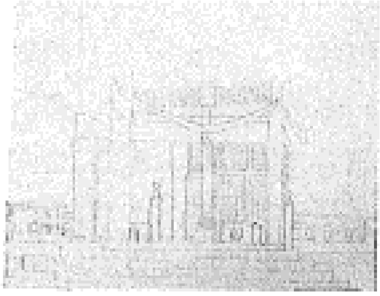


黒板いっぱいの鑑賞会

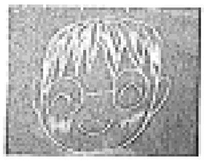


手作りのスケッチブック

よく見て　よく見て

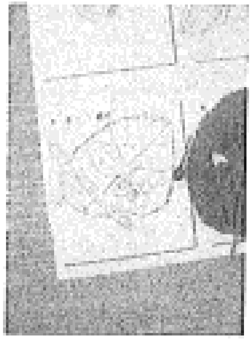


廣島神社は難しいなぁ



黒板もキャンバス

離れて見ようっと



理科だってデッサンの練習だよ

全道造形教育研究大会いしかり北広島大会 図画工作科学習指導案

江別市江別第三小学校　４年１組
（男子１３名女子９名計２２名）
２００８年７月２８日（月）
授業者　教諭　佐伯　晶宣

１ 題材名「あすかの森はワンダーランド」（絵に表す・9時間）

２ 題材について（心育てる題材）

本題材は、小学校近くにある『飛鳥山公園』の森から発想し、自分たちだけの「楽しい森」を考え絵に表す活動である。学習指導要領の中学年の目標（２）「材料などから豊かな発想をし，手や体全体を十分に働かせ，表し方を工夫し，つくりだす能力，デザインの能力，創造的な工作の能力を伸ばすようにする。」を主なねらいとし、指導内容Ａ表現（１）のア「材料や場所，ものをつくった経験から発想したり，みんなで話し合って考えたりして楽しく表すこと。」と（２）のア「表したいことを表すために，形や色，材料などを生かし，それらの組合せの感じに関心をもち，美しさや用途などを考え，計画を立てるなど工夫して表すこと。」を受けて設定した。

普段から遊び慣れている『飛鳥山公園』は、自然だけではなく"野球場"、"サッカー場"そして敷地内には、小規模ながら"体育館"も含まれた複合施設である。４年生の子ども達は、もちろん地域のあらゆる人たちが、日常の一部として活用している。四季を通して、様々な表情を見せてくれる身近な自然に親しみ、その素晴らしさに加えて、「不思議な森」を想像することによって、子ども達の発想と空間的な表現力を高めることをねらいとしている。

３ 児童観・指導観

本学年は、３年次から、様々な材料を使っての工作や絵を描いてきた。図工の時間を楽しみにしている児童が多く、制作活動においてはどの子も意欲的に取り組んでいる。作品の計画段階ではあまり悩むことなく描き始められるが、構図が小さく細々とした絵になりやすい。絵の具の使い方にも差があり、一つ一つ確かめながら進めてきた。また、「写実的な表現」を求めるがゆえに思い通りに描くことが出来ない子が多く、なかなか自分の絵に自信が持てずにいた。そこで、「絵」を描く時間に「自分の思い」に忠実に表現することの楽しさを味わい、「絵」を描くことが好きになるように意識して指導してきた。

また、４年生になってから様々な場面で中心になる子どもを選出し、「話し合う」活動にも力を入れている。「個」の意見をいかに「全体」の物としてまとめるか。一人一人の意見を共感し合えることが、本題材の目標である『描く過程で思いついたり、考えたことを相談したり、協力したりしてつくる。』に迫れるのではないかと考えている。

本題材は、チームで協力して一枚の大きな絵を完成させる題材である。４～５人のグループをつくり、個々の「あすかの森」のアイデアを持ち寄って一枚の絵とする。

グループ制作のメリットとしては、次の３つのメリットが考えられる。

① 互いの考えの良いところを見つけ生かすことができる。

② 発言力の弱い子がいても、互いを助け合うやさしさを育む事ができる。

③ 多人数がいることによって、普段では出来ないような大きな作品に取り組むことができる。全員でやった達成感も味わえる。

このメリットは、普段の学級経営の軸として扱ってきた事でもあるので、是非生かしていきたい。

また、デメリットも考えなくてはならない。

① 全体を優先するあまり、我慢を強いられる子が出てくるのでは、ないか。

② 発言力の弱い子が、排除されるのではないか。

上記の①については、「アイデアスケッチ」を持ち寄るときに、各自の描いたアイデアを切り抜いて、個々の考えを生かせるように切り絵のように配置する。必ず、どこかに自分の絵が生かされてくるようになる。

上記の②については、普段の学級の様子から、互いに助け合う場面が多く見られる子ども達である。しかし、注意深く、子ども達の動きを観察し、その都度指導を入れていきたい。

参考文献：集英社「現代世界美術全集 10」

次に本題材では、表現の自由さを学ばせたいと考えている。「あすかの森」を描くにあたってまず、「鑑賞活動」を取り入れることにした。森を題材とした画家の絵しかも、写実的ではなく、心の内の表現に主をおいた絵(アンリ・ルソーなど)を鑑賞する。この活動で、子ども達に不思議な森に対するイメージ付けや自分の思いを描くことは、楽しいことだと知らせたい。

彩色の段階では、表現したいことが表せるように彩色の方法や今まで学んできた技法を試すコーナーをいくつか設けて、自由に活用できるようにしたい。また、教師の側であらかじめたくさんの色（色々な緑など）を作って小分けにして用意する。このことによって、子ども達の使う色の幅も広がっていくと考える。また、一度体験している彩色方法をいつでも思い出せるように掲示して自分たちの作品作りに随時生かしていけるようにしたい。

途中の段階では、「お互いに見たい会」を開催し、相互鑑賞をさせたい。子ども達は、自分の作品を紹介するのも好きだし、友だちの作品を見るのも好きだと普段から話をしている。互いの良いところをどんどんと取り入れ、自分たちだけの「ワンダーランド」を完成させたい。

4 題材の目標

- **不思議な「あすかの森」を表すことができる材料や用具を自分で選んだり、試したり工夫しながら描く。**
- **描く過程で思いついたり、考えたことを相談したり、協力したりしてつくる。**
- **自分たちや友だちの作品に関心を持つと共に、自分たちの作品のよさやおもしろさに気づいたり、表し方や感じ方の違いに気づいたりする。**

5 題材の中で育みたい力

		育みたい力	具体的な内容
関心・意欲・態度	**1**	**楽しむ**	**協力して「森」を表現する喜びを味わう。**
	2	追究する	表したい「森」について、より自分の思いに近づくことができる構図や技法を考える。
	3	つなげる	互いのアイデアを持ち寄り作品に生かそうとする。
発想・構想の力	**4**	**広げる**	**友だちのアイデアや鑑賞活動から、不思議な「あすかの森」を発想することができる。**
	5	深める	構図を工夫したり、表現方法を工夫したりして、自分だけの「森」にするにはどうするか考える。
	6	見通す	表したい「森」を表現するには、どのような技法がふさわしいか考えることができる。
つくりあげる力	7	比べる	同じ「森」でも、その仕上げ方によって印象が違うことを知り、そのことを表現に生かす。
	8	**選び、決める**	**自分の思いに一番合った「色」や「材料」を用いて、表現することができる。**
	9	バランスをとる	作品をはなれて見ることにより、色の調節や描き加えを見つけることができる。
	１０	使う	今まで学んだ表現方法や、新たに考え出した表現を使って、表したい世界を描くことができる。
鑑賞の力	１１	感じとる	色々な画家の作品を鑑賞することで、自分の思いに忠実な作品のおもしろさを感じ取る。
	12	**自己理解**	**自分たちの作品のよさや、工夫したところを友だちに伝えることができる。**
	13	**他者理解**	**友だちの作品から思いや表現の工夫を感じ取り、アドバイスしたり認めたりすることができる。**

飛鳥山公園風景

6 題材の指導計画

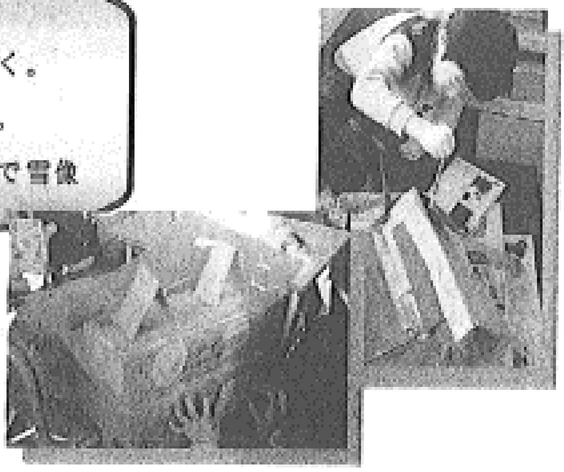
指導過程	学習内容	時
題材との出会い	・アンリ・ルソーの「森」描いた作品を鑑賞し、不思議な森のイメージをつかむ。 **みんなの大好きな「あすかの森」をもっと楽しい森に変身させよう。**	1
発　想	**「あすかの森はワンダーランド」を描いてみよう** ・「あすかの森」のアイデアスケッチをする。	1
構　想（下がき）	・グループで、一人一人のアイデアを生かして、不思議な森になるようにまとめる。 ・本図のための下描きを描く。	1
表　現	・自分たちの構想をもとに、下描きを写し取っていく。	2
本時	・自分たちの思いを表現するのにふさわしい画材を使う。 ・途中経過報告会「お互いに見たい会」をする。	1
	・他のグループの絵やアドバイスをもとに制作を進める。	2
鑑　賞 ふりかえり	・学校内のお祭りで「４年生ミニ美術館」を開催して、自分達の作品を紹介する。	1

7 教育課程（他の題材とのつながり）

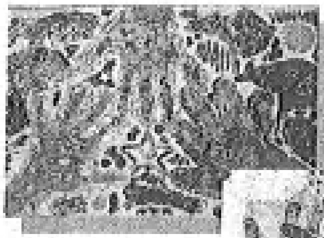
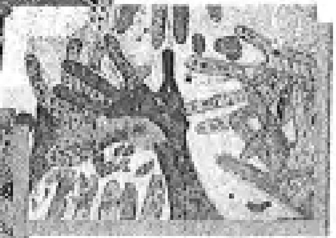
第１学年**「できたできた」（造形遊び）**
・学校の駐車場に、チョークで好きな絵を描く。

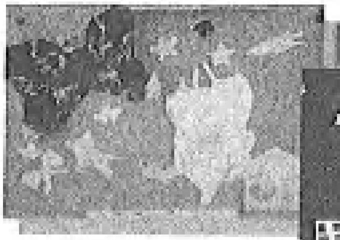
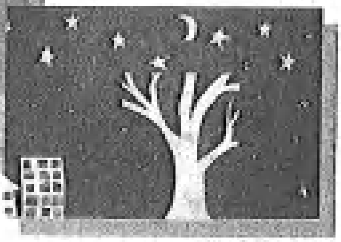
第２学年**「これいいかんじ　ヌルヌルヒヤヒヤ」（絵）**
・紙粘土に水と絵の具をまぜて、指で描いていく。

第３学年
「これでかけるよ」（絵）
・絵の具以外の色々な材料を使って絵を描く。
「だんボールのへんしん」（つくる）
・段ボールを使って、共同で作品をつくる。
「雪像作り」（つくる）
・総合的な学習の時間を使って、共同作業で雪像作り。



第４学年
「キラキラ光る絵」（絵）
・アルミホイルを使って光る絵を描く
「絵の具のふしぎ」（絵）
・絵の具の技法を学んで、絵を描く。

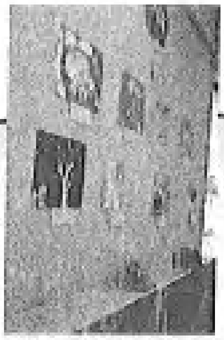
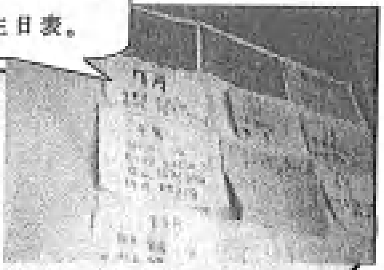



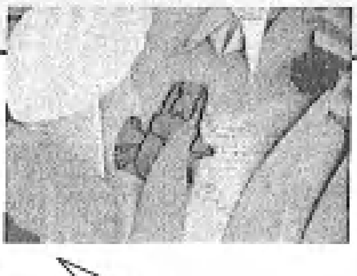
８ 環境の構成

・ 毎月１回「校内作品展」を行い、５～６人ほどの作品を順番に掲示して、お互いの作品を見合っている。
・ 長期休業終了後に、作品を持ち寄って、「夏休み・冬休み校内作品展」を開催している。
・ 教室内に、「市内図書館」から借りてきた本（絵本を中心に）を常時設置して、絵に対する様々な表現を見ることができるようにしている。
・ 教室環境係が、自分たちで作った飾りを壁面に掲示して環境整備に努めている。

校内作品展と教室前の掲示。いつも自分達の作品が見れます。

「かざりサークル」制作の誕生日表。



季節に合わせて、作ったみんなの広場「夏の木」バージョン。

9 本時の学習指導案

(1)本時の目標　○自分たちの思いに合った画材を選び、表現することができる。

○互いのよいところを見つけ、取り入れることができる。

(2)本時の評価(受信…児童の心や頭の中で何が起きているのか)

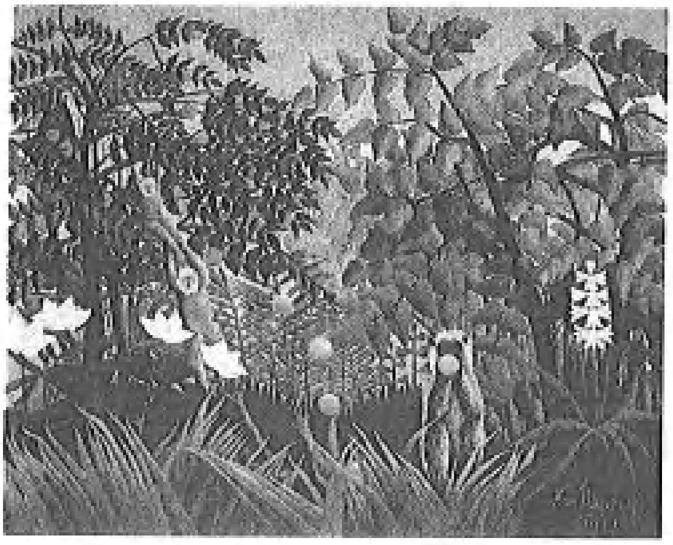
	育みたい力		評価規準		Bを実現できない児童への手だて
			B育みたい具体的な力	A十分満足できる状況	
関心・意欲・態度	2	楽しむ	自分が想像した「森」を描くことを楽しんでいる。	自分が想像した「森」を描くことを楽しむと共に、友だちの意見を聞き入れながら、集中して制作に取り組んでいる。	○活動の様子を見ながら具体的によさを示して認め、意欲化を図る。
発想・構想の力	4	広げる	作品を作るための「森」のアイデアを出すことができる。	自分だけの「森」を想像してたくさんのアイデアを出している。	○具体的に対話を通して、森に対するイメージをくみ取っていく。 ○友だちの作品の紹介。
つくりあげる力	8	選び決める	たくさんの「色」や「材料」を用いて、表現することができる。	たくさんの色を使ったり、お試しコーナーで自分の思いにぴったり合った表現方法を試し、自分の作品に生かしている。	○活動の様子を見ながら具体的な方法を対話を通して紹介したり、友だちの作品を参考にさせたりする。
鑑賞の力	12	自己理解	自分たちの作品のよさや、工夫したところを友だちに伝えることができる。	自分たちの作品の色や構図の工夫、選んだ技法について、理由を加えて説明することができる。	○教師の具体的な発問により発言を促す。また、うまく言えないところを補足説明を加える。
	13	他者理解	友だちの作品から思いや表現の工夫を感じ取り、うなずきながら聞くことができる。	友だちの作品から思いや表現の工夫を感じ取り、アドバイスしたり認めたりすることができる。	○教師の具体的な発問により発言を促す。また、発表者を見て聞くことを指導する。

(3)本時の展開

過程(時間)	育みたい力	児童の活動	教師の働きかけ	備考
課題把握 (3分)	見通す	**自分たちのあすかの森をかこう** どんな色がぴったりくるか / 色々なざいりょうを使って / グループで協力して ○課題の確認	・前時までの活動の確認をする。	
課題解決 (40分)	見通す 広げる 使う バランスをとる 比べる 自己理解 他者理解	○グループで描いてきた「森」に彩色を始める。 ○長い筆や大きな筆で描くことによって、距離感を味わいながら描く。 ・どんな色を使おうかな。 ・どんぐりや段ボールも使ってみようかな。 **〈お互いに見たい会〉** ・制作途中の「森」を見合う。 ・なりきりアドバイスをする。 ・困っていることや相談したいことを発表する。 ・○○グループのあの花かわいいね。 ・あの木はどうやって描いたのかな。 ・自分たちだけの表現ができたぞ！ ○他のグループの絵やアドバイスをもとに制作を進める。 ○さらに、作品の中にどんな動物がいるかを想像する。 ○後片付けをしっかりする。	・アイデアスケッチにこだわらないで自由に描くよう声をかける。 ・たくさんの色を用意する。 ・たくさんの材料を用意する。 ・彩色のアドバイス。 (自分の気持ちにピッタリする合う色を使う) ・「シンキングタイム」を取り、自分達の作品をはなれて見るように声をかける。 ・児童の作品を紹介する。 ・大きい筆、小さい筆、刷毛を使わせる。 ・発表方法、話の聞き方のルールの確認。 ・改めて、どんな「森」を描きたかったのかを確認する。	カップに、たくさんの色をあらかじめ作っておく。 段ボールなど、絵の具以外の画材の準備をする。 たくさんの筆を用意する。 司会は、教師がする。
定着 (2分)	見通す	○本時の制作を振り返り、次時への意欲と見通しを持つ。	・あと2時間で完成を予告する。	

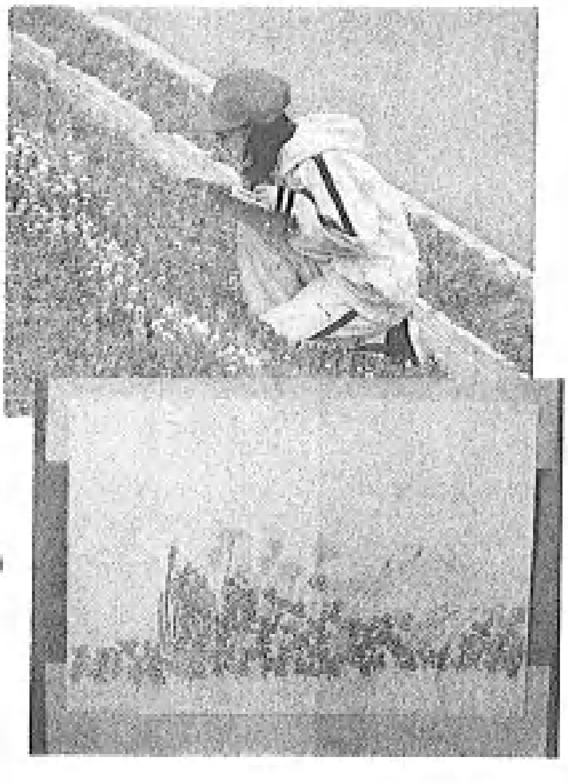
アンリルソーの作品を鑑賞しました。

〈異国風景〉

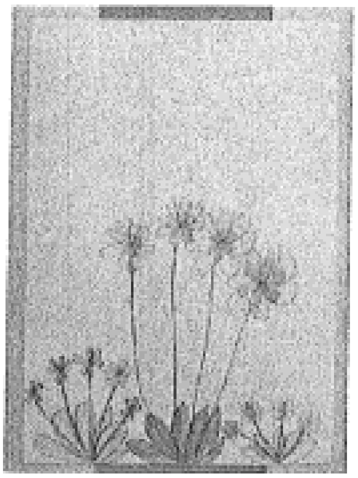


鮮やかな熱帯植物や木々の緑色と青々とした空の見事な明瞭感は画家の作品の中でも特に際立っており、観る者を強く惹きつける。さらに三匹の黄毛の猿が連なりぶら下がる樹木に実る柑橘類を思わせる橙色の果実のほか、画面中央の赤味の強い花々や、画面の左右に配される純白の花々は画面内へ絶妙なアクセントをもたらしている。また画面中央ややみぎよりには一匹の白毛の猿が橙色の果実を口元へ運んでいる。本作の各構成要素はどれも画家の個性に富んでおり、生き生きと描かれていながらも、画面全体が醸し出す雰囲気や観る者が受け取る印象は静寂とある種の幻想性に包まれている。この作品から伝わる独特な感覚こそルソー作品に通じる魅力であり、本作はそれが顕著に感じられる代表的な作品のひとつでもある。

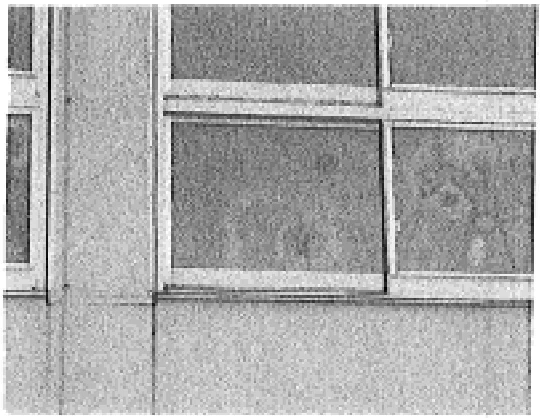
【参考資料～２００５年度４年生によるグループ制作の風景】

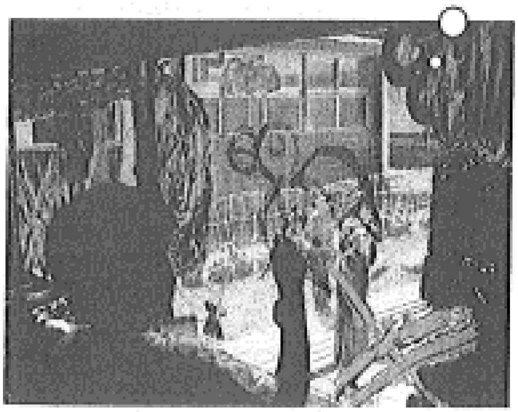


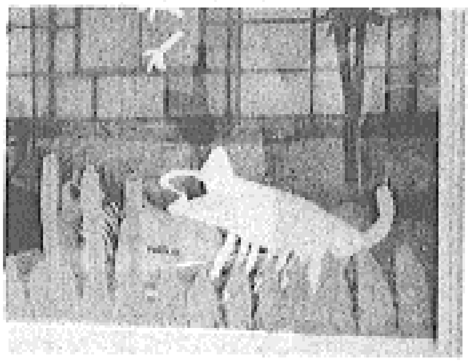
あすか山公園で、スケッチをしてきました。
風が気持ちよかった。



ぼくは、
鳥を描こ
う…。







みんなで、描いた「あすかの森」
の前で、記念写真をパチリ！！
「あすかの森」の素晴らしさをみ
んなに伝えられたかな？

あすかの森はワンダーランド

○ アイデアスケッチをかこう。
○ あすかの森には、どんなふしぎな動物や植物がすんでいるのだろう。

◇この森は、どんな森ですか？

全道造形教育研究大会　図画工作科学習指導案

北広島市立北の台小学校 ５年１組 ３４名
２００８年７月２８日（月）・１時間目
授業者　教諭　中村安奈

１．題材名　「心　広がる場面」　～銀河鉄道の夜（宮沢賢治作）の世界～

（水彩絵の具による絵画・８時間）

２．題材について（心育てる題材）

子どもが表現を楽しいと感じたり，また，「自分の思いをどう表現していくか」自分なりに工夫したりしながら追及していく姿を育みたい。「自分の頭の中で考えたことを自由に外へ表現できる喜び」。この喜びが子どもたちの顔に「かがやき」をもたらすだろう。

銀河鉄道の夜は，宮沢賢治が死の間際までくり返し手を入れていたが，惜しくも未完成のままに終わった作品だといわれている。銀河鉄道の旅行という，壮大で華麗な四次元の風景の中での旅であり，ジョバンニとカンパネルラの列車の中での出会いや，宇宙を美しく彩る草花やさまざまな死者との出会いなどが，時間や空間を超えて，幻想的な銀河系の世界の中にくり広げられている。

宇宙をのぼる列車のまわりに，宝石のきらめきを持ちながら幻想的に存在する草や花や生き物や岩石。不思議な雰囲気を持ちながら，次々に登場する人物たち。これらは，きっと５年生の子どもたちの想像の世界を強く刺激するだろう。

お話からは，現実に体験できない世界を味わったり，不思議な世界を楽しんだりすることができる。そのような中で，心に深く刻まれたことや感動した場面を選んで絵に表すと，さらに物語の世界を深めていくことができる。画面構成を考え，色を工夫して絵に表すことで，自分が感動した場面をよりよく伝えられるようにさせたい。

３．児童観／指導観

絵を描くことが好きな子どもが多い。家庭学習のノートに家で飼っているインコのピッちゃんをクロッキーしたり，テレビのリモコンやおもちゃのヘリコプターをクロッキーしたりしている。また，古生代に生きていた動物について図鑑で調べ，ノートにその生き物の絵を描いてくる子もいる。図工の時間は教室が静まり返り，毎時間一人ひとりが作品作りに集中して取り組んでいる。

今回の学習は，いきなり画用紙に下絵をかかせるのではなく，感動した場面のいくつかをスケッチさせて発想を広げ，それから表したい場面を選択して，構想を深めてから下絵に取り組ませる。スケッチをすることで自分のイメージが明確化するし，「あ，そうだ…」とか「もっとこうしてみよう…」ということも生まれてくるだろう。

毎週月曜日の１０分間のKチャレタイム（北の台チャレンジタイム）では学年でスケッチに取り組んでいる。ほとんどの児童が気軽にスケッチをしている。内容は，手やはさみ，さくらの葉，にぼし，よさこいの“なるこ”など，実際にあるものを見て画用紙に描かせている。作品はすぐ教室内に掲示し，友だちどうし感想を言い合い自由に鑑賞している。

４．題材の目標

・　物語から場面の様子を想像し，構図や色の使い方を工夫し，表現する喜びを味わう。

５．題材の中で育みたい力

		育みたい力	
関心・意欲・態度	１	**楽しむ**	・自分の発想を表現する喜びを味わう
	２	追求する	・自分の発想を表現し，最後まで粘り強く作品と向かい合う。
	３	つなげる	・これまで学んだことを生かそうとする。
発想・構想の能力	４	**広げる**	・発想や自分の感じ方，考え方を豊かに広げていく。
	５	**深める**	・さらにどうしたらよいか考えたり，構図や色の使い方を工夫したり，かきたい場面がよく表れるようにしようとする。
	６	見通す	・完成させるという目的意識をもって，先を予想しながら順序良く作業を進める。
つくりあげる力	７	比べる	・形，色，用具などを比べながら表現する。
	８	**選び・決める**	・いくつかのスケッチを見比べ，下絵にする構図を選択，決定する。
	９	バランスをとる	・はなれて見て，形や大きさ，色の強さの調和をとる。
	１０	使う	・自分の思いを伝えられるように，線の太さ，絵の具の濃淡に注意して道具を使う。
鑑賞の力	１１	**感じとる**	・自他の絵をみて，同じお話でも表したい世界がそれぞれ違うことに気づく。自他の作品のよさを感じとり，楽しむ。そして，自分の作品をもっと工夫したくなる。
	１２	自己理解	・心広がる世界をどのように表したいと考えたか，話す。
	１３	他者理解	・作品に込められた友だちの想いや考えを，友だちの作品や言葉から理解する。

６．題材の指導計画（８時間）

	学　習　内　容	時間
題材との出会い 発想 構想	○学習内容と全体計画を知る。 ○お話を聞いて，心広がる場面の情景をスケッチする。 ○構図を工夫して，描きたい場面がよく表れるように描く。	1
表現	○どんな色で全体をまとめれば自分の思った情景や雰囲気が表せるかを考える。 ○構想をまとめ，下絵をかく。	2

	○絵の具で彩色する。	2
	○はなれて見て，形や大きさ，色の強さの調和をとる。 ○作品の完成	2
鑑賞・ふりかえり	○心広がる世界をどのように表したいと考えたか話し，友だちの感想を聞きながら自分の感じ方を深めたり，高めたりする。 ○よさや違いを認め合う。	1

7．教育課程（他の題材とのつながり）

第１学年「みて，みて，おはなし」
お話を絵に描く

第２学年「見て，見て，おはなし」
想像したことを描く～かさこじぞうの世界～

第３学年「ねんどでお話」
お話をねん土で

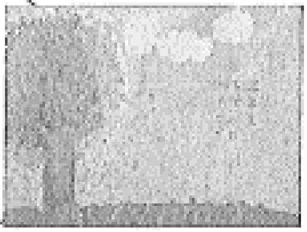
第４学年「お話の世界」
想像したことを描く～エルマーのぼうけん～

身近なものをクロッキー！

毎週月曜日の１０分間のKチャレタイム。手やハサミ，桜の葉，にぼしなどを画用紙に描き教室に掲示。友だちどうし感想を言い合い自由に鑑賞している。

「春～自信をもって」

５年生になったばかりの４月，新しいクラスになり，新しい学習が始まる中での自分の気持ちを詩に表現し，それを水彩画の中にかき表しました。



第５学年「心　広がる場面」
～銀河鉄道の夜（宮沢賢治作）の世界～

8．環境の構成

・ 校内・教室内の掲示板・廊下に児童の作品を展示する。
・ 教室に構図について参考にできる資料としての作品を展示する。
・ 完成した児童の作品は速やかに教室内に飾る。

９．本時の学習指導（１／８）

（１） 本時の目標

・ 描きたい場面の構想を練り，構図を工夫してスケッチすることができる。

（２） 本時の評価（受信～児童の心や頭の中で何が起きているのか）

	育みたい力		評価規準		Ｂを実現できない児童への手だて
			Ｂ育みたい具体的な力	Ａ十分満足できる状況	
関心・意欲・態度	1	楽しむ	自分の発想を表現したり構想を深めたりする喜びを味わう。	意欲的にスケッチに取り組んでいる。	自分が描いてみたいものを，簡単な形で描いてみるように助言。
発想・構想の能力	4	広げる	発想や自分の感じ方，考え方を豊かに広げる。	意欲的にスケッチに取り組んでいる。	自分が描いてみたいものを，簡単な形で描いてみるように助言。
	5	深める	構図を工夫し，描きたい場面がよく表れるようにする。	多様な表現方法やアイディアを活かして構図を工夫し，描き表している。	描きたいものの大きさや場所や傾きを変えてかいてみるように助言。
つくりあげる力	8	選び・決める	スケッチした中から一つ自分が一番表したい場面を選択する。	発想したことを価値葛藤の中で取捨選択する。	スケッチした中からよいところを教師が見つけ，共感し，励ます。
鑑賞の力	11	感じとる	友だちの絵をみて，同じお話でも表したい世界がそれぞれ違うことに気づく。	自分の作品をもっと工夫したくなる。	友だちの作品のよさに気づかせるよう促す。

（３） 本時の展開

過程	育みたい力	児童の活動	教師の関わり	備考
始業前スケッチ	選び・決めるバランスをとる	○教室に入ったら１０分間スケッチを始める。	・白い画用紙と下に貼る色画用紙を配る。教師も一緒にスケッチをする。	子どもの表情に注目
課題把握（10）		①みんなは，今までクロッキーをたくさんやってきたよね。実際に物を見ながらかいてきたよね。みんなすごく上手にかけているから，このことについては自信をもっていいと思うんだよね。でもね，今日やることはちょっと違います。		

		②自分の頭の中で想像した世界を絵に描いてみるって面白いと思わない？ ③これから先生がお話を読みます。その話を聞いて，自分が想像したものを絵に表してみるのが今日のお勉強です 課題 お話を聞いて，自分が想像した場面を絵に表そう。 銀河鉄道の夜（宮沢賢治作）５　天気輪の柱		教師がお話を読む
表現 （30）			④自分が想像した場面を簡単にスケッチしてみましょう。	
	楽しむ	○自分が想像した場面の情景をスケッチする。		希望があれば，お話の紙を配る。
	広げる	○いろいろな場面を思い浮かべて何枚もスケッチし，発想を広げる（A５ワークシート①）。	⑥描くものの位置や大きさを変えてみると、今までとまた違った感じがするよ… ⑤このお話の世界の中に自分がいると考えて、いろいろな場面を想像して描いてみましょう。	
	選び・決める	○スケッチした中から一つ自分が一番表したい場面を選ぶ。		
	深める	○構図を工夫し，描きたい場面がよく表れるようにする（B５ワークシート①）。		
	感じる	○友だちの絵をみて，同じお話でも表したい世界がそれぞれ違うことに気づく。	・実物投影機の利用	位置と大きさの工夫例
まとめ （５）	選び・決める	○自分が一番表したい場面を選択する。 ○下絵を描き始める。	・描きたい場面の構想が深まった児童から，鉛筆で下絵を描かせる。 ・場合によってはトリミング等を行い下絵を描かせる。	

『銀河鉄道の夜』

一、午后の授業
二、活版所
三、家
四、ケンタウル祭の夜
⇒五、天気輪の柱
六、銀河ステーション
七、北十字とプリオシン海岸
八、鳥を捕る人
九、ジョバンニの切符

五、天気輪の柱

牧場のうしろはゆるい丘になって、その黒い平らな頂上は、北の大熊星の下に、ぼんやりふだんよりも低く連って見えました。

ジョバンニは、もう露（つゆ）の降りかかった小さな林のこみちを、どんどんのぼって行きました。まっくらな草や、いろいろな形に見えるやぶのしげみの間を、その小さなみちが、一すじ（ひとすじ）白く星あかりに照らしだされてあったのです。草の中には、ぴかぴか青びかりを出す小さな虫もいて、ある葉は青くすかし出され、ジョバンニは、さっきみんなの持って行った烏瓜（からすうり）のあかりのようだとも思いました。

そのまっ黒な、松や楢（なら）の林を越えると、俄かにがらんと空がひらけて、天の川がしらしらと（白っぽく）南から北へ亘って（わたって）いるのが見え、また頂の、天気輪の柱も見わけられたのでした。つりがねそうか野ぎくかの花が、そこらいちめんに、夢の中からでも薫りだしたというように咲き、鳥が一疋（いっぴき）、丘の上を鳴き続けながら通って行きました。

ジョバンニは、頂の天気輪の柱の下に来て、どかどかするからだを、つめたい草に投げました。

町の灯は、暗の中をまるで海の底のお宮のけしきのようにともり、子供らの歌う声や口笛、きれぎれの叫び声もかすかに聞えて来るのでした。風が遠くで鳴り、丘の草もしずかにそよぎ、ジョバンニの汗でぬれたシャツもつめたく冷されました。ジョバンニは町のはずれから遠く黒くひろがった野原を見わたしました。

そこから汽車の音が聞えてきました。その小さな列車の窓は一列小さく赤く見え、その中にはたくさんの旅人が、苹果（りんご）を剥（む）いたり、わらったり、いろいろな風にしていると考えますと、ジョバンニは、もう何とも云えずかなしくなって、また眼をそらに挙げました。

あああの白いそらの帯がみんな星だというぞ。

ところがいくら見ていても、そのそらはひる先生の云ったような、がらんとした冷いとこだとは思われませんでした。それどころでなく、見れば見るほど、そこは小さな林や牧場やらある野原のように考えられて仕方なかったのです。そしてジョバンニは青い琴の星（ことざ）が、三つにも四つにもなって、ちらちら瞬き（またたき）、脚が何べんも出たり引っ込んだりして、とうとう蕈（きのこ）のように長く延びるのを見ました。またすぐ眼の下のまちまでがやっぱりぼんやりしたたくさんの星の集りか一つの大きなけむりかのように見えるように思いました。

ワークシート①

名前＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

ワークシート②（実際は１２２％拡大）

名前＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

全道造形教育研究大会いしかり北広島大会　図画工作科学習指導案

千歳市高台小学校　6年1組
（男子11名　女子14名　計25名）
2008年7月28日
授業者　教諭　熊谷宏子

1、題材名　　「伝えあおう！仲間との思い出」（絵画・絵手紙による表現・８時間）

2、題材について（心を育てる題材）

小学校の図工科において、６年間①材料や場所を生かした表現②工夫しながら体や用具を使った表現③表したいことや伝えたいことを確かめる表現、これらを学習のめあてとして学んできた。楽しみながら制作を続けてきた子ども達も、見たものを忠実に描きたいという欲求や自分が何かを伝えたいという気持ち「心」を意識しはじめる。

自分が伝えたいと思うことを表現することと、仲間が伝えたいと思うことを理解することは、互いの意思疎通をはかるだけでなく、自己表現力や他者理解力を大きく高める。この成長期の子ども達にとって、自他を理解しあおうとする心が芽生えることは、生涯にわたって意義深い人間関係を築くことにつながる。

自分が伝えたいことがのびやかに表現されるであろう場面として、６年間の小学校生活の中で、おそらく誰もが一番楽しみにしている修学旅行がある。本学級では、修学旅行が誰にとっても楽しい思い出になるようにと、子ども達は日々の生活の場面で意識し、目標を持って過ごしてきている。「仲間」この目標には自分だけではない他の存在を理解し、共に歩もうとする子ども達の想いがあふれている。これらの子ども達の想いは、本題材によって生き生きとあふれだし、表現する喜びが実感できるものと考える。

他に本題材のねらいとして、自分が表現するものへの迫り方（構図）、手段（習得した技法）の選択がある。何をどのように表現するとよいかということを一人ひとりが、修学旅行中のスケッチ（構図）、様々な作品との出逢い（鑑賞）や習ってきたこと（技法）をもとに表現の幅を広げてほしいと考えている。

3、児童観/指導観

本学年は、５年次から「総合的な学習」や「学活」「行事」など横断的なつながりで図工科の学習を進めてきた。図工科の中でも「絵」と「文」で表現する絵手紙風の作品制作を取り組んできた。例えば、「１年間の志」と題して、進級を迎えて１年間どのような目標を持って挑むかを表現してきた。他にも、「市内音楽発表会」や「田植えの体験」など、仲間と築きあげた喜びや新しい発見を綴ってきている。

また、お互いの作品を題材の流れの中で何度も交流しあいながら、他の作品のよさに気付き自分の作品のよさを追求する活動を重ねてきている。自分の作品や他の作品に対して、言葉を使って感想を交流しあうことは、子ども達に「伝え合う力」を培う場面として重要なねらいを持っている。

図工科における子ども達の思いを聞くと、「自分の思うような絵を描きたい。」や「汚れずにきれいに完成させたい。」「絵についてたくさん教えてください。」という多くの声があがった。主に絵画の分野で子ども達が前向きに表現する欲求が高まっていることを強く感じる。子ども達の「～したい。」という願いや思いを様々な図工科の表現の場で叶えさせてあげたいと常に考えている。

4、題材の目標

- 自分の発見や喜びを、楽しく絵にあらわすことができる。
- 自分の思いが一番よく伝わる構図や技法であらわすことができる。
- 自分や友だちの作品のよさを感じ取り、鑑賞会で交流することができる。

5、題材の中で育みたい力

関心・意欲・態度	1	楽しむ	・自分の発見や喜び、感動を作品にあらわす喜びを味わう。
	2	追求する	・あらわしたい場面を、より自分の思いに近づける構図や技法を考え、自分の作品とねばり強く向き合う。
	3	つなげる	・これまで学んだことを生かそうとする。
発想・構想の能力	4	広げる	・旅行中のスケッチや様々な鑑賞作品などから、新たな発想を広げることができる。
	5	深める	・自分の表現したい場面により近づけるために、さらにどうしたらよいかを考える。
	6	見通す	・制作についての時間的な見通しも意識しながら活動する。
つくりあげる力	7	比べる	
	8	選び、決める	・自分の思いが一番伝わる構図にせまるため、構図の選択や彩色ができる。
	9	バランスをとる	・作品をはなれて見る習慣を持ち、色の濃淡などの調節ができる。
	10	使う	・自分の表現したいものにせまる絵の具使いができる。（水の量・混色・筆遣い）
鑑賞の能力	11	**感じとる**	**・描きたいと思ったものや完成した作品に対して、素直によさやおもしろさを感じ取ることができる。**
	12	**自己理解**	**・自分の作品に対する思いを語ることができる。**
	13	**他者理解**	**・友だちの作品から思いを感じ取り、伝えることができる。**

6、題材の指導計画（7時間）

学習過程	学習内容	時間
題材との出会い	・今まで作成してきた絵手紙作品や片岡鶴太郎、大野勝彦などの作品を鑑賞し、伝えたいことをどのように表現しているのかを理解する。 ・修学旅行という大きな行事の中で自分の目で見たものや心で感じたことを捉える。	1
発想	・自分の目で見て、感じたことをスケッチで表現する。 ・スケッチや友だちとの交流の場面で、自分の一番伝えたいことを構図にあらわす。	1
構想	・自分の一番伝えたいことに迫るために、完成のイメージをもって構想をまとめ、制作の見通しを持つ。彩色についても考えてみる。	1
表現	・自分の構想をもとに、既習事項をふりかえり、自分の表現に生かす。 ・はなれて見る習慣や友だちとの作品交流などから、自分の表現にさらに工夫を凝らす。 ・完成した作品を自己評価する。	3
本時 鑑賞・ふりかえり	・作品を額に入れ、自分の作品に思いを込めて語り、本題材を通しての学びについて振り返る。 ・友だちの作品から、思いや工夫を感じ取り、言葉で表現し、自分の表現意欲を高める。	1

7、教育課程(他の題材とのつながり)

第１学年「なににみえるかな」(表現・鑑賞)
自分の作った形と友だちの作品鑑賞

第２学年「がんばった時」(表現)
自分ががんばった時の版画

第３学年「そのときの気持ちを大切に」(表現)
思い出の一場面を絵にあらわす

第４学年「ふにゃふにゃの形から」(鑑賞)
自分の作品と友だちの作品鑑賞

第５学年「イメージを広げて」(表現・鑑賞)
想像の世界

自分の思いを地域へ発信

総合的な学習「守ろう地球！高台サミット(環境教育)」～「ちとせっ子未来フォーラム」で一人ひとりが作った「環境ＰＲジャケット」

自分の思いを絵手紙風に作成したもの(２点)
を合わせジャケット化⇒

学活・図工「１年間を振り返って」
５年生で自分が一番輝いたとき
絵手紙風表現で作成しました。

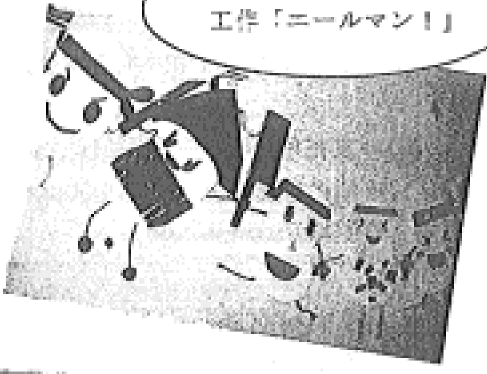
自分の思いを仲間へ発信

学活・図工「１年間の志」
６年生、最後の１年間の目標や思いを絵手紙風に表現しました。

図工「伝えよう！大切な仲間」～いつも共に歩む仲間をじっくりと描き上げました。

自分たちの大切仲間たち

運動会のために
工作「ニールマン！」



第６学年「伝えあおう！仲間との思い出」(表現・鑑賞)
自分が一番心に残った思い出を絵手紙風に表現
自分の思い・仲間の思い

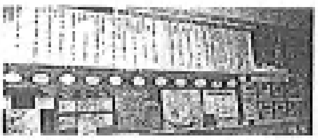
8、環境の構成

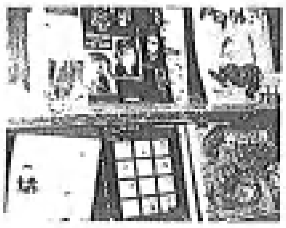
・校内作品展を学芸会と合わせて行い、絵画や版画などを展示し地域や保護者の方々に鑑賞される機会を設定している。

・長期休業中に作品を持ち寄り、校内作品展を年に２回開催している。また、作品紹介を放送委員会で番組を制作し放送している。

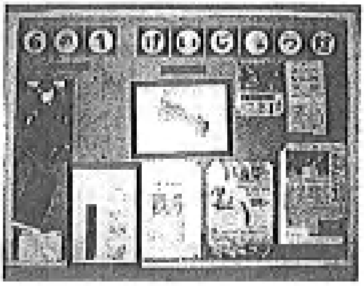
・学級では、参考にできる資料としての作品や図録、パンフレットを展示している。

自分達で作り上げる学級掲示を⇒

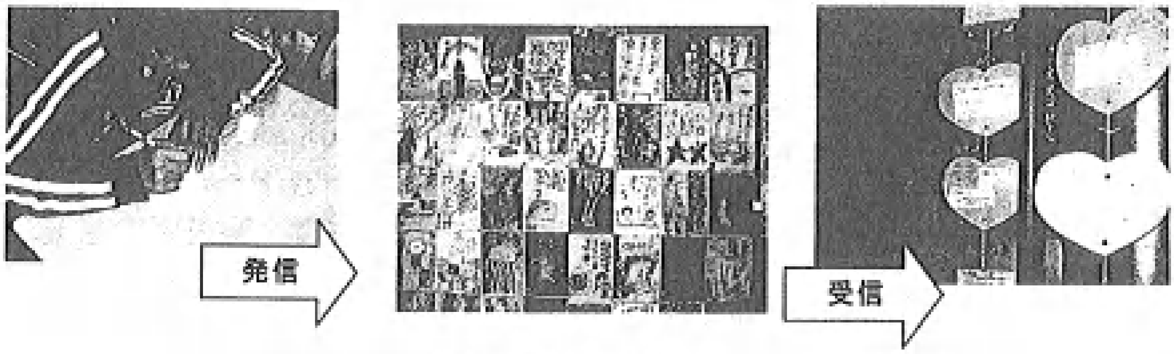




・学級では、「６の１げいじゅつ館」という子ども達の作品スペースを取り、自由テーマでイラストや折り紙作品などを自由に掲示している。絵は額に入れて展示している。



・他学年の児童からも作品の感想を書き込んでもらう、全校発信・受信型の作品展示を行っている。

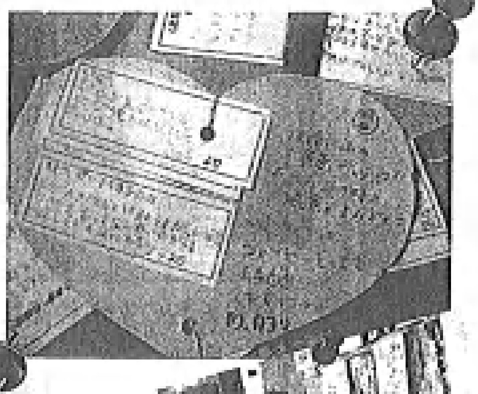


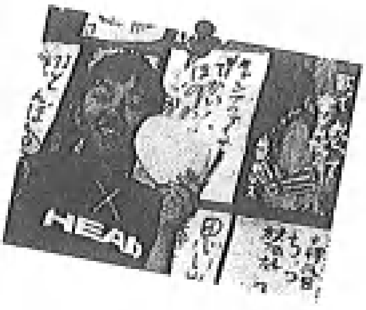
全員の作品を展示する

・鑑賞カードをモビールのようにつるし、「伝えあい」の様子もわかるような展示を行っている。

(表)⇒自分の感想や次へのステップを書いたもの

(裏)⇒友だちからの感想メモ（貼り付け）
＊他の学年の児童からのメッセージ
＊教師からのコメント





9、本時の学習指導

(1)本時の目標

・自分の作品に思いを込めて語り、本題材を通しての学びについて振り返る。
・友だちの作品から、思いや工夫を感じ取り、言葉で表現し、自分の表現意欲を高める。

(2)本時の評価(受信...児童の心や頭の中で何が起きているのか)

育みたい力		評価規準		Bを実現できない児童への手立て
		B　育みたい具体的な力	A　十分満足できる状況	
鑑賞の力	自己理解	・自分の作品に思いを込めて語り、本題材を通しての学びについて振り返ることができる。	・自分の構図の迫り方や色彩表現の工夫、学んだ技法について、心情に基づいた説明ができる。	・教師の発問～「どんな気持ちだったかな。」「一番苦労したところはどこかな。」 ・児童の発問～「〇〇がとてもいいと感じたよ。楽しい場面を描いたのかな。」 など教師や児童間の発問で、Bを実現できない児童の説明を促す。
	他者理解	・友だちの作品から、思いや工夫を感じ取り、言葉で表現し、自分の表現意欲を高める。	・より多くの友だちの作品から、思いや工夫を感じ取り、言葉で表現し、自分の表現意欲を高める。	・教師の発問～「友だちの作品の中で一番素敵だと感じたのはどれかな。」「どのへんがよかったのかな。」 など教師の発問で、Bを実現できない児童の感想を促す。

(3)本時の展開

過程	育みたい力	児童の活動	教師の働きかけ	備考
課題把握 2分		前時までのふりかえり ・本時の学習の仕方を理解する。	・本時の学習について ①今までの制作 ②鑑賞会について 壁面に展示された作品を紹介する。	＊作品の展示は展覧会のように行う。（イーゼルを使用して）
問題解決 7分	感じとる 自己理解 他者理解	鑑賞 よさを感じ取る ・友だちの作品を遠くや近くからみて鑑賞する。 *友だちへ向けて「発信」* ・鑑賞カードに記入する。	・鑑賞カードの配布（カードと付箋紙3枚） ①記入にあたって 動いて、よくみて、記入させる。	＊あらかじめ「探検パック」にカードと付箋紙をセットしてあるものを配布 簡単に記入 ＊助言

26分		発表 自分の思いを伝え合う ・修学旅行の日程順に発表を行う。 ①自分の説明 ②みんなから *友だちから「受信」* ・自分が書いたカードからや、今感じたことを、友だちに伝える。	・鑑賞会を始める。 「では、修学旅行１日目がはじまりました。」⇒2日目まで（思い起こさせるように） ・困っている児童には教師が発問を行い。②のみんなからへ進行させる。 ・まだ時間のある児童などへ教師からのコメントも入れる。	＊一人一分で発表を行う。（全員が発表することに重きを置いて） ＊児童間の交流を深める発言ができるよう支援する。 ＊一人ずつ教師からのコメントはカードに事前に記入しておく。
定着 5分	自己理解 他者理解	学びの確認 ・本時の学びをカードに記入する。	・本時の学びをふりかえる。 ＊カードに友だちからもらった感想で嬉しかった言葉や学んだことを書く。 ＊友だちへカードを贈る。	＊児童に満足感が見られたか。
5分		共有 *「受信」したことをさらに「発信」～伝え合う* ・本時の感想を交流しあう。	・子ども達の様子をみる。 ・２～３人に発表してもらう。	＊友だちに認められた喜びを分かち合って

全道造形大会2008
in 北広島

資料編

心の旅プラン 絵手紙で子ども達に伝えあう力を

千歳高台小
熊谷宏子

〈〈授業の構築に向けて〉〉

〈〈その他〉〉

※たくさんの作品との出会い（今までの自分、友達の作品，作家・画家の作品）

※構図、色彩の工夫（伝えたい事にせまる選択）

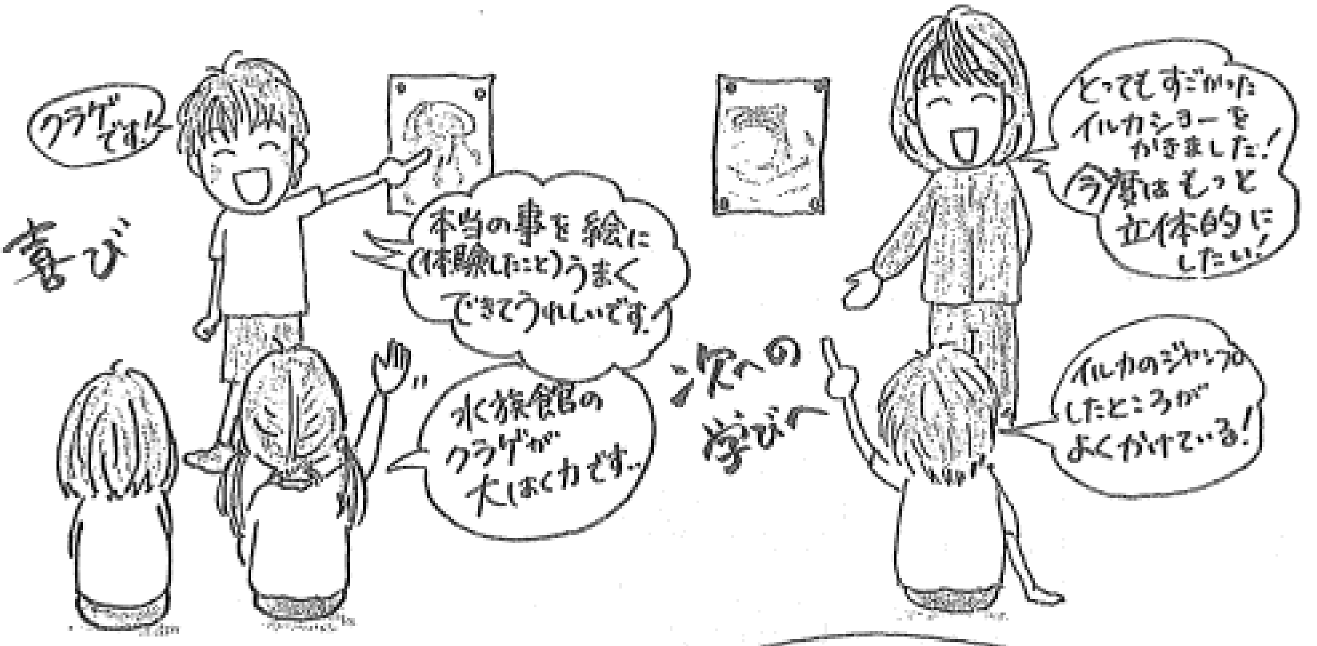
※作品を大切に扱う心（画用紙固定・台紙・展示・鑑賞会・カード）

※自分の思い（発信）友の思い（受信）「心から心へ」～伝えあう力を…

子どもの言葉　子どもの頭や心の中で何がおこっているのか？

〜昨年度の子どもたち

鑑賞・発表『伝え合う力』



共有『伝えられたから』

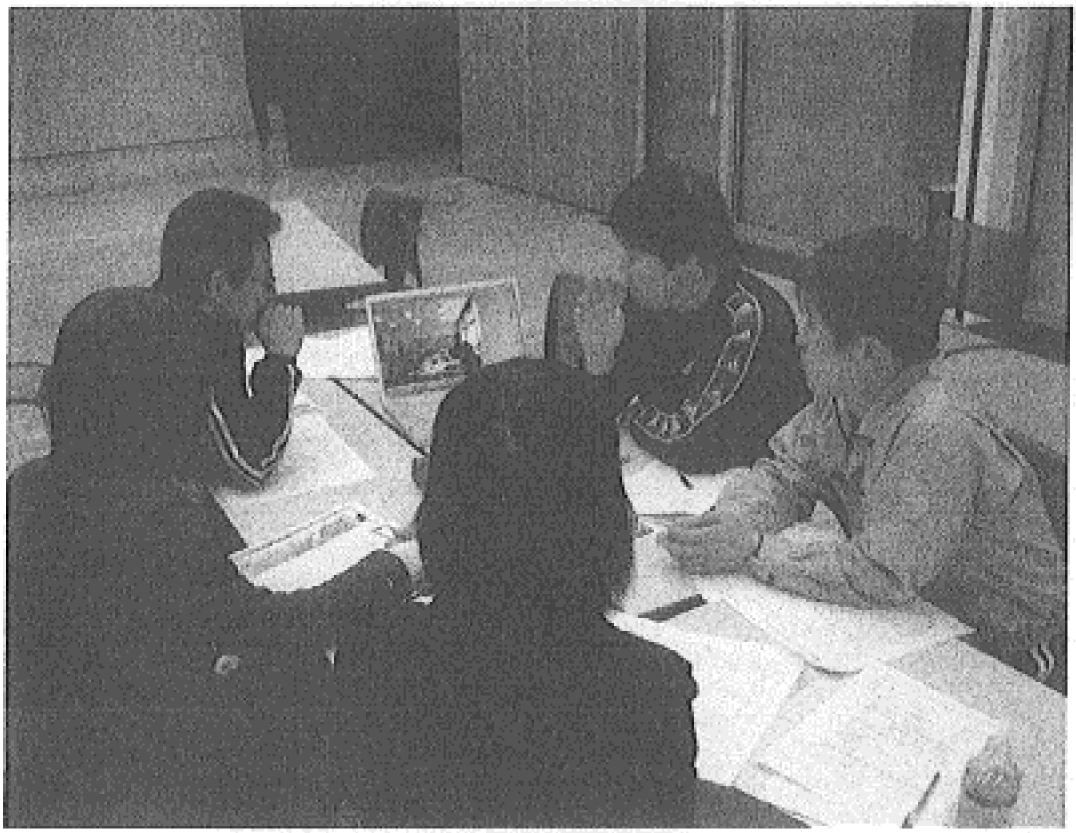
※2007年「鑑賞会」子どもたちの声より…

学級経営へ

明日の子ども達へ…

仲間の作品のよさをわかちあうことは、『仲間そのもののよさ』を理解することへつながる。

授　業	中　学　校



中学校は3つの授業を公開します。

一般的な題材をとりあげました。

スタンダードについて　みなさんと共に
考えてみることは
美術教育の本質を考えることにつながるように思えます

そして専門の教師が
各地域
免許外で指導している先生を支援する
そんなことも大事だと考えています

全道造形教育研究大会いしかり北広島大会　美術科学習指導案

北広島市立緑陽中学校　１年Ｂ組
（男子１６女子１２計２８名）
２００８年７月２８日（月）
授業者　教諭　西村　司

１　題材名　「『思い・気持ち』をこめた手をつくろう」（粘土による彫刻・１０時間）

２　題材について（心育てる題材）

自分のこれまでの授業実践が「作り方指導」に偏っている傾向があったと最近反省している。生徒が気持ちの上で「こんなものを表現してみたい」と自発的に思い、実際の表現活動を通して「表現する」ことの楽しさを実感させることがまず大切であるという点を、石狩の造形教育研究の中で気付かせてもらった。

中１での彫刻題材はこれまでも「芯材を使わない粘土による手の彫刻」を長いこと続けてきており、芯材を使わない「塊」表現ということで「力の入った握りこぶしをつくる」ことに限定しての実践であった。しかし芯材が無くてもある程度までは様々な形の手を表現することは可能なのではないだろうかと考え、２年前から「気持ちのこもった手」という方向に題材を変更してみた。１年目は使用した粘土（塑造用粘土）の性質からか、乾燥後に粘土の一部が崩れ落ちることがいくつかあったので、２年目からは紙繊維の混じった加工粘土（モデリック）に切り替えてみた。

表現の幅が広がることにより、この題材は生き生きとしたものになった。まず彫刻作品の鑑賞から始まり、生徒が表現してみたいと思える手をかなり自由に発想することが可能になった。この点は可塑性材料ならではの醍醐味と言えるかもしれない。制作後の生徒達は、各々の作品を技術的なレベルのみで鑑賞するのではなく、作者の「思い」を含めて「表現された作品」として鑑賞しているように見えた。

手を表現する題材の良さは、人間という自分自身を表現するため、内的なものの表現や、感情の表現ができるという点ではないだろうか。子どもに育ませたい力も数多く含まれる題材と感じる。また、手というのは誰にとっても大変身近な存在であり、そこに目を向けさせその価値に気づかせることは、自分自身の価値に気づくことにつながる。

尚、芯材を組んでの計画的な造形をしていない理由としては、材料代や配当時間を考えての現時点での結論である。

３　生徒観・指導観

２学年に副担任で所属しているため、本授業の生徒は担任学級ではない。しかし今年度から美術科の他に技術科も担当することになり、授業場面が週１時間から週２時間に増え、色々な場面で生徒と触れ合えることとなった。

本学級の生徒の様子としては、全体的に明るく落ち着いた雰囲気であり、指導に素直に耳を傾け

ることが出来る集団である。友人関係はやや希薄な面があり、どちらかというと女子の方がややリーダー性が高い。

小学校時代の彫刻題材では、一方の学校では「針金心材を使った粘土での人間の動きの表現」を経験しており、もう一方の学校では「液体粘土を使って置き物を作る」という題材を経験している。

中学１年生では「レタリング」の題材から今年度も始めている。レタリングではケント紙に黒ペン仕上げで自分の氏名や自由文字を制作した。対象を注意深く観察して、そのバランスの美しさを描く力を育むことができた。その次に、自分愛用の靴や文房具、教室内にある静物などを数多く鉛筆でクロッキーする題材を通し、身近なものに目を向けてスケッチすることの楽しさを体験させた。

4　題材の目標

・塑造による彫刻制作を通して、「思い・気持ち」を作品に込めて表現することの楽しさを味わう。

5　題材の中で育みたい力

観　点	No	育みたい力	具　体　的　な　内　容
関心・意欲・態度	1	楽しむ	自分の思いを形に表すことを楽しむことができる。
	2	**追求する**	**可塑材の特性を生かし、思い・気持ちをこめた彫刻を追及することができる。**
	3	つなげる	既習事項を活かすことができる。
発想・構想の力	4	広げる	様々な手の表情を思いつくことができる。
	5	**深める**	**気持ちが込められた手の形を、具体的に自分の手でポーズしながら考えることができる。**
	6	見通す	最終的な作品の姿を思い描きながら制作することができる。
つくりあげる力	7	**比べる**	**自分の手でポーズをとりながら、量・面について観察比較しながら造形できる。**
	8	選び、決める	ポーズの候補の中から表現したいものを決めることができる。
	9	バランスをとる	作品のバランスを客観的に捉えながら、削り取りや盛り上げを繰り返して行なうことができる。
	10	使う	自分の制作意図に応じて、粘土ベラ、回転台、霧吹きなどの用具を効果的に使うことができる。
鑑賞の力	11	感じとる	彫刻作品のよさについて理解し、作品に込められた作者の思いや気持ち・意図を感じとることができる。
	12	**自己理解**	**自分が表現したい思いが作品に込められているか、意識することができる。**
	13	他者理解	仲間の作品に表現されている、作者の思い・意図を共感的に理解することができる。

6　題材の指導計画

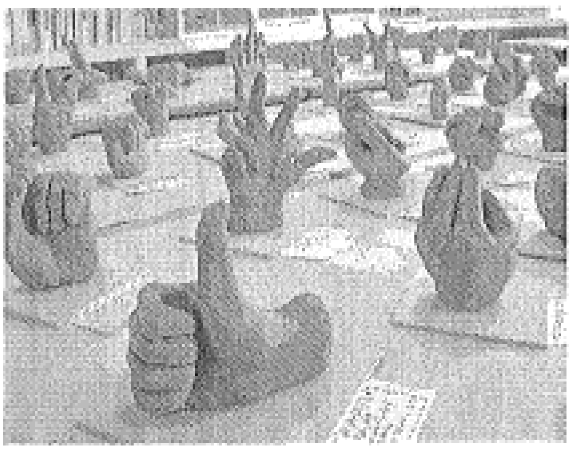
	学　習　内　容	時
題材との出会い	実物や映像、印刷物などの彫刻作品に触れ、その表現の面白さを感じ取る。彫刻についての学習もプリントで行なう。	1
発想を広げる	手についての映像を鑑賞しながら、自分が表現してみたい手について発想を広げる。簡単なスケッチで表してみる。	1
構想をまとめる	仲間の発想から学びあいながら発想をさらに深め、表現したいものを決定し、しっかりとしたスケッチを行なう。	1
表現１	用具・粘土の扱い方を理解しながら、おおまかな全体像を造り出す	1
表現２＜本時＞1/4	回転台を使用し、他方向から形の様子を観察し、次第に具体的に表現を進めていく。	4
表現３	最初の自分の思いを振り返りながら、最終的な表現を行い完成させる。	1
鑑賞	土台に作品を設置し、作品票に解説を記入する。作品交流会を行なう。	1

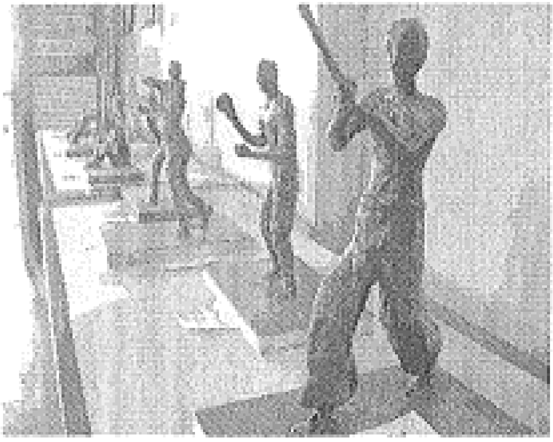
7　教育課程（他の題材とのつながり）

・１年「レタリング」文字の形の構成・バランスの把握
・１年「スケッチ」身近なものの形の観察・描写
・１年「秋を描く」枯葉などを観察しての淡彩スケッチ
・２年「高麗石を使ったカービング」篆刻のグリップ部分の彫刻
・３年「自分という人生の主人公との対話」自画像

8　環境

・前年度１年生の同じ題材作品を美術室に展示しておく
・前年度３年生選択美術作品「動きのある人物像」を廊下に展示しておく
・彫刻に関する掲示ポスターを美術室に掲示しておく
・





9　本時の学習指導

（1）本時の目標　自分の構想を大切にしながら、粘土の塊を具体的な形に近づけることができる

（2）本時の評価（受信…生徒の心や頭の中で何が起きているのか）

	育みたい力		評価規準		Bを実現できない生徒への手だて
			B育みたい具体的な力	A十分満足できる状況	
関心・意欲・態度	2	追求する	彫造と塑造をくり返して行なう。	追求を段々と深めることができる。	出来ていない方のやり方をやって見せる
発想・構想の力	5	深める	手でポーズを作りながら制作を進める。	自分の手で適時確認を行ないながら制作する。	ポーズをとってみることを促す。
つくりあげる力	**7**	**比べる**	**手のポーズと粘土を比較して制作する。**	**量・面について比較して制作できる。**	**実際の幅などを計ってみて確認させる。**
鑑賞の力	12	自己理解	自分の構想に近づいてきたかを意識できる。	構想に近づくための今後の課題を意識できる。	わかりやすいキーワードで気づかせる。
	13	他者理解	仲間の作品のよさを理解できる。	言葉で相手に返すことができる。	相手に質問する機会を与える。

昨年度1年生作品
「思い・気持ち」のこもった手

3年生　選択美術作品「動きのある人物像」

（３）本時の展開

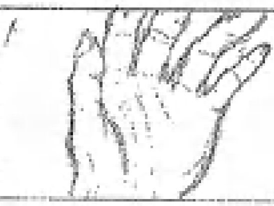
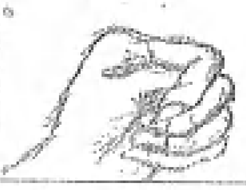
過程 (時間)	育みたい力	生徒の活動	教師の働きかけ	備考
課題把握 （１５分）	見通す	今までの学習を振り返る。 構想の意図を再確認する	前時までの経過を、映像を使って確認する。 本時の制作のポイントの確認	ＰＣ、 プロジェクター
		削り取りと盛り上げを使って 思う形に近づけよう！		掲示物
		削り取りと盛り上げによって粘土の立体感が一気に変化する様子を驚きと共に理解する	教師の演示で伝える	ＯＨＣ （ビデオカメラ）
課題解決 （２５分）	比べる 追求する 深める 他者理解	制作を進める ・粘土ベラによる線入れ 削り取り、盛り上げを繰り返す 相手の制作途中の作品から学び、その後の制作に活かす 制作を続ける	全体指示も入れながら個別支援を中心に指導。 途中、相互評価場面を設ける 相互評価の後の生徒の様子に着目	粘土ベラ 霧吹き 回転台 班単位
定着 （１０分）	自己理解	本時終了時の作品の様子を再確認する。 作品を片付ける	自分の作品を客観的に見て鑑賞する場面を設ける 「思い・気持ち」という点に立ち返らせて鑑賞させたい	用具の整頓

１０．資料

発想の様子と完成作品（昨年度）

「思い・気持ち」のこもった手をつくろう ①

粘土による「手の塊」の表現

No	どんな人物のどんな場面の手ですか？（どんな気持ちがこもっていますか）	簡単なスケッチを描いてみよう
1	困っている人に、差しのべている様子。	
2	自分と、悩んでいる様子。自分に対するくやしい気持ち	

当初の発想を、最後までほぼ変わらずに制作した生徒の例

途中、制作の方向性を転換しつつも、スケッチでは表せない立体感を追求できた生徒の例

「思い・気持ち」のこもった手をつくろう ①

粘土による「手の塊」の表現

No	どんな人物のどんな場面の手ですか？（どんな気持ちがこもっていますか）	簡単なスケッチを描いてみよう
1	机に手をおいた時	
2	手から力をぬいた時	

「思い・気持ち」をこめた手をつくろう（1）

粘土による「手の塊」の表現

1年　組	

簡単にスケッチで描いてみると	1
どんな人物のどんな場面ですか	
どんな気持ちがこもっていますか	

簡単にスケッチで描いてみると	2
どんな人物のどんな場面ですか	
どんな気持ちがこもっていますか	

簡単にスケッチで描いてみると	3
どんな人物のどんな場面ですか	
どんな気持ちがこもっていますか	

簡単にスケッチで描いてみると	4
どんな人物のどんな場面ですか	
どんな気持ちがこもっていますか	

「思い・気持ち」をこめた手をつくろう（2）

中１美術

粘土による「手の塊」の表現

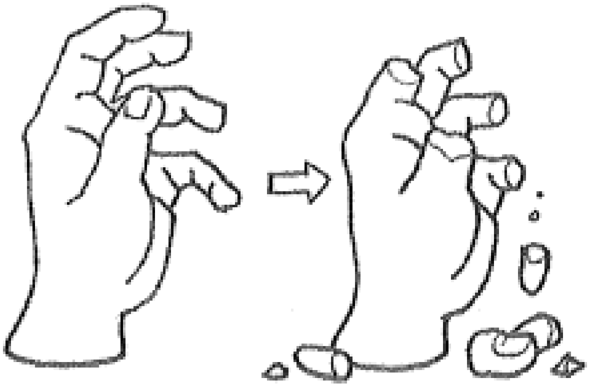
教科書ｐ２０，２１

今回の授業で使う「モデリック粘土」は加工粘土です。塑造に適した粘土で、彫刻の基本的な学習に大変適しています。「乾いても縮みづらい」という特徴があるので、粘土の中に芯材のようなものを入れても、ひび割れは起こしにくくできています。

① 今回は骨格のような「芯材」は使わないので、作品はなるべく**全体として一つの塊**のように作った方が崩れにくいです。

② つまり、**指が飛び出た状態**で造ると、中に骨組みが無いために**折れる**可能性が出てきます。ですので、指は手の本体からなるべく離さずに**一体化させる**方が無難です。

③ しかし、細くて弱そうな箇所にだけ制作の途中で特別に**針金を埋め込む**という方法もあります。



以上の条件をふまえた上で、手のポーズを検討してみましょう。

スケッチで形をとらえる

決めたポーズを、自分の手をモデルにして様々な方向・角度から観察してスケッチしてみよう。

※　１ページに一個、実物大くらいの大きさで描いてみよう

指が飛び出ないポーズは、代表的なものに「握りこぶし」がありますが、それ以外にもまだまだたくさんあります！

全道造形教育研究大会いしかり北広島大会　美術科学習指導案

恵庭市立恵み野中学校　１年３組
（男子１２女子１６計２８名）
２００８年７月２８日（月）
授業者　教諭　野口　裕司

１　題材名　「マイ・マークをつくろう！」　（デザイン・１４時間）
～　「レイアウト（並べる）のデザイン（愛）を読みあおう！」
（相互鑑賞会・１時間）

２　題材について（心育てる題材）

本題材「マイ・マーク」は、下に示した５つの課題で構成している。

マイ マーク	インフォメーションカード（Ｉカード）	自己紹介カード：自分探し。カードのかたちや、しくみは自由といった条件にして、小学校時代に得て来たそれぞれの個の持つトクイワザを生かし、自己紹介の内容を考えながら、自分をみつめる。
	マークデザイン	既存のマークリサーチ、自分のかたち・色を考えたマークアイディア考案、途中交流
	レタリング	日本語・英語のレタリングのやり方と練習
	カラーリング練習	ポスターカラーによる着色練習、水性ペンによる点描練習：着色ノート
	マイ・マーク	レイアウトデザイン、**途中交流（本時）**、ケント紙へのまとめ、文化祭展示

１年生でのこの題材は、小学校の「図画工作」から、中学校での「美術」に替わっての「はじめて」の授業となる。小学校時代に「図画工作」が「好き」な子どもも、「嫌い」な子どももいる中で、ここでの「はじめて」の経験は、その後の美術を通しての教育（Education Through Art）をすすめる上で非常に重要な鍵となる。

この「はじめて」の題材で、最初に教えるのは「デザイン」とは何かという部分で、そこでは「愛」だと、マークデザインについての最初の授業での言葉のやり取りで、子どもたちに気付かせている。（資料１０(1)①参照）

「デザイン」の持つ、本質的な意味の重要な軸とは、他者だけでなく自分も含め、生きていく「社会」を背景に「人」との関わり合いをもって、相手を思いやる「心」で、よりよく工夫するという意識＝「愛」を指し、それを下地にして表され、会話ができる事が、「美術教育におけるデザイン」と考える。（資料１０(1)②参照）

この題材の中での育みたい力は、「人と人とのリレーションをしてゆく力」である。具体的には　「１．楽しむ力、３．つなげる力、５．深める力、８．選び、決める力、９．バランスをとる力、１２．自己理解、１３．他者理解」。３年間通じて行われる美術教育での、子どもたちの作品づくりの本質にあたる重要な下地ともなる。

子どもたちが、自分の作品を嬉しそうに見せてきたり、小さないたずら描きの中からの「先生！あのね！...」といった、発見やつぶやきの部分を大人達が見つけ、会話やうなずきの中から共感して読み取り、子どもに「今見つけたものは正しいんだ！」と思わせる事が、子どもにとっては勇気になり、「好き」になって、生活の中に返ってゆくという、美術教育では重要な部分であると考える。

表面的な上手さのみを認めるのではなく、その前に「心」や「愛」の純粋なあらわれがそこにある事を「受信」し、その事を子どもたちの世界に返し、子どもたちの世界の中で、また、気付きあいながら、その部分を下地にふくらんでゆける場が、美術教育の時間なのではないだろうか。

美術教育はともすれば、技法指導が重要で、専門的で、難しいと捉えられがちだが、そう考えたら、そんなに難しくなく、先生にとっても、子どもにとっても、楽しい時間となるのではないだろうか。（資料１０(2)参照）

今回公開する授業は、自分のマークを人にいかによく伝えるかを考えたレイアウトのアイディアを交流する場面である。この作品制作途中における相互鑑賞の利点は、子ども達の社会の中で、それぞれのアイディアを話したり、聞いたり、見つけたりすることで、自分や相手を知る事ができ、そのことから表現方法を学び、自分の作品にフィードバックできる事である。ともすれば鑑賞は、完成作品で行われる事が多い。それももちろん必要ではあるが、「やりなおせる」時に行わせた方が子どもたちにとってより有効と思われ、特にアイディアを考える場面の途中で入れている。教師はその場に漂いながら、楽しそうに、良かった交流の様子を全体に伝えながら、交流の合間に言葉を入れて、より作品を前にした会話が弾むように空気をつくる。話し合いが進む中と、終わった後での子どもたちの表情と動き、そして教師の立ち位置を見て頂きたく思います。

３　生徒観・指導観

この学年の生徒は、男女の人数的なバランスが不均衡で、４クラスあるうちどの学級も男子：女子が１：２となっている。学習能力は平均的には非常に高い地域だが、それにあてはまらないと考えられる生徒も数名おり、能力的な格差が大きい。また、小学校時代に学級崩壊を経験している生徒もいる。

しかし、全体としては明るく、いろいろな事に対してのやりたい気持ちが高い。なお、４クラスにこの大会の話をしたが、一番参加したいと意欲の高かったのがこのクラスである。（他学級については資料１０(3)参照）

子どもとは、幼ければ幼いほど、純真であり、残酷である。幼さとは、人との社会性の経験値の低さの度合いとも重なる。今回の題材は総時間が１４時間と長時間だが、何かを作り上げる過程を小課題で区切り、経験する事で、ものを作り上げる過程を経験し、かつ、２度の交流会で、それぞれを知り、それぞれを高め、助け合いあいながら、作品と、自分達や自分達の社会性を高めてゆける自己学習力もつけさせたいと考える。

４　題材の目標

- デザインの本質的な意味を知る。
- 自分のマークを制作し、交流し、会話をする事で、自他を理解し、高めあえる。

5　題材の中で育みたい力

		育みたい力	具体的な場面
関心・意欲・態度	1	楽しむ	自分や友人の色やかたちについて楽しんで会話をし、自らいろいろな表現方法を見つけ、それを作品に生かし、使えることを楽しめる。
	2	追求する	色やかたちにこだわって、やり直しや修正を重ねられる。
	3	つなげる	作品をつくる時に一番大事なことは、その中心に「愛」や「心」があるという事をわかり、これ以降の作品制作にも生かせる。
発想・構想の力	4	広げる	色やかたちの持つ意味やその使われ方を、作品例や紹介する話の中からリサーチなどして見つける。
	5	深める	友人との意見交流や、何度もやり直したり、パターンを重ねる事で、作品への思いや作品の質を深める。
	6	見通す	意見交換する中やデザインを修正する中で、どう塗り進めたら良いか考えられる。 小課題を重ねて、最終的に一つの作品になってゆく過程を経験する事で、見通して作品を作り上げる力をつける。
つくりあげる力	7	比べる	マークの中の隣り合う色やかたちを比べて、より良いものにできる。
	8	選び、決める	何パターンか組み合わせたアイディアのなかから、最も自分を表している色とかたちの組み合わせのデザインやレイアウトを決める。
	9	バランスをとる	色や形が美しいかどうか、画面全体の「統一と変化」を考え、自分の作品を調和あるものにしようとする。
	10	使う	基本的な水彩絵の具、ポスターカラー、水性ペンによる点描技法の練習（着色ノート：スケッチブックでの練習）の後、ケント紙へ本番制作。
鑑賞の力	11	感じとる	マークの中にある色やかたちの意味をふまえた上で、それが意味するものを感じる。
	12	自己理解	自分を見つめて、自分のキーワードをみつけつつ、友人の作品から作品に使われた要素の視点に気付き、自分にフィードバックできる。
	13	他者理解	マークに込められた友人の思いを、友人の作品と会話の中から理解する。 優しい気持ちで、作品を高めるアドバイスができる。

6　題材の指導計画

	学　習　内　容	時
題材との出会い	＊教師の自己紹介から、こういう人なんだ！こんな部分が自分の特徴になるのか！という事を学ぶ。 ＊デザインのその本質的な意味、「愛」「人」をそのあり方から理解する。 ＊いろいろなマークの紹介（ナイキのマーク紹介、参考図書紹介：日本のロゴ／成美堂出版、等）から、マークの意味を知り、興味も深める。 ＊色の感情的な意味の紹介（参考図書紹介：マンガでわかる色のおもしろ心理学１・２／サイエンス・アイ新書　私の好きな色５００／文春文庫、色の３要素等、簡単な色のしくみの紹介、等）から、色へ感情的な意味を持つ事ができる。 ＊ 前年度の先輩のマークデザイン作品の紹介（作者のことばも紹介）から、身近な人のマークに込められた思いを知り、どう進めたら良いのかわかる。	1
発想	＊ 自分の周りにあるマークから、そこに何が込められているかリサーチし、伝えたい要素がどう人によく伝えられているか調べ、使われ方を学ぶ。 ＊ 伝えたい自分というものを見つめ、外面的な部分、内面的な部分を文字と絵でできる限り沢山ひねりださせ、自分の要素を書ける。	2
（本時） 発想から構想へ	＊ 人によく自分が伝わるには、自分のどの要素をどのように使ったら良いか考え、色やかたちやレイアウトの様々なパターンをつくり、**相互鑑賞会**で、自分の作品について語り、友人の作品について語る事で表現言語を見つけ、よりよい形を生み出そうとする。（マークデザイン・**レイアウトデザイン（本時）**の２場面で行う。）	2
構想（下がき）	＊ スケッチブックに、最終形態の作品要素である、ポスターカラーによる着色のマーク、水性ペンによる点描のマーク、レタリングによる学校名と自分の名前と、作品についての一言を、まとめさせ、技法練習もする。 ＊ 作品の構成要素をどうレイアウトするか、考えさせ、ケント紙に下がきさせる。	4
表現	＊技法練習を生かしながら、ケント紙上に制作を進める。	4
鑑賞・ふりかえり	＊ 学級カラーの台紙に完成した作品を張り付け、文化祭で展示し、鑑賞する。 ＊ できたマークを利用したポストカードを制作し、実際に投函し、使う。	1

7　教育課程（他の題材とのつながり）

１年生「５分間クロッキー」（かたちのとらえ方や考え方）描き終えた時に次の目標になるような具体的な反省も書かせて、それぞれ言葉を添えて返却している。言葉を添えてゆくと次の反省の中に、生徒の姿を反映したことばが現れ、美術の授業だけでなく生活面など、様々な場面につながる。

１年生「speak hand」（粘土による手の塑像制作）では、自分の手で自分の何を語るかという部分。

２年生「自分のワザを極めよう！」（モダンテクニック）自分の発見した色やかたちを、追求し、活用できる。

３年生「今の私。」（自画像）自分を表現する時にどういう視点から、選び決めれば良いのかわかる。

8　環境

・ 作業過程の状況に応じて、机などの教室体型を変える。

・ 美術室に参考にできる様々な資料を準備し、紹介しつつ興味を持たせ、利用しやすいように環境をつくる。

・ 生徒の言動や行動を見ながら、よい所を評価し、楽しく前向きに進める空気をつくる。

9　本時の学習指導

（１）本時の目標　お互いのレイアウトの考えをわかりあえ、自分にも生かせる。

（２）本時の評価

	育みたい力		評価規準		Bを実現できない生徒への手だて
			B 育みたい具体的な力	A 十分満足できる状況	
関心・意欲・態度	1	楽しむ	人のレイアウトを見て、その多様性を楽しむ。	自分のアイディアを話す事ができ、自分の思いが友人に伝わる。	周りでサポートできるように、上手くいっている班の進め方などを全体の場で紹介する。
	3	つなげる	作品交流などからアイディアの裏にある「愛」を見つけ、自分の作品にも生かす。	交流会が終わった後、友人の作品を理解しつつ、自分の作品を更に良くしようと改善できる。	どんな話し合いになったか聞き、認め、共に改善点を見つける。
発想・構想の力	5	深める	様々なアイディアを自分の作品に生かせる。	作品交流のなかから、自分や級友のキーワードや、自分のマークに使える表現などを見つけ、生かせる。	どんな話し合いになったか聞き、認め、共に改善点を見つける。
つくりあげる力	8	選び、決める	自分のこだわりを持って交流した結果を生かせる。	交流の中で、自分のこだわりのある部分は守りつつ改善できる。	こだわりを認める。
	9	バランスをとる	レイアウトによる見せたいものの順をコントロールできる。	意識してレイアウトを見せたい順でコントロールできる。	小さい枠に何パターンか作らせて比べる。
鑑賞の力	11	感じ取る	友人のレイアウトの意味を理解する。	友人の考える意味をレイアウトから読み取れる。	何が最初に見えてくるかを探す。
	12	自己理解	自分のレイアウトの意味を話す。	自分のレイアウトの意味を話す事で自分のやりたい事を再認識できる。	見せたい順序を考える。
	13	他者理解	友人のレイアウトの意味を知る。	友人の話からそのレイアウトの意味をわかり、意見がいえる。	見せたい順序を尋ねる。

（３）本時の展開

過程（時間）	育みたい力	生徒の活動	教師の働きかけ	備考
課題把握	深める	どんなレイアウトのアイディアかな！ 前時と本時の確認	本時は前時の確認から入り、課題提示 最後に自分のレイアウトデザインを直したり、仕上げたりする時間がある事も確認	前時までで、作品のレイアウト案を取組中。 ワークシート④、⑤
課題解決	見通す	交流会の進め方がわかる。	一人２分間での作品交流。 最初の１分で自分のレイアウトのアイディアを説明し、残り１分で班長が話し合いを進める事を指示。	
	見通す	自分のプレゼン内容確認。	ワークシートで簡単な発表要点 ＊何を見せようとしてこのレイアウトを考えたか？ 等のまとめを指導	事前にプレゼンをどうするかを考えておくように指示済み。
	楽しむ 感じとる 自己理解 他者理解 深める	自分や友人のレイアウトに込めた思いをわかりあえる。 友人のレイアウトの意味を理解する。 自分のレイアウトについて語り、友人のレイアウトの意味を知る。 話し合いの進め方がわかり、アイディア交流が進む。 様々なアイディアを自分の作品に生かせる。	教師で計時しつつ、６回（６人班×５班）意見交換させる。 班長中心に話しやすい空気になるように援助する。 教師はひたすらいい話し合いになっている場面をみつけ、そこを発表の合間に全体で基本的に褒めつつ評価する。	事前に考えていたレイアウトデザイン（ワークシート④）をもとに１分程度のプレゼン。
定着	追求する。 選び、決める。 バランスをとる	やり直しや修正を重ねる。 こだわる部分を意識する。 交流した話を生かしながら見せたい順にコントロールして調整する。	話したり内部分がある場合は継続させて話をさせつつ、自分のデザインを修正や、方眼目盛の入ったワークシートにまとめてるなどの指示を出す。 色鉛筆で色も調整してよいとも指示。	レイアウトデザイン用のワークシート⑥、④ 定規、色鉛筆

１０　資料

(1)　デザインについて

①　第 55 回全道造形教育函館大会で、渡辺保史氏からは、「デザイン」というものは、単なる図案や、色やかたちにとどまらず、文章や、場の空気、イベントなどの人の動き、街づくりなども含め、昨今は、多方面で用いられている。と実践例を示されながら講演され、多くの共感を得ていた。

また、グラフィックデザイナーであり、武蔵野美術大学教授でもある、原研哉氏は著書「デザインのデザイン」（岩波書店刊）のなかで、「今のデザイン」について次のように述べている。

『デザインは単に作る技術ではない。　ー中略ー　むしろ耳を澄まし目を凝らして、生活の中から新しい問いを発見していく営みがデザインである。人が生きて環境をなす。それを冷静に観察する視線の向こうに、テクノロジーの未来もデザインの未来もある。』

②「デザイン」という意味を、「新明解国語辞典第五版」（現在恵み野中学校で生徒が使用している）で引くと、[design=下絵] 設計、図案、意匠　とある。おそらくは大人であっても意味としてはそれか、もしくは色やかたちを工夫して構成する事と答えると思われる。「デザイン」ばかりでなく、「美術」も、ましてや「美術教育」も、それが何かと聞かれた時には、同じような認識のもとで、難しい、自分には理解できない高尚なものといった価値観が、根強くあるものと思われる。

(2)　美術教育の本質について

子ども達の親にあたる３０－４０代の世代の幼小中高の学校での､図工･美術教育のなかで求められた力とは、うまい絵＝写実的な絵＝大人好みの絵　でなかったろうか。専門以外の先生たちからこんな言葉を聞く事がある。

「昔から美術は苦手で、いつも（評定が）１でした。上手く絵が描けなくて。だから、今でも嫌いなんですよ。」

「うまい絵にするために、口を大きく描かせて、手を４５度に曲げさせて、色はこれとこれを使わせて…」

「展覧会に何人入賞させたかが、親は気になるみたいで。入賞させられるような描き方ってありますか？」等々

ある小学生対象の展覧会の審査をしたことがあり、非常に困った記憶がある。学校ごと、或いは学級ごとに同じ絵なのである。でも、１枚だけで見たら、素晴らしい大人好みの作品なのである。「美術」というジャンルのもつ性格上、技術は必要だが、それ以前に大切な部分がある。何を子どもたちに求めるかの軸を見誤ると、絵は上手くとも本当に自分の求めるところに子どもの心は達さずに終わってゆく。それはこどもの作品なのだろうか？　いつか、こういう質問をしてくるかもしれない。「先生、美術って何の役に立つの？意味ないよねえ！」

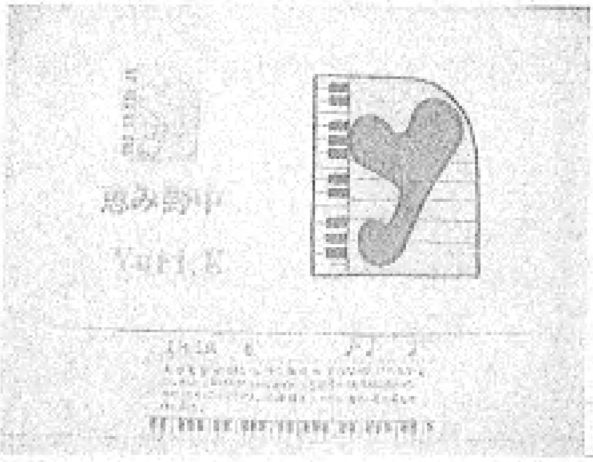
村上隆氏のように「美術」を職とするプロならば、「上手く創る技術」は絶対条件の場合が多く、感性の赴くままに描く事だけでは、受け手に意図が伝わらない事が多い。しかし、「美術教育」では少し違うと思われる。

それは美術教育が、美術のプロを育成することが目的ではなく、美術を通しての教育であり、人と人とを社会の中で結びあう人間性を作り上げる事が目的だからである。子どもの言葉を補う技術は絶対に必要と思われるが、この２つの違いを見誤ると、技術的には素晴らしいが、ことばの無い「製品」ができあがる危険性も多大にある。

(3)　他の学級の生徒の実態

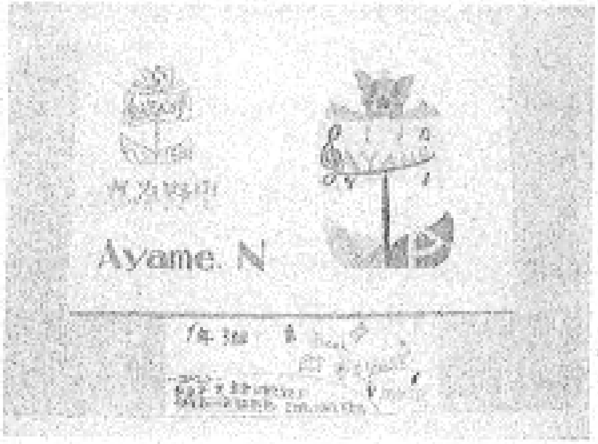
１組は、全体に静かな雰囲気があるが、ちょっとした一言から、取り組むべき内容を理解する能力の高い生徒が多い。２組は、幼い雰囲気の生徒も多いが、明るく素直で自分の姿を出している生徒が多く、作品を前にしての語り合いを一番楽しんでいる。４組は、気が散る生徒も多いが、明るく美術の授業の雰囲気を楽しんでいる生徒も多い。学年全体としては、恵み野という地域性もあるが、美術の授業を楽しみにして前向きに取り組む生徒が多い。

⑷　マイマーク昨年度作品



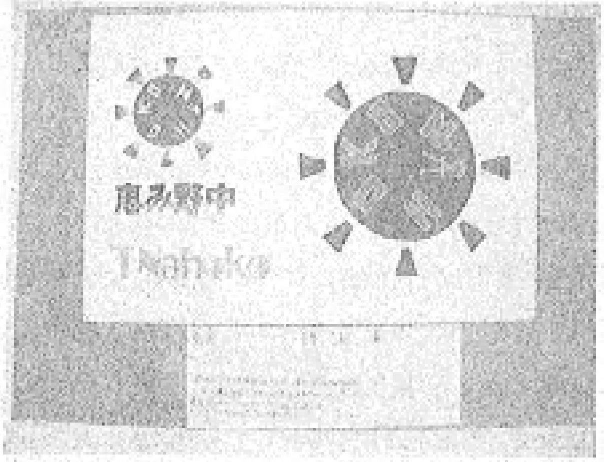
1年1組　番

私は音楽が好きで、特に趣味はピアノなので、ピアノをテーマにしました。自分のイニシャルのYと、ト音記号の下部を組み合わせたのが、工夫したところです。五線譜も入れたり、自分の色を考えて作りました。



1年3組　番　Book　Flower　music

―コメント―
私は本、花、音楽が好きなので
それを取り入れてみました。



名前　　　1年6組　番

1年6組　番 氏名

コメント

・HとJは名前を表している　・Jの点が音符なのは音楽が好きという意味

・HとJが…　サッカーゴールを表している　○は、サッカーボールを表している。

…が細かくて難しく大変だった。しかし、やっていくうちに楽しくなってきた。いい経験だった。

⑸ワークシート

① アイディアをまとめる ワークシート

マイマークをつくろう！ 1年美術

1年　　組　　番　名前＿＿＿＿＿＿＿＿

1、使えそうな絵をディフォルメしてマーク化しよう！

マークに使えそうな絵は？

ディフォルメして、マーク化しよう！ ⇩

・**ディフォルメ**とは、かたちの特徴をとらえ、それを強調するために、かたちを**単純化**したり、**変型**すること。

Point: 色のみでぬりわけられるデザインにしよう。

②マークアイディア 交流用 まとめワークシート

マイマークをつくろう！　1年美術

1年　組　番　名前

下絵セッション　中間相互鑑賞会

自分のプレゼンテーションの自己評価　(A:良くできた B:まあまあ C:あまりよくできなかった。)

(A B C)

友達からのアドバイス・感想

アドバイスを受けて

自分がしたアドバイスと、プレゼンテーションの評価

さん（A B C）

さん（A B C）

さん（A B C）

さん（A B C）

さん（A B C）

さん（A B C）

③マークアイディア交流会用　プレゼン原稿

プレゼンテーション原稿　　　1年　　組　　番　名前：

1、挨拶「(名前：　　　　　)です。よろしくお願いします。」他のメンバー：拍手

2、(マークを見せながら)「このマークの完成目標は、

です。」

3、「このマークでは自分の（選んだ特徴、画面への入れ方など）

というかたちを使ってディフォルメし、マーク化しました。」

①

4、「工夫したり、よく見て欲しい所は

です。」

5、その他、なにかあれば。(色、形、技法などでやってみたい事や、悩みなど)

6、挨拶「以上です。いろいろアドバイスなど頂けたら嬉しいです。」　他：拍手

その後、班長が司会をし、全員から最低一つ以上の具体的なアドバイスを挙げさせる。

②

＊その人とわかるマークになっているか？よいアイディアはあるか？
＊相手の事を考えた具体的なアドバイスである事。
＊ふざけたり、中傷的（人の心を傷つける）な事を言わない事。

③

全員が言い終わったら、まとめと反省のプリント　に沿って、
・本人はアドバイスや感想についてのまとめと、プレゼンについての自己評価。
・他のメンバーは自分の言った意見のまとめと発表者の評価を行う。

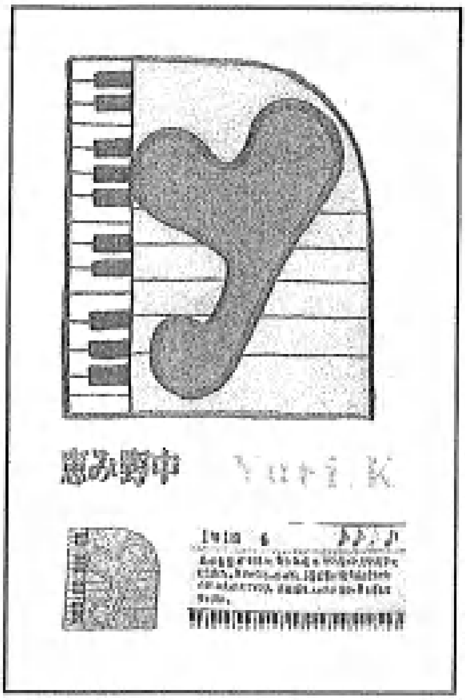
1人分3分でこれを行い全員分繰り返す。

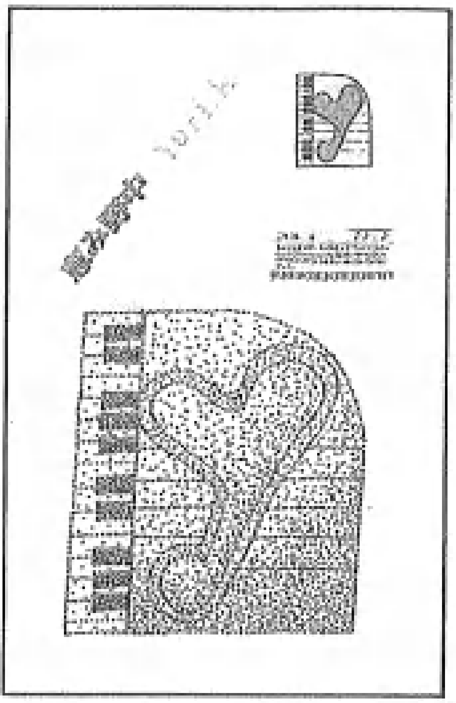
マイ・マーク　レイアウトデザイン　アイディアシート　⑥<前時配布済 ワークシート>

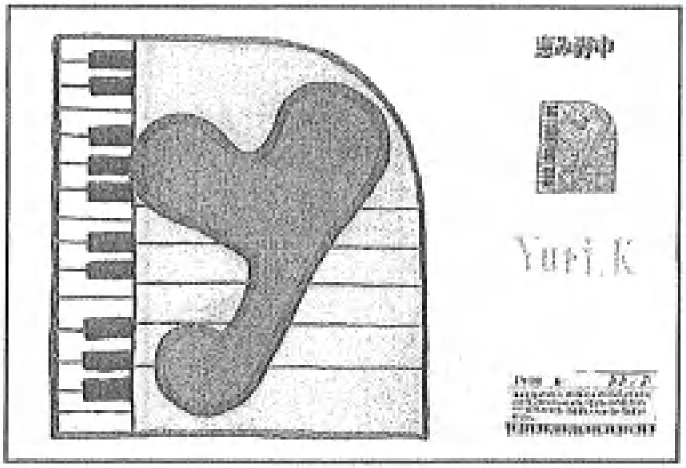
1年　　　組　　　番　氏名	No.

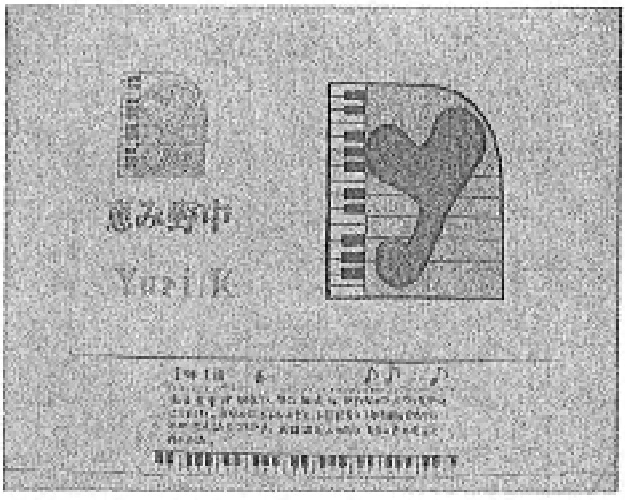
⑤
マイ・マーク　レイアウトデザイン　アイディアシート　〈前時配布済資料〉

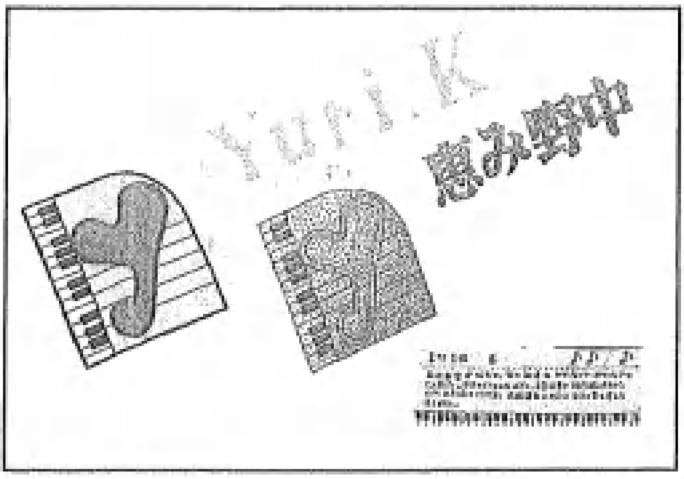
1年　　組　　番　氏名	No.

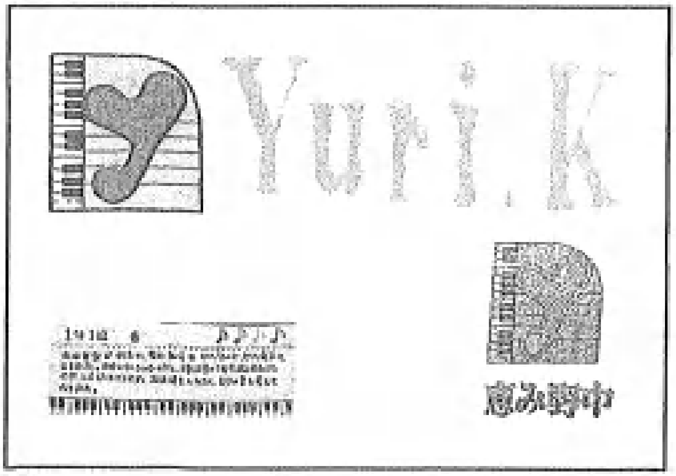












タテ

⑥ まとめ用 ワークシート 〈本時〉

※本時はA4ではなく
B4です。

マイ・マーク レイアウト まとめ用紙

1年 組 番 氏名

⑥

全道造形教育研究大会いしかり北広島大会　美術科学習指導案

北広島市立東部中学校　２年Ａ組
（男子２３女子１５計　計３８名）
２００８年７月２８日（月）
授業者　教諭　山内　菜穂子

１．題材名「　マイ　ハート　」（スクラッチ技法による心象風景・９時間）

２．題材について（心を育てる題材）

中学校２年生では、進級に伴う学級編成での新しい人間関係作りや部活動での指導的立場になるこの時期に、様々に心が揺れ動いて悩み込む生徒が少なくない。「マイ　ハート」は、そのような自分自身の内面や今までの経験を振り返り、様々な「思い」を込め、吐露できる題材である。通常の描法では陰影・黒をかき加えて表現していくのに対し、今回扱うスクラッチ技法は光・白をかき加える逆の表現方法である。

絵画に関しては、今までクロッキーとデッサンを行ったが、心象風景という題材には戸惑いを見せるかもしれない。しかし、周囲に自分という存在をわかってもらいたいという気持ちも随所で見られる。言語による直接的な自己アピールでなく、鑑賞を通じて感じてもらうことが出来るこの表現は、時には予想以上の「思い」が表現されている。

「落書き」的に言葉や形で自分の人生を思い返させ、それを級友と交流して自信を持たせたり、教師によるアドバイスの場面も設定して、自分の短所だけを指摘することのないように留意する。また、写実的な表現の追求で終わることがないように、作品例から構図の工夫や簡単な形でも、「思い入れ」の度合いによって変化が出しやすい複数の用具と削りスケールを準備する。

生徒によって異なる「様々な思い」を繊細な優しさの表現・スピード感や迫力がある表現・灯のようなほのかな光などで表現していくが、黒（闇）に白（光）を表現していくスクラッチ技法は、解決を願い、光を求める表現にふさわしい描法でもある。そのことが自己理解をさらに深めることにつながっていくと考える。

３．生徒観・指導観

本校生徒は決められている事象には真面目に取り組むが、表現力に乏しいと日常生活全般で言われることがある。美術の始業時の５分間人物クロッキーや作品完成後の石膏デッサンにおいても、明るく興味を持って取り組んでおり、級友の表現方法を参考にして、さらに自分らしく表現したいという意欲を強く持っている生徒も多い。完成作品の鑑賞でも気に入った作品には素直に感動している。

本学年の美術の各題材名には、何らかの「思い」を込められるようにと、「自分らしい

・願いのこもった２文字レタリング」「コラージュでテーマに合わせてモダンテクニックのまとめ」「使う人に　手作りの楽しみ」を取り組んできた。

本題材には多くの表現方法があるが、逐一指導するのではなく生徒作品のコピーや画像を参考作品として見せて、「マイ　ハート」により近いものを見つけさせたり、込められているものに気づかせたい。下絵に関しては、写実的な形にこだわりすぎないようにさせ、デザインの既習内容も取り入れ、変形・ゆがみ・重なり・組み合わせなどを工夫させる。

しかし、スクラッチ技法は削った後の完全な修正ができないので、削りの初期段階には形の線をなぞらせないように指導はする。

４．題材の目標

・自分自身の存在を考え「マイ　ハート」を見える形として表現することができる。

・黒のスクラッチボードに「思い」を込めて、光・あかりをかくことができる。

・自分や級友の作品について、興味を持って鑑賞することができる。

５．題材の中で育みたい力

		育みたい力	具体的な場面
関心意欲態度	1	楽しむ	「マイ　ハート」を形として表すことを楽しむ。
	2	追求する	「マイ　ハート」を粘り強く表現していく。
	3	**つなげる**	**これまで学んできたことを表現に生かそうとする。** **「マイ　ハート」の表現で学んだことを、次で生かそうとする。**
発想構想の力	4	広げる	下絵づくりのため、さまざまな場面から考えを出す。
	5	**深める**	**「マイ　ハート」によりふさわしくなるよう、構図や削り方を工夫する。**
	6	見通す	完成までの時間的な見通しや作業の積み重ね方を意識して活動する。
つくりあげる力	7	比べる	タッチや白さの違いで、印象が異なることを感じとる。
	8	選び、決める	「マイ　ハート」を表現するのにふさわしい技法を選び、決める。
	9	バランスをとる	「思い入れ」の強さや度合いに応じて明暗のバランスをとる。
	10	**使う**	**「マイ　ハート」の表現にふさわしい用具を選び、削りの効果を生かす。**
鑑賞の力	11	感じとる	作品の背景にあることを意識し、作品のよさを感じる。
	12	**自己理解**	**自分と向き合い、完成作品だけでなく途中の心の揺れを含めて、今の自分を好きになる。**
	13	他者理解	尊重の気持ちで級友の作品に接する。 作品と解説から級友の気持ちを感じとる。

６．題材の指導計画

		学　習　内　容	時
題材との出会い		過去の生徒作品を鑑賞し、「マイ　ハート」の表現の特徴に気づく。 自分という存在を考えて、心を見える形に表すことを理解する。 作家作品（教）日文上Ｐ１０、１１、３８、３９・（資）秀学社Ｐ１０８、１０９から、現実をそのまま描いた以上の迫力の出し方を理解する。	1
発想		自分自身の内面・経験を思い返し、「落書き」的な言葉や絵を使いてアイデアスケッチをする。 デザインの既習内容を用いて、「マイ　ハート」を様々な角度から表現する。	1
構想（下がき）		コラージュの要領で構図を工夫したり、「マイ　ハート」の強く表現したい部分を決定し、構想を下絵としてまとめる。 スクラッチボードにカーボン紙を使用して転写する。	2.5
表現練習		削りの練習とスケールづくり。	0.5
表現	＜本時＞	「マイ　ハート」の表現にふさわしい削りをスケールから選択して、白さ・光・タッチを工夫して表現していく。	1
		バランスを確認したり描法を工夫しながら、「マイ　ハート」の追求をする。	2
鑑賞会		自分の作品を解説・アピールし、級友の作品からは気持ちを読み解き、讃え合う。	1

７．教育課程（他の題材とのつながり）

1学年・「自分らしい・願いのこもった２文字レタリング」　自分の希望や願い、自分らしさを意識した言葉を明朝体・ゴシック体で表現。
　・直線で曲線や曲面を表現する。
　・「自然物からの構成」押し葉の形からおもしろさ、美しさを見いだし、変形後に構成する。
　・「コラージュでテーマに合わせて　モダンテクニックのまとめ」技法練習を１つのイメージに基づいてコラージュでまとめる。

２学年・「使う人に　手作りの楽しみ」遊ぶ人を想定して遊具をデザインして仕上げる。
　・「マイ　ハートを引き立てる額縁制作」全員の（ハート）を見させていただく。

３学年・「自画像」自分を見つめる。

８．環境

・美術室に　ＷＡＴＣＨ　ＷＡＴＣＨ２の準備
・管内移動絵画展・市内移動絵画展の校内鑑賞
・校内夏冬休みの作品展での、全校生徒の作品鑑賞
・完成作品の廊下展示

・学校祭後の作品廊下展示
・生徒会活動による季節行事飾り「桃の節句　端午の節句　七夕　クリスマス」
・生徒の作品や取り組みに応じて、自己肯定につながる言葉を投げかける。

9．本時の学習指導

（1）本時の目標　マイ ハートの表現にふさわしい削りを、スケールから選択して白·光タッチで表現していく。

（2）本時の評価（受信･･･生徒の心や頭の中で何が起きているのか）

	育みたい力		評価規準		Bを実現できない生徒への手だて
			B　育みたい具体的な力	A　充分満足できる状況	
関心意欲態度	3	つなげる	自己評価表にまとめることができる。	自己評価表を活用し、「マイ ハート」を表現するため、具体的に取り組む。	スケールの削りを組み合わせることを助言する。
発想構想の力	6	見通す	削りのスケールを元に仕上がりをイメージする。	「マイ ハート」の白・光によりふさわしい表現方法をスケールや用具から多様にイメージする。	1番表現したいことを確認させ、それに合わせる表現を意識させる。
つくりあげる力	7	比べる	下絵にスケールを合わせて異なる削りの場合の印象の違いを感じる。	点描、線の粗密による白・光の違いを表現に生かすことが出来る。	どのような「マイ ハート」かを再度確認させ、参考作品から近いものを気づかせる。
	9	バランスをとる	離れてみて全体のバランスを確認する。	作品とスケールを離れてみて、全体のバランスを修正する。	一緒に作品から離れてみて、表現意図と合わせて考えさせる。
	10	使う	「マイ ハート」の表現にふさわしい用具を選んで使う。	「マイ ハート」の表現のために、用具を選択して、全体のバランスを意識して取り組む。	必要に応じて再度削りの練習を行う。
鑑賞の力	11	感じ取る	級友の作品を興味を持って見ることができる	級友の作品を意図と表現方法を関連づけて鑑賞する。	参考作品を使って、「マイ ハート」がどのように表現されているかを意識させる。

（３）本時の展開

過程	育みたい力	生徒の活動	教師の働きかけ	備考
課題把握 (10)	つなげる 見通す	スクラッチボード、記入したものを確認	自己評価で前時の確認 スクラッチボード　テーマ　タイトル	光・・朝日　午前昼 夕方　夜　夜明け あかり　灯
		課題：　「マイ　ハート」に光をかこう		
課題解決 (35)	見通す	「思い入れ」にあわせて目指す仕上がり、目標を記入する。 ・１番中心の部分の確認。 ・どんな感じにしたいか。 ・削りスケールから選ぶ。	仕上げの具体的な構想。	スケール ハッチング　クロスハッチング　グラデーション　平行線
	比べる 感じ取る	参考作品を、自分の作品に生かす。	目指す仕上がりの確認。	前回使用した参考作品のOHPと掲示。移動鑑賞も可。
	比べる	輪郭線の削りの有無での印象を比較する。	輪郭の線の扱いの注意。	削り前半に輪郭を削らない。オリジナルと輪郭追加作品比較
	使う	下絵転写済みのスクラッチボードに決定した表現技法で削りだす。	用具選択をさせて削り作業の開始。（待ち針　ニードル　カッターの刃先　カッターの広い面　紙ヤスリ　マスキングテープ　ティッシュ）	削り練習や白色鉛筆での練習も可。
	バランスをとる	作品とスケールを比べる。	離れて作品をみて、全体のバランスを確認。	
	感じ取る	級友の削りのよさを感じる。	白・光の削りの途中交流を促す。	「見せてくださいTIME」移動可
定着 （５）	つなげる	授業を振り返り、自己評価表に記入する。	自己評価の記入指示と、次時予告。	

１０．資料

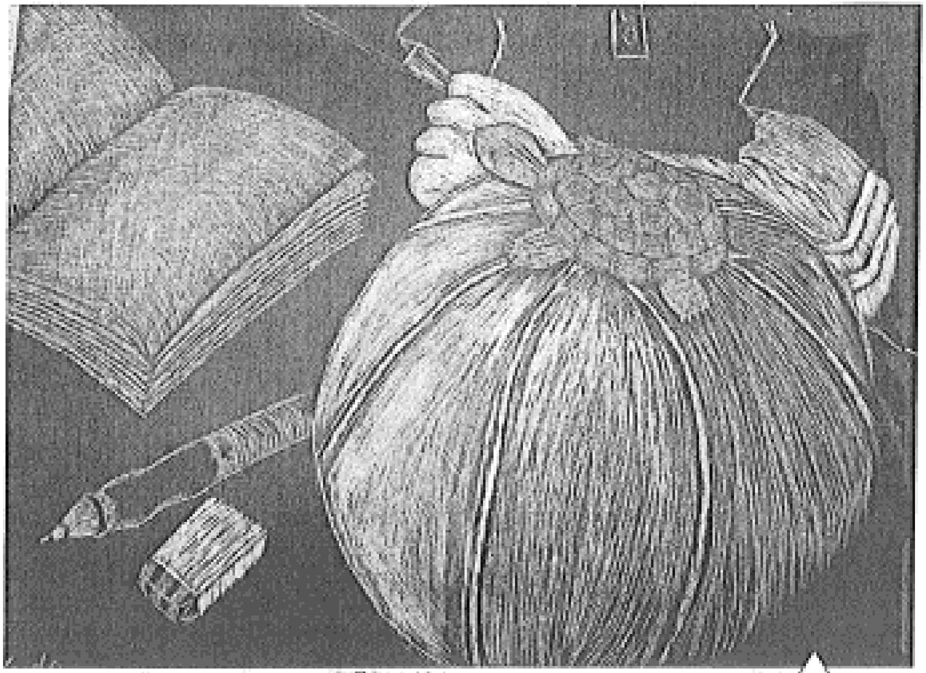
下の４項目を意識して、参考作品を鑑賞してみよう。

マイ ハート　　スクラッチ作品の表現方法の例			
仕上がりの感じ	白黒のバランス	線	光・立体感
例 ①グラデーションの繊細な柔らかい感じ ②スピード感が表れる感じ ③暗さの中に「思い」が強く輝いて目立っている感じ ④迫力ある線が目立つ感じ ⑤１番表現したい部分を強く目立たせたい	例 ⑥作品が白すぎない黒すぎない ⑦柔らかい線の白さとすごく暗いコントラストの表現 ⑧全体的に明るいがたくさんの異なった白がある表現 ⑨全体的には暗さが強い表現	例 ⑩定規を使用した堅い線 ⑪曲線を組み合わせる ⑫太さの変化がある線 ⑬点の粗密	例 ⑭輪郭の削りの線がなくても、立体感が表現できている ⑮光や影の表現ができていて立体感がわかる ⑯物は平面的だけど重なりで立体感を表現する ⑰削りの方向の違いで立体感を表現する

年間使用中　自己評価表の形式

回数	月日	準備	授業内容目標	発想・計画したこと	表現で意識したこと訴えたいこと	次回頑張りたいこと	評価
1							
2							
3							
4							

生徒達の マイ ハート



2　この作品のタイトルは

3　この作品で　自分の心の

というところを表現しようとしました。

4　スクラッチの作業では　（どんな雰囲気

を考えて削りの工夫をしました。

5　作品で　一番頑張った部分と　見て欲しいところは

～の部分です。

輪郭線
を
削らない

2　かめさんのぼうけん

3　とろい自分　→　かめ

部活　→　バスケットボール

勉強　→　ノートと勉強用具など

4　明るい所と暗い所　線の向き

5　ノートを削るのを頑張った。　かめを見て欲しい。

落書き的にかく　マイハート　（言葉　と　簡単な絵）

1

楽しかったこと：体育の授業　特に　バレー、器械体操

好き・心引かれること：友達と話すこと

悲しかったこと・むかっとしたこと：おばあちゃんが亡くなったこと。

性格：自分では　まじめ　と思う

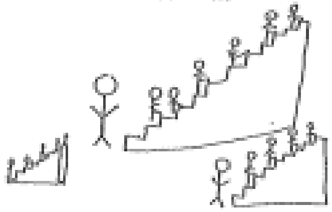
趣味：体育系　器械体操　バドミントン　など

氏名／生年月日／星座：ふたご座／血液型　A　型

許せないこと：旅行、特にうなぎのつくるもの。

夢 Dream：決まっていない

アイデアスケッチコーナー　何か思いついたら　かいてみよう



1つ1つ階段を登る

自由に！　似顔絵もOK！　何に対するコメントもOK！　小さな絵をかいてもイイ！

2

好き・心引かれること：
- 寝ること
- 自由時間にふれること
- おいしい食べ物を食べること

楽しかったこと：
- 6年生の修学旅行
- みんなで全道に行ったこと
- 体育祭
- リアムに行ったこと

悲しかったこと・むかっとしたこと：
- 全道大会で負けたこと
- テストでいい点数を取れなかったこと
- 旅行で沖縄に行くけど インフルエンザにかかったこと。

性格：自分では　元気な人　と思う／ひとには　おもしろい人　とよく言われる

趣味：野球をすること。体を動かすこと。昼寝　テレビを見ること

氏名／生年月日／星座：おうし座／血液型　A　型

許せないこと：勉強。特に社会。

夢 Dream：全国大会で沖縄に行くこと。

アイデアスケッチコーナー　何か思いついたら　かいてみよう

自由に！　似顔絵もOK！　何に対するコメントもOK！　小さな絵をかいてもイイ！

3

好き・心引かれること：友達と話す!! パソコンをする!! 友だちと話す!! 買い物!! 以上。

楽しかったこと：友達とかに行ったこと。旅行したこと。欲しかったものが買えたこと。

悲しかったこと・むかっとしたこと：母親に怒られたこと。自分が気にくわないこと。

性格：自分では　地味　と思う／ひとには　妄想族でアホ　とよく言われる

趣味：
- パソコンいじり
- お絵かき
- 音楽をきく

氏名／生年月日／星座：おうし座／血液型　B　型

許せないこと：動物を粗末にする!! あの世で屋上まる!! そんなことしたら失礼します。

夢 Dream：人に必要とされる人になる。

アイデアスケッチコーナー　何か思いついたら　かいてみよう

自由に！　似顔絵もOK！　何に対するコメントもOK！　小さな絵をかいてもイイ！

4

好き・心引かれること：音楽を聞くこと　友達と話をすること　寝る　好きなことを考える

楽しかったこと：
- 夏休み　冬休み
- 海
- 旅行
- ディズニーランド、シー

悲しかったこと・むかっとしたこと：
- 旅行をやめた事
- 友達との関係がくずれたこと

性格：自分では　うるさい・アホ　と思う／ひとには　アホ・明るい・活発　とよく言われる

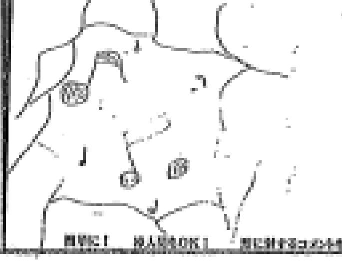
趣味：
- メールをすることだ
- 音読
- 音楽を聞く
- 友だちとの会話

氏名／生年月日／星座：ひつじ座／血液型　型

許せないこと：勉強一般（英語・社会…）

夢 Dream：芸能人関係の仕事・保育士・東京に住む

アイデアスケッチコーナー　何か思いついたら　かいてみよう



自由に！　似顔絵もOK！　何に対するコメントもOK！　小さな絵をかいてもイイ！

タイトル「立ち向かう人　　　」

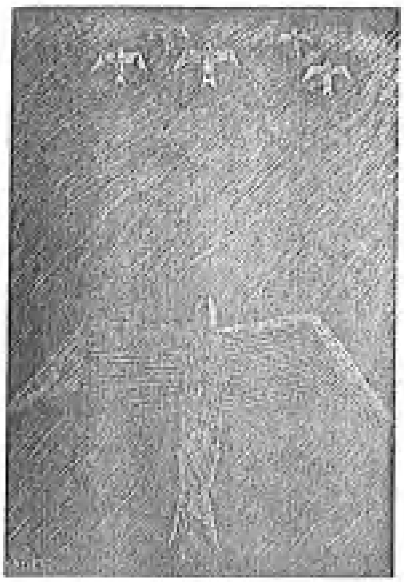
くわしく書けない人用	どんなことや困ったことでも、ぶつかっていける強い人になりたいという気持ち。 なにか決心をしたような表情。
くわしく書ける人用	

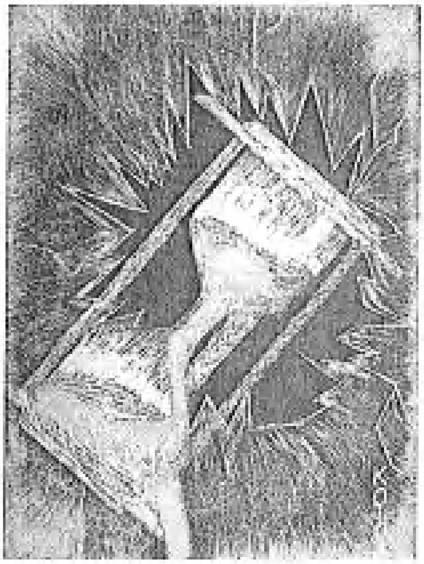
削りの
（１）白黒（明るい－暗い）の変化、コントラストはどう表現したか
目とあごのひっこみぐあいをたて、よこ、ななめの線で表現した。ほおの高さを出すのに全体的にたての線でけずった。
制服のてかりぐあい。
（２）題目の表現で意図的に作業したことはどんなことか
ちょっとうつむいたかんじがするけど、そこにまだ答えがみつかっていないような不安を表現した。だから、目の黒目には何もかかなかった。

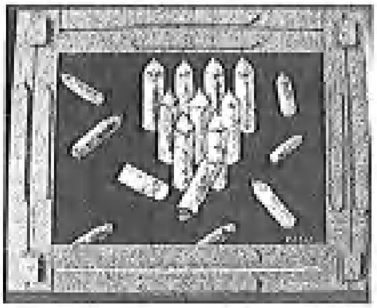
タイトル「やさしい人だと思ってほしいから」

くわしく書けない人用	
くわしく書ける人用	初めは、いろいろ、自分の顔がコンプレックスみたいなのを出そうと思ってたけど、やってるうちに、なんかテーマが変わってしまった。 今の私が表現できたと思う

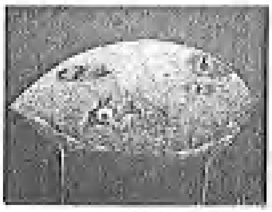
削りの
（１）白黒（明るい－暗い）の変化、コントラストはどう表現したか
顔が明るいので、白黒の変化はあんまり大きくないけど、
全体を考えて、顔は明るくしました。　消性的で[illegible]
（明暗ランス）　（いまの自分）　スクラッチボードではできない[illegible]
（２）題目の表現で意図的に作業したことはどんなことか　顔の線は　わざと入れなくて
[illegible]影のようで平面な[illegible]　ぬりまくりました。
かんじを出したかった。
大自然大[illegible]…　　これは[illegible]

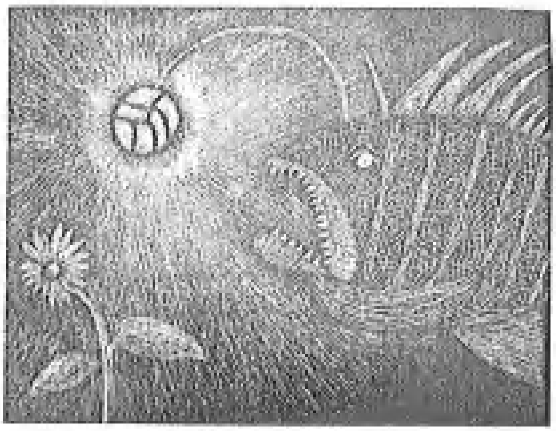


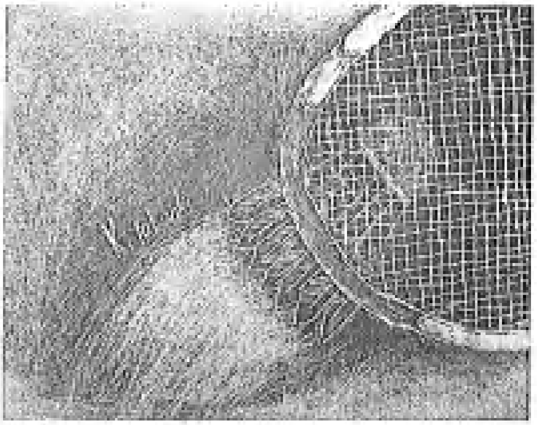
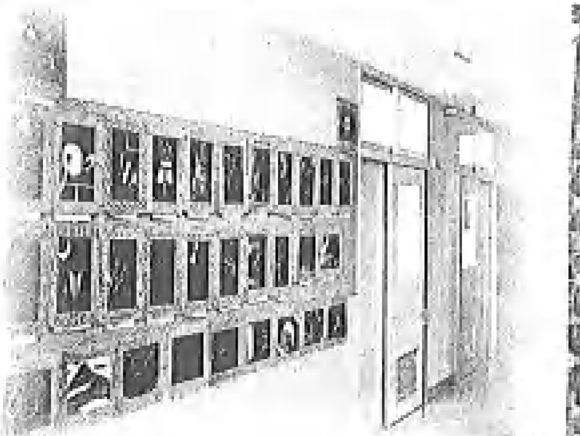
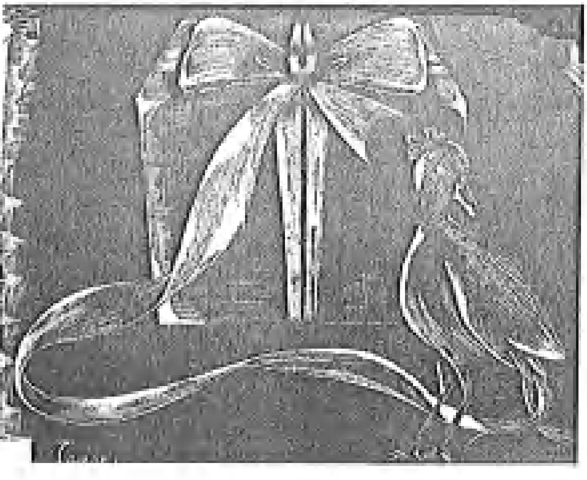




額をつくり展示







廊下に展示